

**名古屋市社会福祉協議会**  
**高齢者・共生型サロン実態把握調査**  
**報告書**

令和4年3月

社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会



# 目 次

はじめに	1
<b>第1編 統計データ編</b>	
<b>第1章 基本指標</b>	2
(1) 人口	2
(2) 要支援・要介護者数の推移	5
<b>第2章 ふれあい・いきいきサロン設置状況</b>	7
(1) ふれあい・いきいきサロンの区別設置把握数	7
(2) サロン設置年度推移	8
(3) 区ごとのサロン設置状況	9
<b>第3章 ふれあい・いきいきサロン活動状況</b>	25
(1) サロンの担い手内訳	25
(2) サロン会場の内訳	26
(3) サロンの開催頻度	27
<b>第2編 サロンアンケート編</b>	
<b>序論 調査の概要</b>	28
(1) 調査の目的	28
(2) 調査の概要	28
(3) 報告書の見方	28
<b>第1章 サロン代表者とボランティアのプロフィール</b>	29
(1) サロンの開催地区	29
(2) サロンの開始年月	30
(3) サロンの運営母体	31
(4) 代表者の年齢	32
(5) ボランティアの登録人数	32
(6) ボランティアの平均参加者数	34
<b>第2章 サロンの概要</b>	35
(1) サロン会場の種別	35
(2) サロンの開催頻度	36
(3) サロン1回あたりの所要時間	37
(4) サロン参加者の男女比	38
(5) サロン参加者の平均年齢	38
(6) サロン1回あたりの参加費	39
<b>第3章 新型コロナウイルス感染症拡大後のサロン運営</b>	40
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大後のサロンの運営状況	40
(2) 活動を中止していた期間	41
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大後に始めた取組	42
(4) サロン活動の代替として行った取組	43
(5) サロンのオンライン実施を想定した場合の状況	44
(6) サロン開催の可否の決め方	45
(7) 感染症拡大以前と比較した平均参加者数の変化	46
(8) サロン参加者に対する連絡手段	47
(9) 感染症拡大以前と比較したサロンプログラムの変化	48
(10) 感染症拡大を経てサロン活動を実施してよかったこと	49
(11) 今後の運営意向	50
(12) 参加者の困りごと発見・解決に向け取り組んでいること	51
<b>第4章 サロンの経費や助成制度</b>	52
(1) 1回開催あたりの必要経費	52
(2) サロン開催費用の内容	53
(3) 感染症予防対策にかかった費用	54

(4) サロンの運営費（収入）の状況	55
(5) 利用している助成金や補助金	56
<b>第5章 サロン活動の効果及び今後の支援策</b>	<b>58</b>
(1) サロン活動の参加者への効果	58
(2) サロン活動のサロンへの効果	59
(3) 今後の発展のために必要だと思うこと	60
(4) 感染症拡大を経験して必要だと感じる支援	63
<b>第6章 地域共生社会について</b>	<b>65</b>
(1) 「地域共生社会」の認知度	65
(2) 「地域共生社会」の実現に向けて	66
(3) サロン運営について日ごろ感じていることについて	67
<b>第7章 参加者のプロフィール</b>	<b>70</b>
(1) サロンの開催地区	70
(2) 参加者の性別	71
(3) 参加者の年齢	71
(4) 参加者の家族構成	72
(5) 参加者の介護保険認定の有無	72
(6) 収入を得る仕事	73
(7) 現在の健康状態	73
(8) 地域内で参加している活動	74
(9) 新型コロナウイルス感染症拡大以前に地域内で参加している活動	75
<b>第8章 参加しているサロンについて</b>	<b>76</b>
(1) サロン会場までの徒歩による片道移動時間	76
(2) サロンに参加する理由	77
(3) サロン参加年数	81
(4) サロン参加費	82
(5) サロンに対する満足度	84
(6) サロンに関する情報等の連絡方法	86
<b>第9章 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について</b>	<b>89</b>
(1) 新型コロナウイルス感染症拡大のサロン参加への影響	89
(2) サロン閉鎖時の過ごし方	91
(3) 感染防止対策としてサロンに望むこと	94
(4) オンラインサロン開催時の対応	98
<b>第10章 サロン休止中に感じたこと</b>	<b>100</b>
(1) サロン休止中に感じたこと	100
<b>第11章 日常の行動や感じていること</b>	<b>102</b>
(1) 今後のサロン活動に必要なこと	102
(2) 困りごとの相談相手	107
(3) 日ごろ感じていることについて	111
<b>第12章 調査票</b>	<b>114</b>
(1) サロン代表者向けアンケート	114
(2) サロン参加者向けアンケート	119
<b>第3編 今回の調査のまとめ サロンの事業効果及び新型コロナウイルス感染症拡大対策</b>	
<b>第1章 サロン活動の効果</b>	<b>122</b>
(1) サロンに参加することによる効果	122
(2) 参加者がサロンに参加する理由	124
<b>第2章 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロン活動への影響</b>	<b>125</b>
(1) 活動状況	125
(2) サロン活動開催判断について	127
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大時のサロン活動内容について	128
<b>第3章 今後のサロン活動について</b>	<b>135</b>

---

---

## はじめに

---

---

「ふれあい・いきいきサロン活動」は、平成12年度に介護保険制度が施行され、公的サービスが拡充されるなかで、高齢者や障がい者、子育て中の親子などの方々が、身近な場所で気軽に仲間づくりや生きがいがづくりを進め、地域でいつまでもいきいきと暮らせることを目指す住民主体の交流活動として全国的に発展・拡充されてきた取り組みです。

わたしたち名古屋市・区社会福祉協議会も平成15年度から高齢者サロンの開設時に5万円を上限として助成を行う「ふれあい・いきいきサロン推進事業」を創設し、平成17年度からは子育てサロンや障がい者サロン、共生型サロンへ助成対象を拡大するなど、市内の幅広い世代を対象としたサロン活動の支援を行うとともに、サロン実践者向けの「研修・交流会」を開催するなど、サロン活動の普及・促進にも取り組んできました。

また、「介護予防・日常生活支援総合事業」が本格実施され、高齢者サロンや共生型サロンは、高齢者の孤立感や孤独感の解消、介護予防など様々な効果があるとされ、また身近な地域の社会参加の場で参加者とボランティアとが一緒になって企画をし、住民主体で運営をしていくという点で助け合いのある地域づくりにつながると言われています。そして、社会福祉法が改正され、地域共生社会の実現に向けて、改めて地域の中で様々な人が集まる居場所の整備や困りごとを早期に発見するためには“気かけあう”地域づくりが大切だと言われ、サロン活動は重要な地域福祉活動のひとつとして、より一層の発展・拡充が求められています。

こうしたなかで、名古屋市・区社会福祉協議会では、平成27年度から名古屋市より「高齢者サロンの整備等生活支援推進事業」を受託するとともに、各区社協を「サロンなんでも相談所」と位置付けて、市内における多様なサロン活動の支援に取り組んでいます。

しかしながら、令和2年2月頃より新型コロナウイルス感染拡大により、地域福祉活動の自粛を余儀なくされ、サロン活動の休止や、開催方法の変更など、これまで通りに開催することが難しい日々が続いています。

そこで、コロナ禍でのサロンの運営ボランティア・参加者の現状や参加後の変化、サロン活動上での課題・要望などを把握し、安心してサロン活動が推進できる取り組みや支援等について検証することを目的に「高齢者・共生型サロン実態把握調査」を実施し、今後サロンの整備等推進をより一層効果的・効率的に進めるため、その調査結果を広く関係者の皆様に報告することとしました。

本報告書が多くの皆様に活用され、サロン活動のますますの活性化に向けた様々な取り組みの参考となれば幸いです。

最後に、本報告書の作成にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

令和4年3月  
社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会

※ 以下の表中の数値は、小数点以下などを四捨五入で処理しているものが含まれるため、表記上の内訳と合計等が一致しない場合があります。

(1) 人口

① 名古屋市の人口の状況

名古屋市の人口は、平成17年から一貫して増加し続けており、令和2年には2,332,176人となりました。近年は増加傾向にやや落ち着きが見られます。

年齢3区分別（14歳以下、15歳～64歳、65歳以上）の人口推移を見ると、14歳以下の年少人口は一貫して減少傾向にあります。15歳～64歳の生産年齢人口はやや増加傾向にあります。65歳以上の高齢者人口比率を見てみると、平成17年18.4%から令和2年には25.3%と一貫して増加し続けており、令和2年には590,048人となっています。

図表 1-1-1 名古屋市の人口の推移

年	総人口 (人)	0～14歳 (人)	15～64歳 (人)	65歳以上 (人)	65歳以上 (人)		高齢化率 (%)
					65～74歳 (人)	75歳以上 (人)	
平成17年	2,215,062	293,405	1,492,010	408,558	237,000	171,558	18.4%
平成22年	2,263,894	289,642	1,463,977	471,879	256,719	215,160	20.8%
平成27年	2,295,638	282,497	1,429,795	545,210	286,856	258,354	23.7%
平成28年	2,304,794	282,397	1,429,460	554,801	285,936	268,865	24.1%
平成29年	2,314,125	281,992	1,432,006	562,879	282,888	279,991	24.3%
平成30年	2,320,361	281,260	1,432,719	568,280	280,151	288,129	24.5%
令和元年	2,327,557	279,745	1,438,048	571,692	274,407	297,285	24.6%
令和2年	2,332,176	277,393	1,464,735	590,048	278,433	311,615	25.3%



出典：国勢調査、平成28年～令和元年は名古屋市統計年鑑

## ② 区別の高齢者の状況

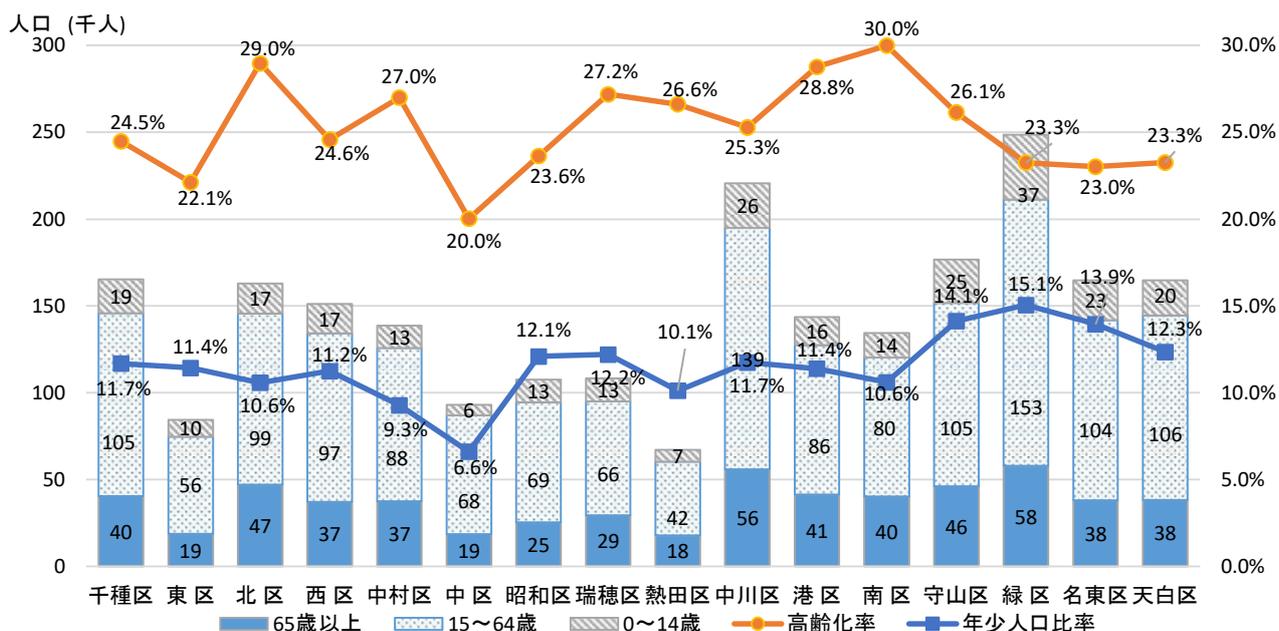
令和2年現在の区別の人口を見ると東区、中区、昭和区、瑞穂区、熱田区以外の11区で高齢者が3万5千人を超えています。

高齢化率で見ても、全ての区で高齢化率が20%を上回っており、北区、中村区、瑞穂区、熱田区、中川区、港区、守山区の7区では高齢化率が25%を上回っており、さらに南区では、高齢化率が非常に高く30%を上回っています。

年少人口比率では緑区が15.1%、守山区が14.1%となっていますが中村区、中区においては10%を下回っています。また、全ての区で高齢化率が年少人口比率を上回っています。

図表1-1-2 区別の人口

	人口	0～14歳(人)	15～64歳(人)	65歳以上(人)	高齢化率(%)	年少人口比率(%)
全 市	2,332,176	277,393	1,464,735	590,048	25.3%	11.9%
千種区	165,245	19,293	105,491	40,461	24.5%	11.7%
東 区	84,392	9,645	56,076	18,671	22.1%	11.4%
北 区	162,956	17,228	98,522	47,206	29.0%	10.6%
西 区	151,082	16,983	96,957	37,142	24.6%	11.2%
中村区	138,599	12,854	88,324	37,421	27.0%	9.3%
中 区	93,100	6,145	68,316	18,639	20.0%	6.6%
昭和区	107,599	13,015	69,160	25,424	23.6%	12.1%
瑞穂区	108,332	13,212	65,667	29,453	27.2%	12.2%
熱田区	66,957	6,774	42,362	17,821	26.6%	10.1%
中川区	220,728	25,899	139,015	55,814	25.3%	11.7%
港 区	143,715	16,364	86,007	41,344	28.8%	11.4%
南 区	134,510	14,261	79,900	40,349	30.0%	10.6%
守山区	176,587	24,936	105,482	46,169	26.1%	14.1%
緑 区	248,802	37,454	153,485	57,863	23.3%	15.1%
名東区	164,755	22,981	103,839	37,935	23.0%	13.9%
天白区	164,817	20,349	106,132	38,336	23.3%	12.3%



出典：令和2年国勢調査確定値（令和2年10月1日時点）  
※人口には年齢不詳を含む

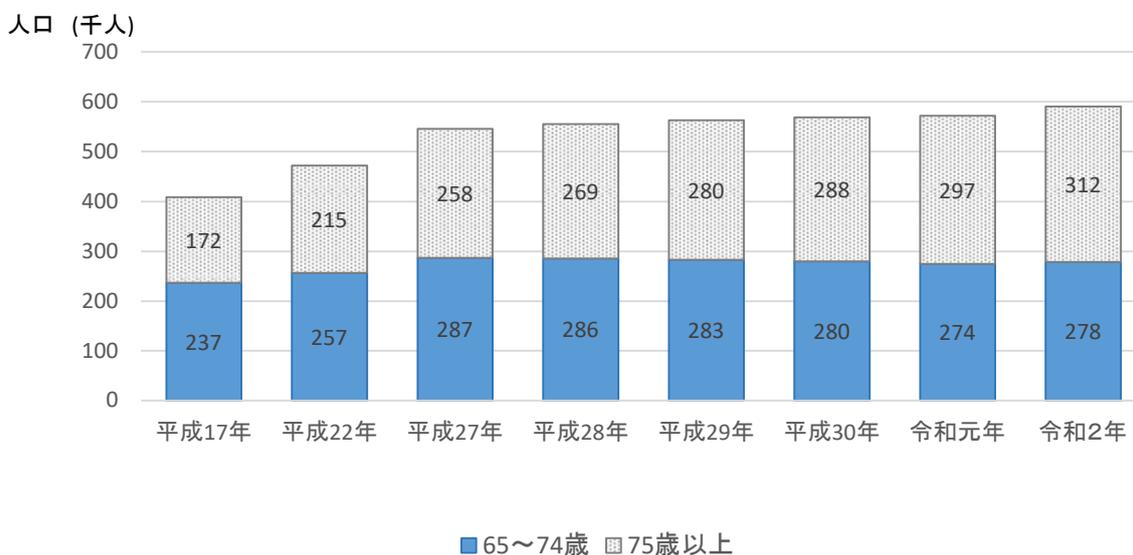
### ③ 高齢者人口の推移

高齢者人口の推移を見ると、高齢者は一貫して増え続けており、団塊の世代が高齢者として分類され始める平成23年頃にとりわけ大きく増加し、令和2年には590,048人になっています。

令和2年時点の高齢者人口の内訳をみると、平成17年から65～74歳は約4万人の増加に対して、75歳以上の人口は14万人増加しています。

図表 1-1-3 人口動態の推移

		65歳以上		
		65～74歳	75歳以上	
平成	17年	408,558	237,000	171,558
	22年	471,879	256,719	215,160
	27年	545,210	286,856	258,354
	28年	554,801	285,936	268,865
	29年	562,879	282,888	279,991
	30年	568,280	280,151	288,129
令和	元年	571,692	274,407	297,285
	2年	590,048	278,433	311,615



出典：国勢調査及び名古屋市統計年鑑  
※各年10月1日現在

## (2) 要支援・要介護者数の推移

### ① 市内の要支援・要介護者の状況

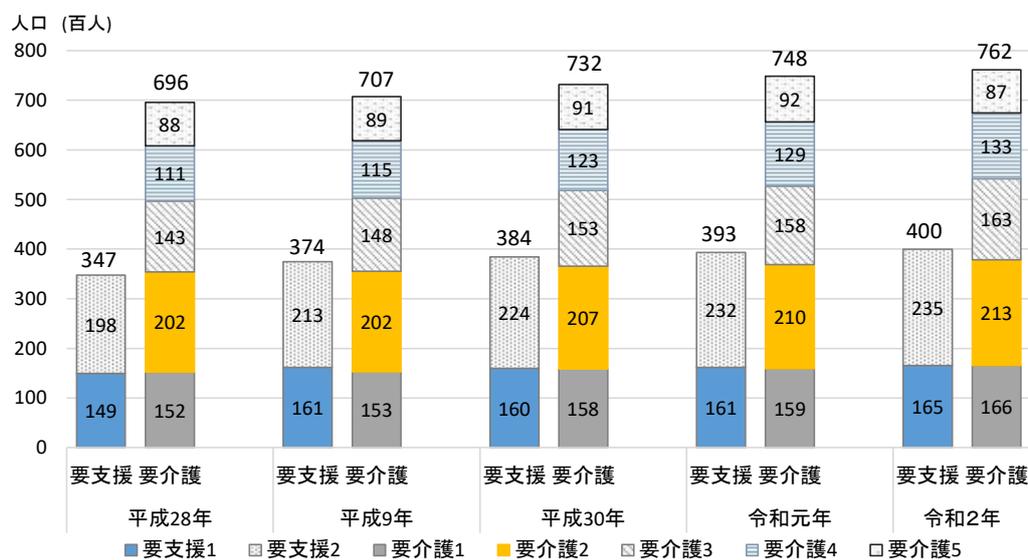
要支援、要介護者は、平成28年以降一貫して増加しており、令和2年度末には116,173人まで増加しています。

令和2年度末時点での要介護度別の状況を平成28年と比較すると、要支援1は約1.11倍に、要支援2は約1.18倍に、要介護1は約1.09倍に、要介護2は約1.05倍に、要介護3は約1.14倍に、要介護4は約1.19倍と、増加しています。一方、要介護5は平成28年から令和元年までは増加傾向にありましたが、令和2年には減少に転じています。

図表 1-1-4 市内要支援・要介護者数の状況

各年度末（人）

年度	要 支 援			要 介 護					総 計	
	小 計	1	2	小 計	1	2	3	4		5
平成 28	34,749	14,925	19,824	69,603	15,164	20,239	14,310	11,136	8,754	104,352
29	37,447	16,125	21,322	70,710	15,280	20,227	14,791	11,539	8,873	108,157
30	38,419	16,000	22,419	73,207	15,838	20,713	15,284	12,275	9,097	111,626
令和 元年	39,319	16,110	23,209	74,893	15,884	21,029	15,831	12,905	9,244	114,212
2	39,990	16,526	23,464	76,183	16,551	21,322	16,283	13,296	8,731	116,173



出典：名古屋市健康福祉年報（令和2年）

## ② 区別の要支援・要介護者の状況

令和2年度時点での区別の要支援・要介護者の状況を見てみると、要支援では中川区が最も多く3,324人となっており、熱田区が1,181人と最も少なくなっています。

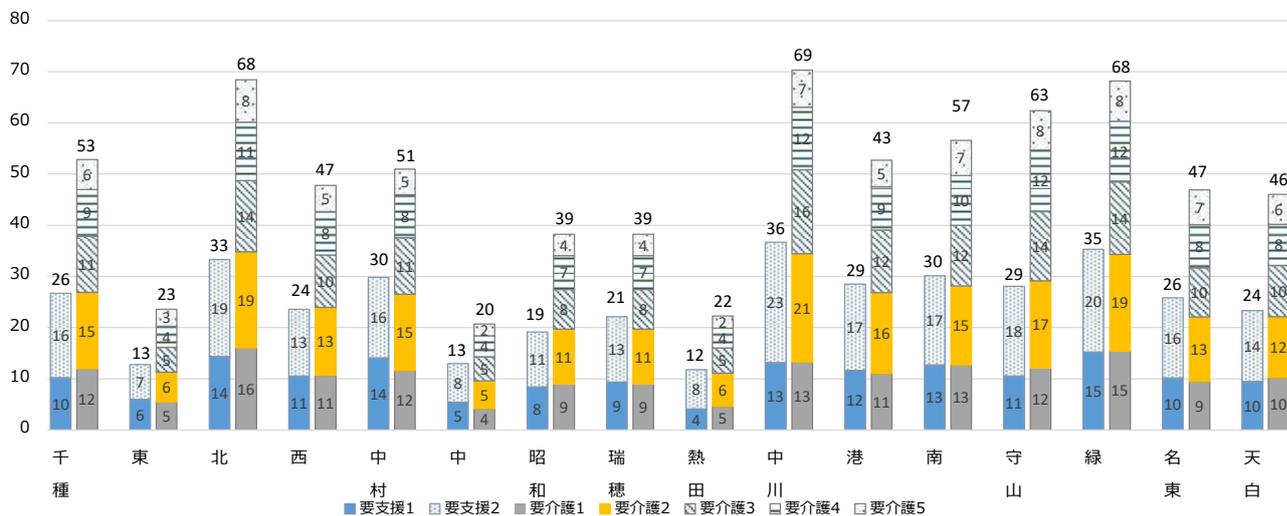
要介護では、中川区が6,519人と最も多く、中区が1,916人と最も少なくなっています。

また、各区の要支援・要介護者数を、各区の人口で除した比率で見ると、南区が6.0%と最も高く、次いで中村区が5.8%となっています。また、中区が3.6%と最も比率が低く、次いで緑区が3.8%と低くなっています。

図表 1-1-5 区別要支援・要介護者の状況

区	要 支 援			要 介 護						総 計	要支援・要介護人口比率
	小 計	1	2	小 計	1	2	3	4	5		
千種	2,689	1,191	1,498	4,705	1,104	1,323	958	770	550	7,394	4.5%
東	1,205	555	650	2,200	444	601	454	395	306	3,405	4.2%
北	3,043	1,283	1,760	6,198	1,331	1,815	1,280	990	782	9,241	5.6%
西	2,251	1,033	1,218	4,368	1,016	1,243	896	712	501	6,619	4.4%
中村	2,819	1,322	1,497	5,033	1,078	1,530	1,038	811	576	7,852	5.8%
中	1,277	598	679	1,916	467	505	344	360	240	3,193	3.6%
昭和	1,886	850	1,036	3,437	856	999	658	548	376	5,323	4.9%
瑞穂	2,191	1,009	1,182	3,487	767	970	735	567	448	5,678	5.3%
熱田	1,181	454	727	2,140	415	624	505	361	235	3,321	5.0%
中川	3,324	1,138	2,186	6,519	1,217	1,932	1,504	1,088	778	9,843	4.5%
港	2,462	1,050	1,412	4,833	1,011	1,513	1,081	732	496	7,295	5.1%
南	2,793	1,206	1,587	5,391	1,227	1,492	1,111	878	683	8,184	6.0%
守山	2,432	973	1,459	5,586	1,119	1,550	1,137	992	788	8,018	4.6%
緑	3,151	1,370	1,781	6,094	1,321	1,772	1,307	914	780	9,245	3.8%
名東	2,544	1,138	1,406	4,265	893	1,154	852	692	674	6,809	4.1%
天白	2,199	955	1,244	4,538	1,014	1,204	931	729	660	6,737	4.1%

人口 (百人)



出典：名古屋市健康福祉年報（令和2年）

## 第2章

## ふれあい・いきいきサロン設置状況

### (1) ふれあい・いきいきサロンの区別設置把握数

市内のふれあい・いきいきサロンは令和3年12月現在で1,937か所あり、区別で見ると緑区が最も多く217か所、次いで南区が154か所、港区で153か所あります。

また、各種事業別で見ると、共生型は南区で最も多く60か所、次いで緑区が51か所、天白区で42か所となっており、高齢者では緑区が最も多く124か所、次いで港区が97か所、西区が86か所、障がい者では天白区で最も多く6か所、次いで緑区で3か所となっています。子育てサロンでは、緑区が最も多く39か所、次いで南区で35か所、中川区と名東区でそれぞれ30か所となっています。

高齢者1,000人あたりの高齢者・共生型サロン数では、東区、中区、昭和区、熱田区、港区、緑区の6区が、それぞれ3を上回っています。千種区と天白区は2を割り込んでいます。

表1-2-1 ふれあい・いきいきサロン区別設置把握数（社協調べ）

令和3年12月現在

	共生型	高齢者	障がい者	子育て サロン	合計	高齢者1,000 人あたりの高 齢者・共生型 サロン数
千種	26	48	2	18	94	1.83
東	30	32	1	18	81	3.32
北	32	72	2	29	135	2.20
西	16	86	0	27	129	2.75
中村	28	81	0	29	138	2.91
中	18	38	1	14	71	3.00
昭和	16	61	0	27	104	3.03
瑞穂	41	24	2	14	81	2.21
熱田	30	36	1	14	81	3.70
中川	39	79	1	30	149	2.11
港	27	97	1	28	153	3.00
南	60	59	0	35	154	2.95
守山	35	69	1	25	130	2.25
緑	51	124	3	39	217	3.02
名東	8	79	1	30	118	2.29
天白	42	31	6	23	102	1.90
計	499	1016	22	400	1937	2.57

※「高齢者千人あたりの高齢者・共生型サロン数」算出にあたり  
使用した65歳以上人口は国勢調査確定値 令和2年10月時点の数値

## (2) サロン設置年度推移

ふれあい・いきいきサロン設置数は年々増加しており、サロン設置数調査初年度の平成15年10月では100か所でしたが、令和3年12月には1,937か所と約19倍となっています。

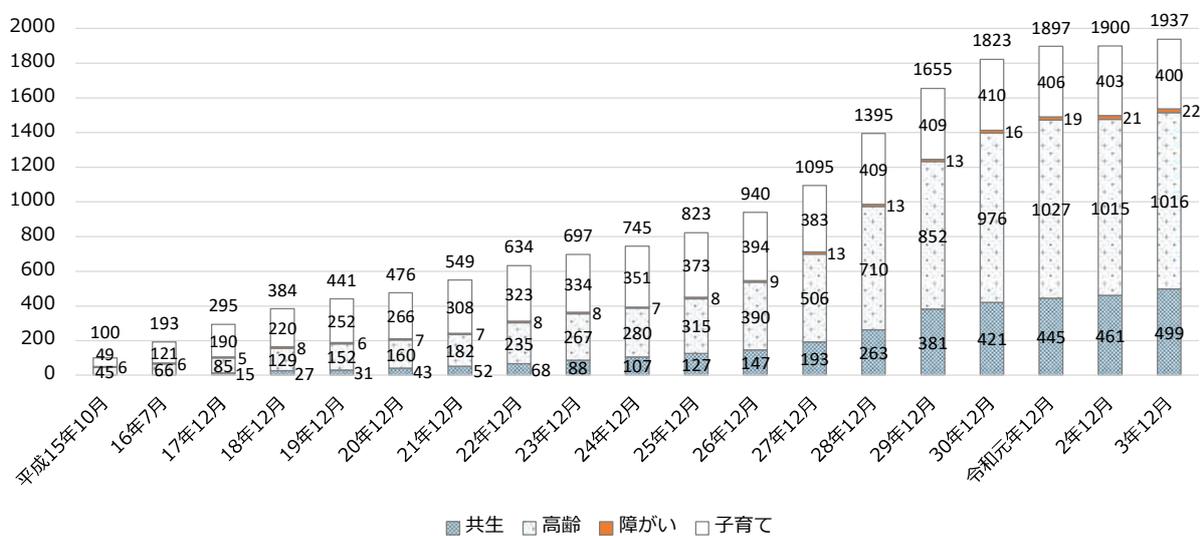
事業別では、令和3年12月時点で共生型は499か所あり、平成17年12月と比較して約33倍に、高齢型は令和3年12月で1016か所あり、調査開始時点と比較して約23倍になっています。共生型・高齢型ともに、年々増加しています。

障がい者は令和3年12月で22か所あり、調査開始時点と比較して約3.7倍になっています。子育てサロンは、平成30年12月で410箇所と最も多く、令和3年12月には400か所と、やや減少傾向にあります。

図表 1-2-2 ふれあい・いきいきサロン設置年度推移（社協調べ）

	共生	高齢	障がい	子育て	合計
平成15年10月	-	45	6	49	100
16年7月	-	66	6	121	193
17年12月	15	85	5	190	295
18年12月	27	129	8	220	384
19年12月	31	152	6	252	441
20年12月	43	160	7	266	476
21年12月	52	182	7	308	549
22年12月	68	235	8	323	634
23年12月	88	267	8	334	697
24年12月	107	280	7	351	745
25年12月	127	315	8	373	823
26年12月	147	390	9	394	940
27年12月	193	506	13	383	1095
28年12月	263	710	13	409	1395
29年12月	381	852	13	409	1655
30年12月	421	976	16	410	1823
令和元年12月	445	1027	19	406	1897
2年12月	461	1015	21	403	1900
3年12月	499	1016	22	400	1937

サロン設置数の推移



### (3) 区ごとのサロン設置把握状況

#### ① 千種区のサロン設置把握状況

千種区では94か所のうち、共生型26か所、高齢者48か所、障がい者2か所、子育てサロンが18か所あります。

学区別では、田代学区が最も多く14か所、次いで富士見台学区12か所と続いており、サロンのない学区はありません。開催場所が複数学区とされているサロンは2か所ありました。

事業別では、共生型は高見学区、田代学区及び富士見台学区で最も多くそれぞれ4か所、高齢者では田代学区が最も多く8か所、次いで富士見台学区、千代田橋でそれぞれ6か所、子育てサロンでは見付学区で最も多く3か所となっています。

表 1-2-3 千種区のサロン設置把握状況

令和3年12月現在

千種区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	千種	0	3	0	1	4
	千石	1	0	0	0	1
	内山	0	1	0	1	2
	大和	2	4	0	2	8
	上野	3	5	0	1	9
	高見	4	3	1	1	9
	春岡	2	1	0	1	4
	田代	4	8	0	2	14
	東山	1	1	0	1	3
	見付	1	2	1	3	7
	星ヶ丘	1	2	0	1	4
	自由ヶ丘	1	2	0	2	5
	富士見台	4	6	0	2	12
	宮根	1	2	0	0	3
	千代田橋	1	6	0	0	7
	複数学区	0	2	0	0	2
合計		26	48	2	18	94

## ② 東区のサロン設置把握状況

東区では81か所のうち、共生型30か所、高齢者32か所、障がい者1か所、子育てサロンが18か所あります。

学区別では、旭丘学区が最も多く12か所、次いで筒井学区及び矢田学区がそれぞれ11か所、明倫学区及び砂田橋学区が10か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は砂田橋学区で最も多く5か所、次いで東白壁学区及び葵学区でそれぞれ3か所と続いており、高齢者では筒井学区、旭丘学区及び矢田学区が最も多く6か所、次いで明倫学区で4か所、子育てサロンでは旭丘学区及び明倫学区で最も多く、それぞれ3か所となっています。

表 1-2-4 東区のサロン設置把握状況

令和3年12月現在

東区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	東桜	2	3	0	1	6
	山吹	3	1	0	2	6
	東白壁	4	2	0	2	8
	葵	4	1	1	1	7
	筒井	3	6	0	2	11
	旭丘	3	6	0	3	12
	明倫	3	4	0	3	10
	矢田	3	6	0	2	11
	砂田橋	5	3	0	2	10
合計		30	32	1	18	81

### ③ 北区のサロン設置把握状況

北区では135か所のうち、共生型32か所、高齢者72か所、障がい者2か所、子育てサロンが29か所あります。

学区別では、金城が最も多く16か所、次いで味鋤学区15か所と続いています。また、中味鋤学区ではサロンは把握されていません。

事業別では、共生型は金城学区及び東志賀学区で最も多く5か所、高齢者では味鋤学区が最も多く10か所、次いで大杉学区及び金城学区がそれぞれ7か所と続いています。子育てサロンでは清水学区が最も多く5か所あり、次いで金城学区が4か所となっています。

表1-2-5 北区のサロン設置把握状況

令和3年12月現在

北区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	六郷	1	4	1	1	7
	六郷北	1	2	0	1	4
	飯田	2	4	1	3	10
	宮前	2	3	0	1	6
	名北	1	4	0	0	5
	辻	0	3	0	1	4
	杉村	0	5	0	2	7
	大杉	1	7	0	1	9
	清水	2	3	0	5	10
	金城	5	7	0	4	16
	東志賀	5	2	0	1	8
	城北	0	3	0	2	5
	光城	3	2	0	1	6
	川中	3	6	0	0	9
	味鋤	2	10	0	3	15
	西味鋤	2	2	0	0	4
	中味鋤	0	0	0	0	0
	楠	0	1	0	1	2
	如意	0	2	0	1	3
	楠西	2	2	0	1	5
合計		32	72	2	29	135

#### ④ 西区のサロン設置把握状況

西区では129か所のうち、共生型16か所、高齢者86か所、障がい者0か所、子育てサロンが27か所あります。

学区別では、山田学区が最も多く16か所、次いで城西学区が15か所と続いています。また、南押切学区ではサロンは把握されていません。開催場所が複数学区とされているサロンは2か所ありました。

事業別では、共生型は山田学区で最も多く5か所、高齢者では城西学区が最も多く12か所、次いで稲生学区で10か所、子育てサロンでは庄内学区で最も多く4か所となっています。

表1-2-6 西区のサロン設置状況

令和3年12月現在

西区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	那古野	1	2	0	0	3
	幅下	0	2	0	2	4
	江西	0	2	0	1	3
	城西	1	12	0	2	15
	榎	2	1	0	1	4
	南押切	0	0	0	0	0
	栄生	0	4	0	1	5
	枇杷島	0	6	0	1	7
	児玉	0	2	0	1	3
	上名古屋	2	7	0	2	11
	庄内	2	8	0	4	14
	稲生	1	10	0	1	12
	山田	5	9	0	2	16
	平田	0	4	0	1	5
	比良	0	1	0	2	3
	大野木	0	2	0	1	3
	浮野	0	6	0	1	7
	比良西	1	5	0	1	7
	中小田井	1	3	0	1	5
	複数学区	0	0	0	2	2
合計		16	86	0	27	129

⑤ 中村区のサロン設置把握状況

中村区では138か所のうち、共生型28か所、高齢者81か所、障がい者0か所、子育てサロンが29か所あります。

学区別では、中村学区が最も多く18か所、次いで米野学区が15か所と続いています。また、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は中村学区、牧野学区及び八社学区で最も多くそれぞれ4か所、高齢者では中村学区が最も多く12か所、次いで日吉学区で10か所、子育てサロンでは米野学区で最も多く7か所、次いで稲西学区が3か所と続いています。

表 1-2-7 中村区のサロン設置状況

令和3年12月現在

中村区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	日比津	2	6	0	2	10
	諏訪	0	3	0	1	4
	稲葉地	2	9	0	1	12
	稲西	0	4	0	3	7
	中村	4	12	0	2	18
	豊臣	0	2	0	2	4
	本陣	1	3	0	0	4
	則武	0	2	0	0	2
	亀島	3	1	0	2	6
	新明	0	2	0	1	3
	六反	1	1	0	1	3
	牧野	4	1	0	1	6
	米野	3	5	0	7	15
	日吉	1	10	0	0	11
	千成	2	8	0	2	12
	柳	0	5	0	1	6
	岩塚	1	5	0	2	8
	八社	4	2	0	1	7
	複数学区	0	0	0	0	0
合計		28	81	0	29	138

## ⑥ 中区のサロン設置把握状況

中区では71か所のうち、共生型18か所、高齢者38か所、障がい者1か所、子育てサロンが14か所あります。

学区別では、橘学区が最も多く14か所、次いで老松学区が10か所と続き、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は新栄学区、老松学区及び橘学区が最も多くそれぞれ3か所、高齢者では橘学区が最も多く8か所、次いで老松学区及び正木学区でそれぞれ5か所と続いています。子育てサロンでは新栄学区、老松学区、大須学区及び橘学区が最も多くそれぞれ2か所となっています。

表1-2-8 中区のサロン設置状況

令和3年12月現在

中区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	名城	0	1	0	0	1
	御園	1	1	0	1	3
	栄	2	4	0	1	7
	新栄	3	3	0	2	8
	千早	0	2	0	1	3
	老松	3	5	0	2	10
	大須	2	3	0	2	7
	松原	1	3	0	1	5
	橘	3	8	1	2	14
	平和	1	3	0	1	5
	正木	0	5	0	1	6
	複数学区	2	0	0	0	2
合計		18	38	1	14	71

⑦ 昭和区のサロン設置把握状況

昭和区では104か所のうち、共生型16か所、高齢者61か所、障がい者0か所、子育てサロンが27か所あります。

学区別では、松栄学区が最も多く22か所、次いで御器所学区17か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は松栄学区で最も多く5か所、次いで御器所学区で3か所と続いており、高齢者では、松栄学区が最も多く13か所、次いで御器所学区で10か所、子育てサロンでは松栄学区、御器所学区、白金学区及び八事学区で最も多く4か所、次いで鶴舞学区が3か所と続いています。

表 1-2-9 昭和区のサロン設置状況

令和3年12月現在

昭和区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	松栄	5	13	0	4	22
	御器所	3	10	0	4	17
	村雲	2	3	0	2	7
	白金	0	2	0	4	6
	鶴舞	0	3	0	3	6
	吹上	2	6	0	1	9
	広路	0	4	0	1	5
	川原	1	6	0	1	8
	伊勝	0	6	0	1	7
	滝川	2	5	0	2	9
	八事	1	3	0	4	8
合計		16	61	0	27	104

### ⑧ 瑞穂区のサロン設置把握状況

瑞穂区では81か所のうち、共生型41か所、高齢者24か所、障がい者2か所、子育てサロンが14か所あります。

学区別では、堀田学区が最も多く12か所、次いで高田学区、弥富学区、陽明学区及び汐路学区で9か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は高田学区で最も多く7か所、次いで堀田学区および陽明学区でそれぞれ6か所と続いており、高齢者では、堀田学区が最も多く5か所、次いで穂波学区、弥富学区及び汐路学区でそれぞれ3か所、障がい者サロンでは弥富学区で2か所、子育てサロンでは井戸田学区、豊岡学区及び弥富学区で2か所把握されています。

表1-2-10 瑞穂区のサロン設置状況

令和3年12月現在

瑞穂区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	御劔	3	2	0	1	6
	高田	7	1	0	1	9
	堀田	6	5	0	1	12
	穂波	3	3	0	1	7
	井戸田	2	0	0	2	4
	瑞穂	2	1	0	1	4
	豊岡	1	2	0	2	5
	弥富	2	3	2	2	9
	中根	4	2	0	1	7
	陽明	6	2	0	1	9
	汐路	5	3	0	1	9
合計		41	24	2	14	81

⑨ 熱田区のサロン設置把握状況

熱田区では81か所のうち、共生型30か所、高齢者36か所、障がい者1か所、子育てサロンが14か所あります。

学区別では、白鳥学区が最も多く17か所、次いで船方学区が14か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は白鳥学区で最も多く8か所、次いで旗屋学区で7か所と続いており、高齢者では、船方学区が最も多く10か所、次いで大宝学区で8か所、子育てサロンでは高蔵学区で最も多く3か所、次いで旗屋学区、白鳥学区、野立学区及び大宝学区がそれぞれ2か所と続いています。

表1-2-11 熱田区のサロン設置状況

令和3年12月現在

熱田区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	高蔵	2	6	0	3	11
	旗屋	7	3	0	2	12
	白鳥	8	6	1	2	17
	千年	3	1	0	1	5
	船方	3	10	0	1	14
	野立	3	1	0	2	6
	大宝	3	8	0	2	13
	複数学区	1	1	0	1	3
合計		30	36	1	14	81

⑩ 中川区のサロン設置把握状況

中川区では149か所のうち、共生型39か所、高齢者79か所、障がい者1か所、子育てサロンが30か所あります。

学区別では、荒子学区が最も多く21か所、次いで赤星学区が11か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は荒子学区で最も多く6か所、次いで西中島学区及び赤星学区で4か所と続いており、高齢者では、荒子学区が最も多く12か所、次いで昭和橋学区で6か所、子育てサロンでは野田学区及び荒子学区で最も多くそれぞれ3か所、次いで戸田学区及び千音寺学区がそれぞれ2か所と続いています。

表1-2-12 中川区のサロン設置状況

令和3年12月現在

中川区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	野田	2	3	0	3	8
	常磐	1	2	0	1	4
	愛知	1	2	0	1	4
	広見	1	3	0	1	5
	露橋	2	3	0	1	6
	八熊	3	3	0	1	7
	八幡	2	4	0	1	7
	玉川	2	3	0	1	6
	昭和橋	1	6	0	1	8
	篠原	1	4	0	1	6
	荒子	6	12	0	3	21
	中島	0	4	0	1	5
	西中島	4	1	0	1	6
	正色	3	2	0	1	6
	五反田	2	4	0	1	7
	豊治	0	3	0	1	4
	戸田	1	4	0	2	7
	春田	0	4	0	1	5
	明正	0	2	1	1	4
	千音寺	1	3	0	2	6
	赤星	4	6	0	1	11
	万場	1	0	0	1	2
	長須賀	0	0	0	1	1
	西前田	1	1	0	1	3
合計		39	79	1	30	149

### ⑪ 港区のサロン設置把握状況

港区では150か所のうち、共生型27か所、高齢者97か所、障がい者1か所、子育てサロンが28か所あります。

学区別では、港楽学区が最も多く14か所、次いで東築地学区及び福田学区でそれぞれ12か所と続いています。サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は西築地学区で最も多く4か所、次いで東築地学区及び成章学区でそれぞれ3か所と続いており、高齢者では、大手学区が最も多く9か所、次いで港楽学区、西福田学区及び福田学区でそれぞれ8か所、子育てサロンでは港楽学区が最も多く4か所、次いで東築地学区、中川学区、港西学区、福田学区及び福春学区でそれぞれ2か所と続きます。

表 1-2-13 港区のサロン設置状況

令和3年12月現在

港区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	東築地	3	7	0	2	12
	中川	0	7	0	2	9
	東海	1	4	0	1	6
	成章	3	3	0	1	7
	大手	0	9	0	1	10
	港西	2	2	0	2	6
	稲永	0	3	0	1	4
	野跡	1	3	0	0	4
	小碓	1	4	1	1	7
	正保	0	2	0	1	3
	明德	2	2	0	1	5
	当知	0	5	0	1	6
	西築地	4	3	0	1	8
	港楽	2	8	0	4	14
	高木	1	4	0	1	6
	神宮寺	2	7	0	1	10
	南陽	0	3	0	1	4
	西福田	1	8	0	1	10
	福田	2	8	0	2	12
	福春	2	3	0	2	7
	不明	0	2	0	1	3
合計		27	97	1	28	153

⑫ 南区のサロン設置把握状況

南区では154か所のうち、共生型60か所、高齢者59か所、障がい者0か所、子育てサロンが35か所あります。

学区別では、笠寺学区が最も多く17か所、次いで呼続学区で14か所と続いています。サロンのない学区はありません。開催場所が複数学区とされているサロンは3か所ありました。

事業別では、共生型は笠寺学区で最も多く9か所、次いで道徳学区、呼続学区及び白水学区でそれぞれ6か所と続いており、高齢者では、明治学区が最も多く8か所、次いで呼続学区及び笠寺学区で6か所、子育てサロンでは伝馬学区、笠寺学区及び大生学区で最も多くそれぞれ4か所、次いで豊田学区が3か所と続いています。

表 1-2-14 南区のサロン設置状況

令和3年12月現在

南区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	明治	4	8	0	1	13
	伝馬	3	5	0	4	12
	豊田	4	5	0	3	12
	道徳	6	1	0	1	8
	呼続	6	6	0	2	14
	大磯	2	2	0	1	5
	桜	4	3	0	2	9
	菊住	3	4	0	1	8
	春日野	4	1	0	1	6
	笠寺	9	6	0	2	17
	星崎	1	5	0	2	8
	笠東	0	3	0	4	7
	大生	1	4	0	4	9
	宝	1	1	0	1	3
	宝南	2	1	0	1	4
	白水	6	0	0	1	7
	千鳥	3	1	0	1	5
	柴田	1	2	0	1	4
	複数学区	0	1	0	2	3
合計		60	59	0	35	154

### ⑬ 守山区のサロン設置把握状況

守山区では130か所のうち、共生型35か所、高齢者69か所、障がい者1か所、子育てサロンが25か所あります。

学区別では、苗代学区が最も多く14か所、次いで瀬古学区が12か所と続いており、サロンのない学区はありません。開催場所が複数学区とされているサロンは2か所ありました。

事業別では、共生型は苗代学区が最も多く7か所、次いで鳥羽見学区で4か所、高齢者では、瀬古学区が最も多く10か所、次いで甘軒家学区で9か所、子育てサロンでは小幡学区で最も多く5か所、次いで大森学区、西城学区、小幡北学区及び大森北学区がそれぞれ2か所と続いています。

表1-2-15 守山区のサロン設置状況

令和3年12月現在

守山区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	小幡	1	4	0	5	10
	大森	2	2	0	2	6
	苗代	7	6	0	1	14
	守山	0	2	0	0	2
	西城	3	0	0	2	5
	白沢	2	2	1	1	6
	小幡北	3	3	0	2	8
	吉根	2	3	0	1	6
	大森北	1	1	0	2	4
	鳥羽見	4	2	0	0	6
	天子田	0	1	0	1	2
	甘軒家	2	9	0	0	11
	二城	0	3	0	1	4
	志段味西	1	4	0	1	6
	本地が丘	1	1	0	0	2
	森孝東	1	4	0	1	6
	森孝西	2	3	0	1	6
	瀬古	1	10	0	1	12
	下志段味	1	5	0	1	7
	志段味東	1	3	0	1	5
	複数学区	0	1	0	1	2
合計		35	69	1	25	130

⑭ 緑区のサロン設置把握状況

緑区では 217 か所のうち、共生型 51 か所、高齢者 124 か所、障がい者 3 か所、子育てサロンが 39 か所あります。

学区別では、浦里学区が最も多く 16 か所、次いで旭出学区及が 14 か所と続いており、サロンのない学区はありません。開催場所が複数学区とされているサロンは 3 か所ありました。

事業別では、共生型は片平学区が最も多く 7 か所、次いで大高南学区で 6 か所と続いており、高齢者では、浦里学区が最も多く 13 か所、次いで旭出学区、鳴子学区及び有松学区でそれぞれ 8 か所、子育てサロンでは大高学区で最も多く 3 か所、次いで滝ノ水学区、鳴海東部学区、徳重学区、東丘学区、鳴子学区、有松学区、桶狭間学区及び桃山学区がそれぞれ 2 か所と続いています。

表 1-2-16 緑区のサロン設置状況

令和 3 年 12 月現在

緑区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	鳴海	1	7	1	1	10
	相原	0	3	1	1	5
	旭出	4	8	1	1	14
	滝ノ水	2	5	0	2	9
	片平	7	5	0	1	13
	浦里	2	13	0	1	16
	緑	1	3	0	1	5
	平子	2	5	0	1	8
	鳴海東部	0	2	0	2	4
	小坂	1	1	0	1	3
	常安	1	3	0	1	5
	大清水	1	3	0	1	5
	徳重	1	2	0	2	5
	熊の前	0	3	0	1	4
	神の倉	1	5	0	1	7
	東丘	3	7	0	2	12
	太子	2	2	0	1	5
	鳴子	2	8	0	2	12
	長根台	0	4	0	1	5
	戸笠	1	2	0	1	4
	有松	0	8	0	2	10
	桶狭間	3	5	0	2	10
	南陵	0	1	0	1	2
	大高	3	6	0	3	12
	大高南	6	2	0	1	9
	大高北	3	3	0	1	7
	黒石	1	4	0	1	6
	桃山	1	4	0	2	7
	複数学区	2	0	0	1	3
合計		51	124	3	39	217

⑮ 名東区のサロン設置把握状況

名東区では 118 か所のうち、共生型 8 か所、高齢者 79 か所、障がい者 1 か所、子育てサロンが 30 か所あります。

学区別では、引山学区が最も多く 13 か所、次いで豊が丘学区が 11 か所と続いており、サロンのない学区はありません。開催場所が複数学区とされているサロンは 1 か所ありました。

事業別では、共生型は高針学区、猪高学区、香流学区、梅森坂学区、蓬萊学区、貴船学区、極楽学区及び前山学区にそれぞれ 1 か所、高齢者では、引山学区が最も多く 12 か所、次いで豊が丘学区で 10 か所と続き、子育てサロンでは香流学区で最も多く 4 か所、次いで西山学区で 3 か所と続いています。

表 1-2-17 名東区のサロン設置状況

令和 3 年 12 月現在

名東区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	西山	0	1	0	3	4
	名東	0	2	0	1	3
	高針	1	6	0	1	8
	猪高	1	4	0	1	6
	藤が丘	0	4	0	2	6
	香流	1	3	0	4	8
	猪子石	0	2	0	1	3
	梅森坂	1	6	0	1	8
	蓬来	1	2	0	1	4
	本郷	0	0	0	2	2
	貴船	1	3	0	1	5
	極楽	1	3	0	2	6
	上社	0	2	1	1	4
	豊が丘	0	10	0	1	11
	引山	0	12	0	1	13
	平和が丘	0	4	0	2	6
	前山	1	7	0	1	9
	北一社	0	5	0	1	6
	牧の原	0	3	0	2	5
	複数学区	0	0	0	1	1
合計		8	79	1	30	118

⑯ 天白区のサロン設置把握状況

天白区では102か所のうち、共生型42か所、高齢者31か所、障がい者6か所、子育てサロンが23か所あります。

学区別では、平針南学区が最も多く12か所、次いで大坪学区及び山根学区が9か所と続いており、サロンのない学区はありません。

事業別では、共生型は山根学区が最も多く8か所、次いで原学区、植田学区及び天白学区でそれぞれ4か所と続いており、高齢者では、平針南学区、大坪学区、高坂学区及び相生学区が最も多くそれぞれ4か所、障がい者は平針南学区が最も多く2か所、子育てサロンでは平針南学区で最も多く3か所、次いで平針北学区、植田東学区、大坪学区及び天白学区で2か所と続いています。

表1-2-18 天白区のサロン設置状況

令和3年12月現在

天白区	学区	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
	平針南	3	4	2	3	12
	平針	3	0	1	1	5
	平針北	1	3	1	2	7
	原	4	2	0	1	7
	植田	4	0	0	1	5
	植田南	0	1	0	1	2
	植田北	1	1	0	1	3
	植田東	1	0	1	2	4
	大坪	3	4	0	2	9
	八事東	1	1	0	1	3
	表山	1	2	1	1	5
	天白	4	2	0	2	8
	山根	8	0	0	1	9
	しまだ	2	1	0	1	4
	高坂	2	4	0	1	7
	相生	2	4	0	1	7
	野並	2	2	0	1	5
合計		42	31	6	23	102

### 第3章

## ふれあい・いきいきサロン活動状況

### (1) サロンの担い手内訳

サロンの担い手内訳を見てみると地域福祉推進協議会（推進協）が 419 か所と最も多く、次いで地域住民 396 か所、ボランティアグループ 197 か所と続いています。

事業別では、共生型は地域住民が最も多く 101 か所、次いで推進協 80 か所と続いており、高齢者では地域住民が最も多く 258 か所、次いで推進協 173 か所、障がい者では地域住民及びその他活動団体が最も多く、それぞれ 6 か所、次いで NPO 法人が 3 か所と続きます。子育てサロンは推進協が最も多く 164 か所、次いで民生委員児童委員協議会（民児協） 68 か所と続いています。

図表 1-3-1 ふれあい・いきいきサロンの担い手内訳（令和3年12月時点）

区分	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
推進協	80	173	2	164	419
学区連協	8	9	0	14	31
民児協	9	20	0	68	97
女性会	1	4	0	1	6
保護司会	0	0	0	0	0
老人クラブ連合会	11	53	0	0	64
自治会・町内会	25	66	0	2	93
その他活動団体	33	30	6	29	98
企業・営利団体等	20	24	0	1	45
社会福祉法人・福祉施設	39	85	2	9	135
NPO法人	28	12	3	20	63
協同組合等	28	66	0	8	102
教会・神社・寺院等	8	0	0	1	9
ボランティアグループ	68	109	2	18	197
地域住民	101	258	6	31	396
保健センター	0	1	0	9	10
児童館	0	0	0	17	17
図書館	0	0	0	0	0
福社会館	0	10	0	0	10
区社協	11	1	0	2	14
いきいき支援センター	2	6	0	0	8
はつらつ参加者・ボラ等	3	46	0	0	49
個人	5	21	0	0	26
複数団体	5	8	0	3	16
その他	14	11	1	3	29
不明	0	3	0	0	3
合計	499	1016	22	400	1937

## (2) サロン会場の内訳

サロン会場の内訳を見てみるとコミュニティセンター（コミセン）が 622 か所と最も多く、次いで施設・事業所・NPOが 298 か所、集会所が 271 か所と続いています。

事業別では、共生型はコミセン及び施設・事業所・NPOが最も多く、それぞれ 93 か所、次いで集会所が 78 か所と続いており、高齢者ではコミセンが最も多く 317 か所、次いで集会所 179 か所、障がい者ではスポーツセンター・生涯学習センター・文化センター等が最も多く 7 か所、次いで在宅サービスセンターが 4 か所、子育てサロンはコミセンが最も多く 209 か所、次いで地区会館・公民館・公会堂・防災倉庫 28 か所と続いています。

図表 1-3-2 ふれあい・いきいきサロンの会場（令和 3 年 12 月時点）

会場	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
コミセン	93	317	3	209	622
地区会館・公民館・公会堂・防災倉庫	24	68	0	28	120
集会所	78	179	0	14	271
在宅サービスセンター	20	32	4	18	74
施設・事業所・NPO	93	180	3	22	298
店舗・喫茶店	48	54	1	11	114
お寺・社務所・教会	43	28	1	9	81
病院・診療所・助産所	18	15	0	2	35
学校	9	9	1	12	31
保育園・幼稚園	2	1	0	7	10
個人宅・空き家・空き店舗	41	61	1	12	115
公園・運動場等屋外	10	23	0	2	35
スポセン・生涯学習センター・文化センター等	9	19	7	13	48
区役所・保健所	0	2	1	8	11
図書館	0	0	0	1	1
児童館	0	0	1	21	22
福祉会館	0	17	0	3	20
いきいき支援センター	3	6	0	0	9
フリースペース・貸スペース	14	17	1	8	40
不定・不明	0	4	0	3	7
合計	505	1032	24	403	1964

(※複数の会場で実施しているサロンはそれぞれで計上)

### (3) サロンの開催頻度

サロンの開催頻度では、月1回開催するサロン数が954か所と最も多く、次いで月2回448か所、週1回208か所と続いています。

事業別では、共生型は月1回が最も多く287か所、次いで月2回94か所、週1回45か所と続いており、高齢者では月1回が最も多く442か所、次いで月2回284か所、週1回131か所と続いています。障がい者では月1回開催が最も多く10か所、次いで月2回が8か所、子育てサロンは月1回が最も多く215か所、次いで月2回62か所、週1回30か所と続いています。

図表 1-3-3 ふれあい・いきいきサロンの開催頻度（令和3年12月時点）

開催ペース	共生型	高齢者	障がい者	子育て	合計
年2回	1	0	1	0	2
年3回	0	0	0	1	1
年4回	4	12	0	8	24
年5回	0	3	0	6	9
年6回	5	23	1	26	55
年7回	0	1	0	0	1
年8回	2	0	0	5	7
年9回	0	0	0	3	3
月1回	287	442	10	215	954
月2回	94	284	8	62	448
月3回	9	31	0	6	46
月4回	12	31	0	5	48
月5回	2	4	0	1	7
月6回	0	4	0	0	4
月7回	1	0	0	0	1
月8回	2	0	0	0	2
月9回	1	0	0	0	1
月10回	1	0	0	0	1
週1回	45	131	2	30	208
週2回	3	21	0	5	29
週3回	6	9	0	4	19
週4回	2	2	0	3	7
週5回	9	5	0	8	22
週6回	2	1	0	2	5
毎日	2	1	0	0	3
不定期	9	11	0	10	30
合計	499	1016	22	400	1937

### (1) 調査の目的

名古屋市社会福祉協議会では、「ふれあい・いきいきサロン（以下、サロン）」をはじめとする地域活動の現状について、調査を通じて運営ボランティアの代表者・参加者の方々の現状や、サロン参加後の変化、サロン活動上での課題、支援要望等を把握し、今後、安心してサロン活動ができる地域社会づくりに役立てることを目的として、実施したものです。

### (2) 調査の概要

本調査の概要は以下に示すとおりです。

- 調査対象：名古屋市内の『高齢者サロン』『共生型サロン』代表者及び参加者
- 抽出方法：無作為抽出(参加者調査については1サロンにつき5名を無作為抽出)
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（令和3年10月26日発送）
- 調査時期：令和3年11月～12月
- 配布数：400票（代表者）  
2,000票（参加者）
- 回収数：322票（代表者）  
1,460票（参加者）
- 有効回収数：1,782票
- 有効回収率：74.2%

### (3) 報告書の見方

- 図中の構成比(%)は、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため、複数回答はもちろんのこと、単数回答の場合でも必ずしも合計は100.0%になりません。
- 一部のグラフについては、クロス集計上の表側の「回答なし」は省略しています。
- 表、グラフ等の見出しおよび文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度に簡略化しているものがあります。
- グラフ内の「n=〇〇」は、その回答母数を表わしています。
- 性別・年齢別・地区別のクロス集計の結果については、全体と比較しておよそ±10%以上の差異がある場合にのみ、分析結果を言及しています。

## 第1章

## サロン代表者とボランティアのプロフィール

### (1) サロンの開催地区

問1-1 サロンの開催地区を教えてください。

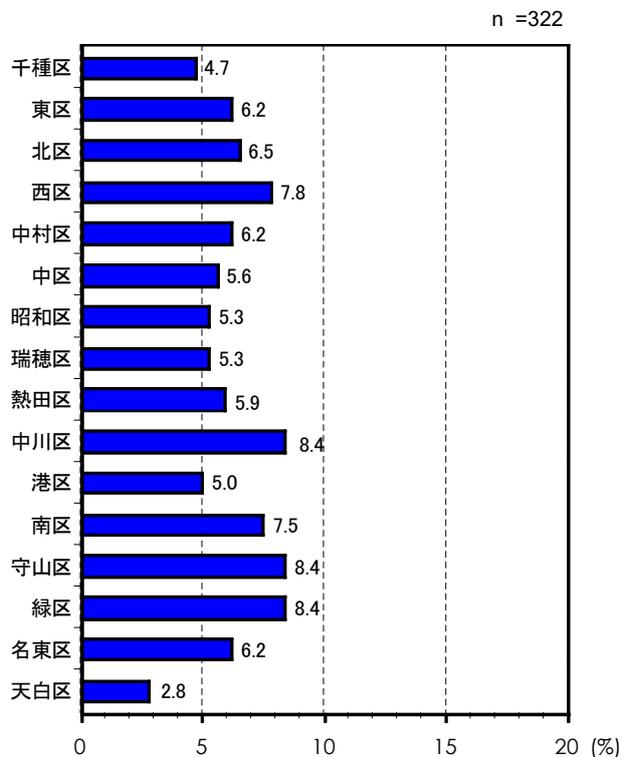
◆中川区、守山区及び緑区がもっとも多くそれぞれ 8.4%、次いで西区が 7.8%と続きます。令和3年12月現在のサロン設置数と比較すると、概ね同程度の割合で回答されています。

○回答数全体に占める各区の割合は、「中川区」、「守山区」及び「緑区」がそれぞれ 8.4%と最も高く、次いで「西区」の 7.8%と続き、一番低かったのは「天白区」の 2.8%でした。

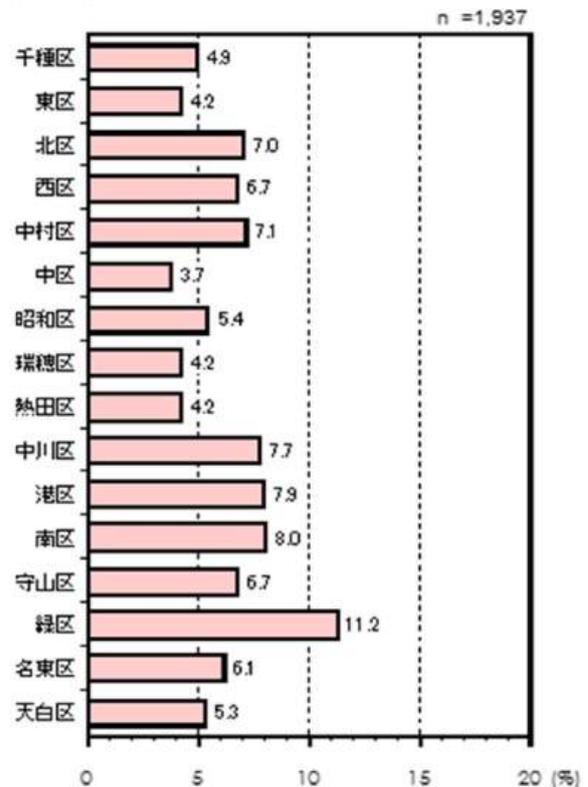
○これは、アンケートを各区のサロン設置数を基に、全体数を比例案分して調査依頼をしていることから生じたものと思われます。

参考までに令和3年12月時点でのサロン設置数と、今回のアンケート調査回答とを比較すると、港区と緑区の回答率が少ないものの概ね比率が一致していることから、どの区のサロンも概ね同程度の割合で回答していると言えます。

図 2-1-1 サロンの開催地区



【参考】 令和3年12月のサロン設置数



(2) サロンの開始年月

問 1-2 サロンの開始年月を教えてください。(令和3年11月現在時点)

◆10年未満が4割弱と最も割合が高くなっています。

- サロンの開始年月をみると、立上げから「5年未満」のサロンの割合が38.5%で最も割合が高く、次いで「5年～10年未満」(28.6%)、「15年～20年未満」(9.0%)となっており、比較的新しいサロンが多いと言えます。
- サロン設置数と比較すると、過去5年でサロン設置数が増えています。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、増加傾向に歯止めがかかっていることが分かります。
- なお、「回答なし」が全体の10.2%を占めています。

図 2-1-2 サロンの経過年数

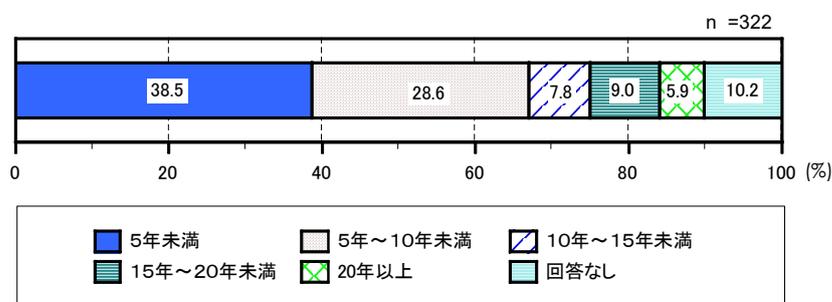
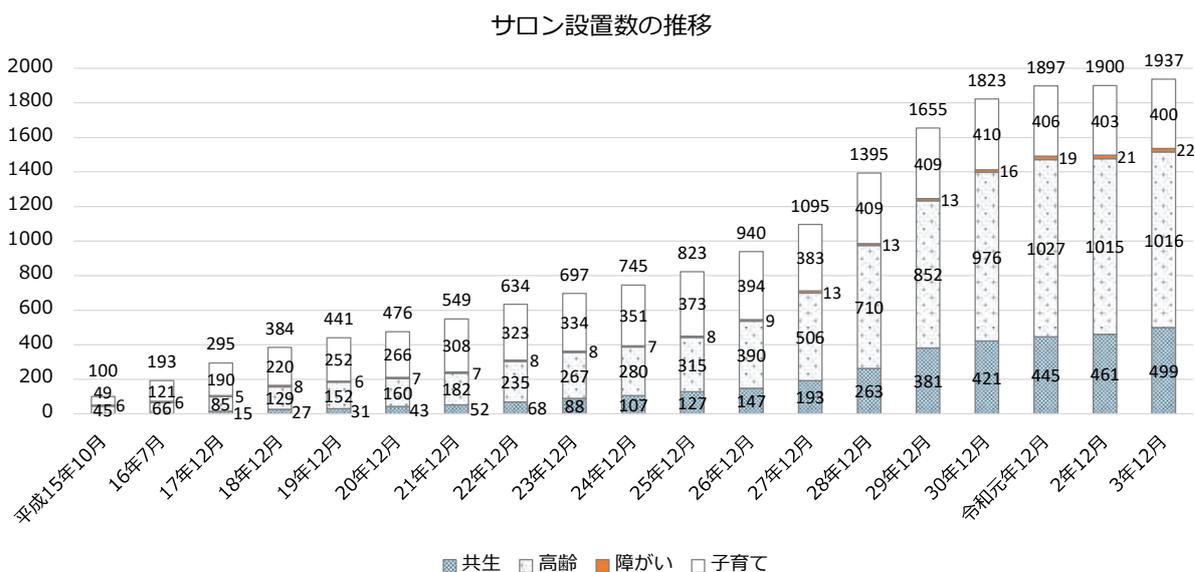


図 2-1-3 サロン設置数



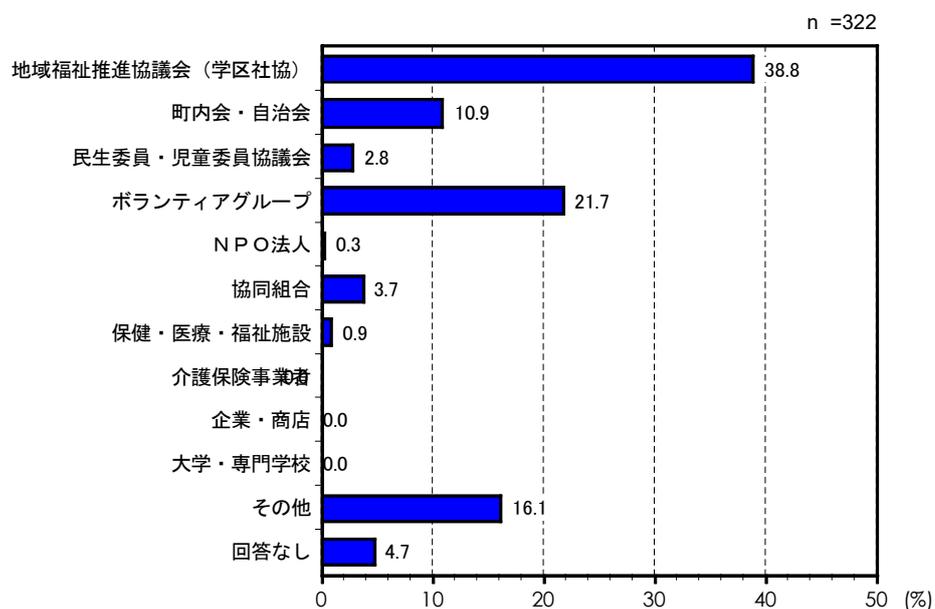
### (3) サロンの運営母体

問 1-3 サロンの運営母体を教えてください。

- ◆「地域福祉推進協議会（学区社協）」が最も割合が高く、次いで、「ボランティアグループ」「町内会・自治会」などが高くなっています。

○回答者のサロン運営母体をみると、「地域福祉推進協議会（学区社協）」が38.8%で最も割合が高く、次いで「ボランティアグループ」（21.7%）、「町内会・自治会」（10.9%）となっています。

図 2-1-4 サロンの運営母体



(4) 代表者の年齢

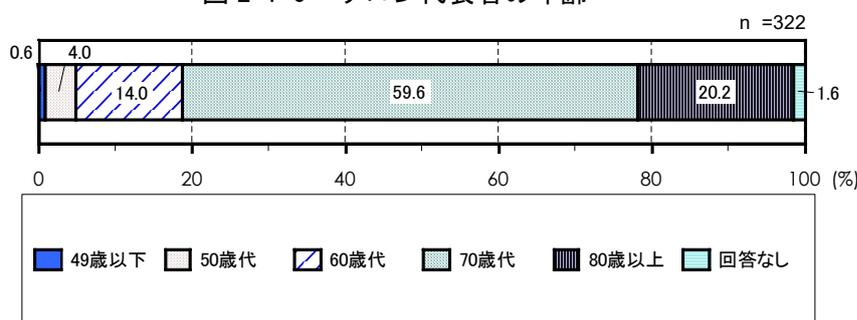
問 1-4 サロン代表者の年齢を教えてください。

◆「70 歳代」が最も割合が高くおよそ6割、次いで「80 歳以上」が2割と、主に高齢者がサロン代表者となっています。

○サロン代表者の年齢をみると、「70 歳代」が 59.6%で最も割合が高く、次いで「80 歳以上」(20.2%)、「60 歳代」(14.0%)と続いています。

○一方で「49 歳以下」が 0.6%、「50 歳代」が 4.0%あり、割合は低いものの働き盛りの世代のサロン代表者参加もみられます。

図 2-1-5 サロン代表者の年齢



(5) ボランティアの登録人数

問 1-5 サロンに関わるボランティアの人数を教えてください。

◆サロンに関わるボランティアの人数は、15 人未満のサロンがおよそ7割を占めています。

○サロンに関わるボランティアについては、平均 10.6 人です。

○そのうちわけは、「5 人以上 10 人未満」が 31.7%で最も割合が高くなっています。次いで「5 人未満」(21.4%)、「10 人以上 15 人未満」(14.6%)と続いております。ボランティアの人数が 15 人未満のサロンが全体のおよそ7割を占めています。

○一方で「15 人以上 20 人未満」が 8.1%、「30 人以上」が 4.7%となっており、大人数のボランティアでサロンを運営しているところも 1 割程度あります。

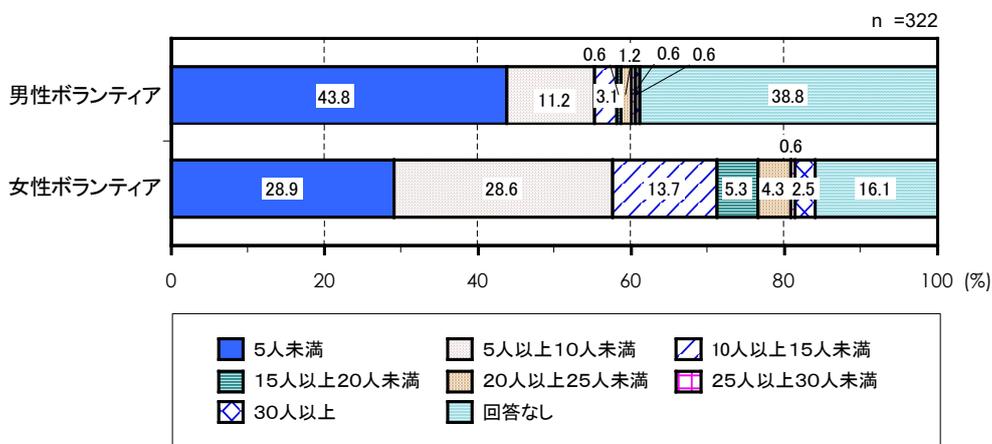
図 2-1-6 ボランティアの人数



◆男性ボランティアは女性ボランティアに比べて少ない状況です。

- 男性ボランティアは「5人未満」が43.8%で最も高く、「5人以上10人未満」が11.2%となっており、10人未満が半数を占めています。
- 「回答なし」が38.8%を占め、男性ボランティアが10人以上参加するサロンは3%程度という状況です。
- 女性ボランティアは「5人未満」が28.9%と最も割合が高いものの、「5人以上10人未満」が28.6%、「10人以上15人未満」が13.7%と続いています。
- サロンに参加するボランティアは男性と比較して女性の参加者が多くなっています。

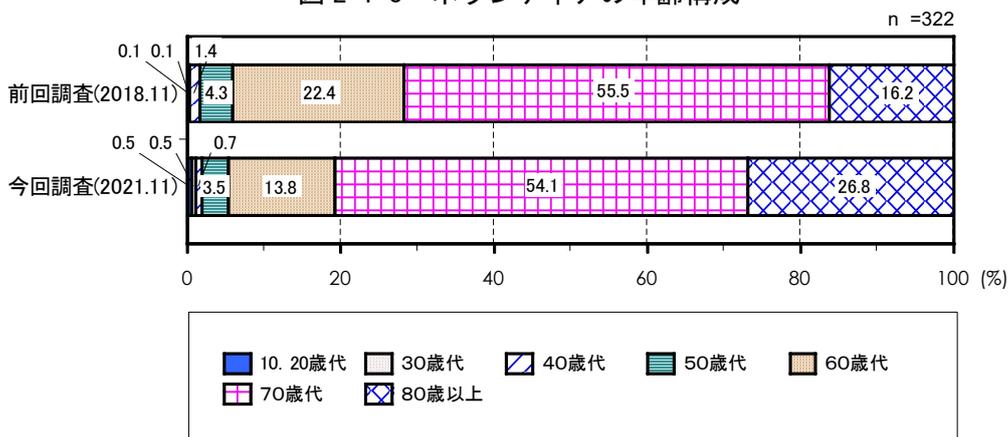
図 2-1-7 ボランティアの内訳 (男女)



◆ボランティアの年齢構成では、「70歳代」が最も多く、高齢者(60歳以上)のボランティアが全体の9割を占めています。

- ボランティアの年齢構成では「70歳代」が54.1%で最も多く、次いで「80歳以上」が26.8%、「60歳代」が13.8%となっており、高齢者のボランティアが全体の9割を占めています。
- 前回調査(平成30年11月実施)と比較すると60歳代のボランティア人数が減少しており、定年延長等の社会状況の変化に伴い、地域活動への参加時期が遅くなっていると考えられます。

図 2-1-8 ボランティアの年齢構成



(6) 1回開催あたりのボランティアの平均参加者数

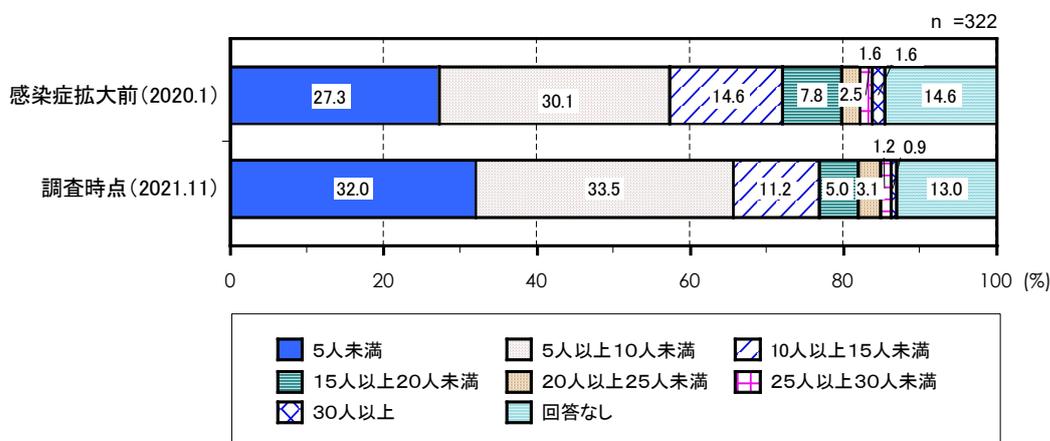
問 1-6 1回に参加するボランティアの平均人数を教えてください。

(感染症拡大前及び調査時点現在)

- ◆ 1回開催あたりに参加するボランティア平均人数は感染症拡大前（2020年1月以前）、現時点ともに「5人以上10人未満」が最も多くなっています。
- ◆ 調査時点（2021年11月現在）では、「5人未満」がやや増加し、参加するボランティア平均人数が10人未満のサロンが全体の6割以上を占めています。

- サロン活動一回に参加するボランティアの平均人数は、感染症拡大前（2020年1月以前）では8.3人、調査時点（2021年11月）では7.3人と、感染症拡大前後で1回あたりのボランティア平均参加人数が減少しています。
- 感染症拡大前（2020年1月以前）では、「5人以上10人未満」が30.1%で最も高く、次いで「5人未満」が27.3%、「10人以上15人未満」が14.6%となっています。
- 調査時点（2021年11月）では、「5人以上10人未満」が最も高いことは変わりありませんが、「5人未満」がやや高くなっています。参加するボランティア平均人数が10人未満のサロンが感染症拡大以前では5割強だったのに対し、調査時点では全体の6割を超えており、ボランティア参加者を少人数になっているサロンが増加していることが伺えます。

図 2-1-9 1回あたりのボランティア平均参加者数



## 第2章 サロンの概要

### (1) サロンの会場の種別

問 1-7 サロンを開催する会場の種別を教えてください。

(複数ある場合は主となる会場1箇所を記入)

◆「コミュニティセンター」が4割強、「集会所」が3割弱となっており、合わせて全体の7割近くを占めています。

○サロン会場の種別では「コミュニティセンター」が45.0%で最も割合が高く、次いで「集会所」(25.2%)、「個人宅・空き家」(9.9%)の順になっています。

○サロンの主な開催場所が「屋外」のサロンは6.5%となっています。

図 2-2-1 サロン会場の種別

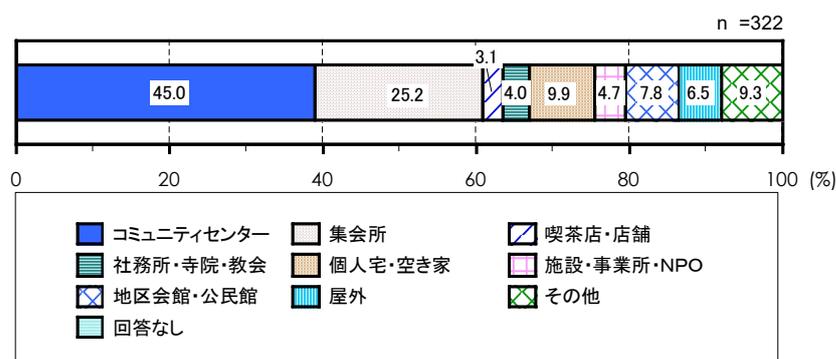


表 2-2-2 サロン会場の種別（その他内訳）

内容
・ 生涯学習センター
・ 社協内にある研修室
・ 学習塾
・ 教育施設の空き教室
・ 社会福祉法人施設
・ 医療法人施設
・ 介護老人福祉施設
・ 消費生活センター
・ 新聞店
・ 郵便局
・ JA なごや

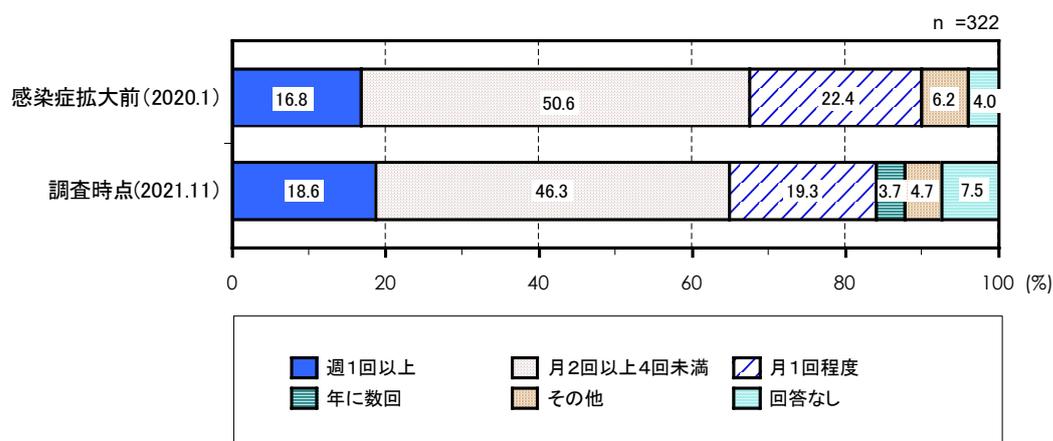
## (2) サロンの開催頻度

問 1-8 サロンの開催頻度を教えてください。(感染症拡大前及び調査時点現在)

◆感染症拡大前と比較すると、月1回以上開催するサロンが全体のおよそ8割となっています。また、「年に数回」がわずかながら増えるなど、開催頻度は減少傾向にあります。

- 感染症拡大以前(2020年1月以前)では、「月2回以上4回未満」が50.6%で最も高く、次いで「月1回程度」(22.4%)、「週1回以上」(16.8%)となっています。
- 調査時点(2021年11月)では、「月2回以上4回未満」が46.3%で最も高く、次いで「月1回程度」(19.3%)、「週1回以上」(18.6%)となっています。
- 月1回以上開催するサロンは感染症拡大以前では全体のおよそ9割程度あったのに対し、調査時点ではおよそ8割にとどまる結果となっているほか、「年に数回」の回答数が3.7ポイント増えるなど、開催回数が減る傾向にあります。

図 2-2-3 サロンの開催頻度



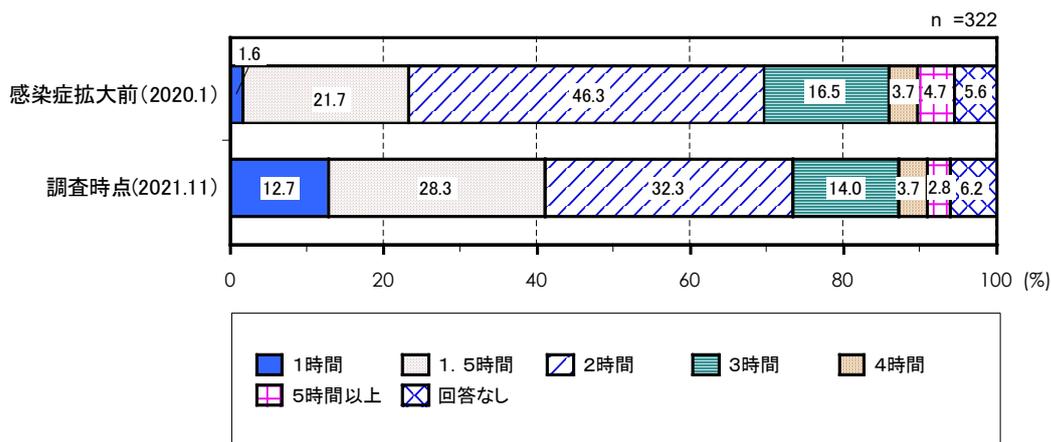
(3) サロン1回あたりの所要時間

問 1-9 サロン1回あたりの所要時間を教えてください。(感染症拡大前及び調査時点現在)

◆サロン1回あたりの所要時間数は、感染症拡大前と比較すると、1.5時間や1時間の開催の割合が増え、開催時間が短縮傾向にあります。

- 感染症拡大前では、サロン1回あたりの所要時間数は、「2時間」が46.3%と最も高く、次いで「1.5時間」が21.7%、「3時間」が16.5%となっています。
- 調査時点では、感染症拡大前と比較すると、「2時間」が32.3%に14ポイント減少しているのに対し、「1.5時間」が28.3%、7.4ポイントの増加、「1時間」が12.4%、11.1ポイント増加しています。
- 2時間未満の割合が、感染症拡大前は全体の2割程度だったのに対し、調査時点では4割に増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響を受けて、サロンの開催時間を短縮して実施していることがわかります。

図 2-2-4 サロン1回あたりの所要時間数



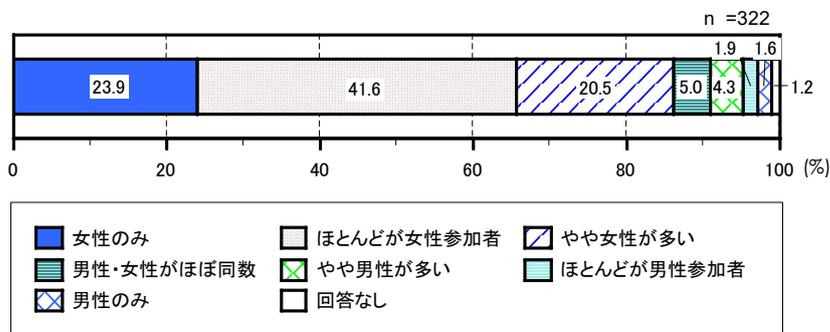
(4) サロン参加者の男女比

問 1-10 サロン参加者の男女比を教えてください。

◆サロン参加者の男女比は、女性のみ・ほとんど女性が 65.5%を占めるのに対して、男性のみ・ほとんど男性はわずか 3.5%とかなり低い状況です。

- サロン参加者の男女比では「ほとんどが女性参加者」が 41.6%と最も多く、次いで「女性のみ」が 23.9%で、合わせると 65.5%は女性がほとんどを占める状況です。さらに「やや女性が多い」が 20.2%となっています。
- 「男性のみ」1.6%、「ほとんどが男性参加者」1.9%を合わせると 3.5%であり、全体から見てもサロンの男性参加比率が少ないことがうかがえます。

図 2-2-5 サロン参加者の男女比



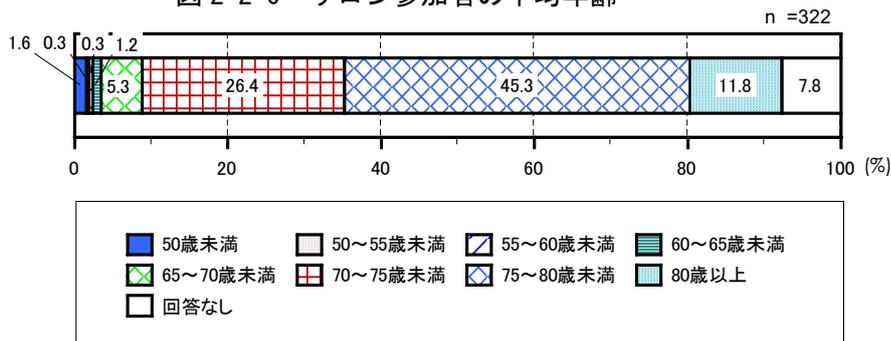
(5) サロン参加者の平均年齢

問 1-11 サロン参加者の平均年齢を教えてください。

◆サロン参加者の平均年齢は、70歳代が7割を占めています。

- サロン参加者の平均年齢は「75歳以上 80歳未満」が 45.3%と最も多く、次いで「70歳以上 75歳未満」が 26.1%で、70歳代が7割を占めています。60歳代は 6.5%、80歳以上は 11.8%です。
- 65歳未満の参加割合は 3.4%です。

図 2-2-6 サロン参加者の平均年齢



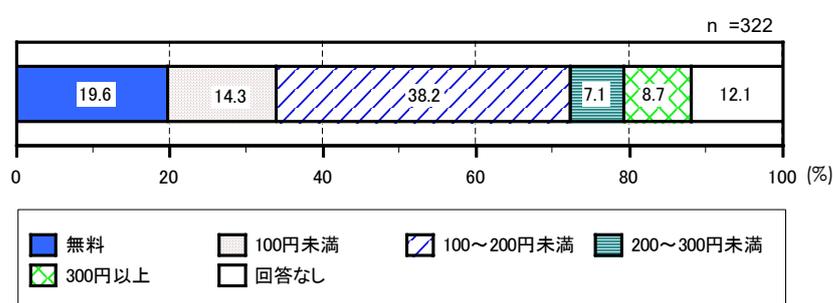
(6) サロン1回あたりの参加費

問 1-12 サロン1回あたりの参加費を教えてください。

◆サロン1回あたりの参加費は、無料が2割、300円未満が6割となっています。

- サロン1回あたりの参加費は「100～200円未満」が38.2%と最も多く、次いで「100円未満」が14.3%と続いています。約6割のサロンは参加費を一回300円未満で開催しています。
- さらに、「無料」が19.6%を占めています。
- なお、回答無しが12.1%あります。

図 2-2-7 サロン1回あたりの参加費



### 第3章

## 新型コロナウイルス感染症拡大後のサロンの運営

### (1) 新型コロナウイルス感染症拡大後のサロンの運営状況

問2 新型コロナウイルス感染症拡大後のサロンの運営状況を教えてください。

◆感染症拡大後のサロンの運営状況は、「状況に応じ実施」7割、「おおむね年間計画通り」1割となっており、感染症拡大後に実施したサロンはおよそ8割となっています。

○感染症拡大後のサロンの運営状況は、「状況に応じ実施」が73.3%と最も割合が高く、次いで「おおむね年間計画通り」が13.7%となっており、感染症拡大後に実施したサロンはおよそ8割となっています。

○一方で、感染症拡大後から調査時点まで活動を中止しているサロンが20件(6.2%)あります。

図 2-3-1 感染症拡大後のサロンの運営状況

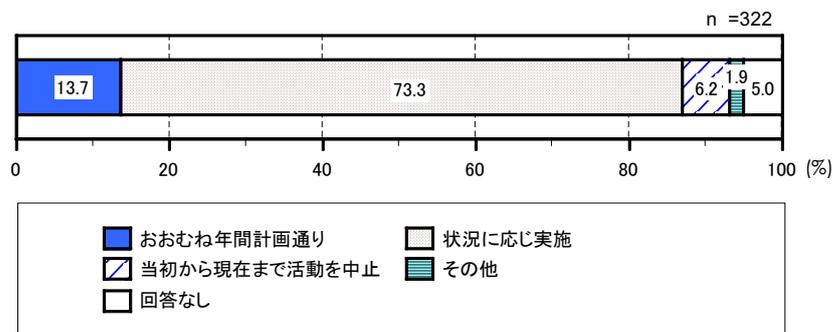


表 2-3-2 サロンの運営状況（その他内訳）

内容
・ サロン活動メニューを削減し運営
・ 広報を行わず、規模を大幅に縮小
・ 日数を減らして運営

(2) 活動を中止していた期間

問 2-1 サロン活動を休止していた期間を教えてください。

◆宣言等措置期間に沿って活動を休止していたサロンがおよそ6割。

- 新型コロナウイルス感染症の拡大によって、活動を休止していた期間について尋ねたところ、愛知県が発出した緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が施されている期間には、概ね6割がサロン活動を休止しているほか、措置期間以外にも、2020年8月や、2020年1月など、感染症の拡大状況に応じて活動を休止していたサロンがあります。
- 2019年12月から2021年10月までの23カ月のうち、休止した期間の合計月数を見ると、7カ月～12カ月休止していたサロンが28.3%と最も多く、次いで1カ月～6カ月休止(23.9%)と続きます。
- 活動の再開時期、休止時期はサロンによって様々であることから、休止・再開の判断が困難なことがうかがえます。

図 2-3-3 サロンの活動状況

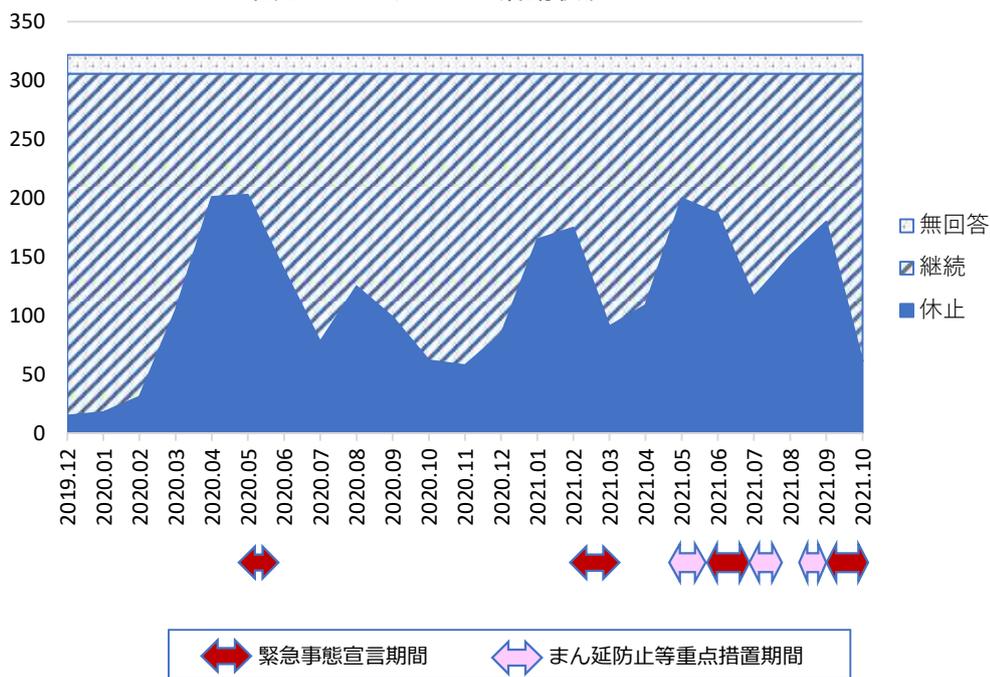
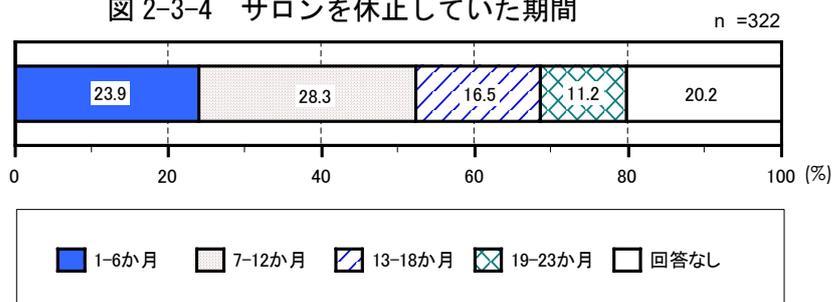


図 2-3-4 サロンを休止していた期間



(※休止期間の回答で具体的な日付を記載している票についても休止月単位でカウント)

(3) 新型コロナウイルス感染症拡大後に始めた取組

問3 新型コロナウイルス感染症拡大後、サロンを実施したことがある方へお尋ねします。  
 サロン活動を行うにあたり、工夫していることや新たに始めた取組などについて教えてください。  
 (あてはまるものすべてに○)

◆「消毒・検温の徹底」「換気の徹底」の基本的な対策が8割、「会場レイアウトの変更」が半数程度と高くなっています。

○感染症拡大後にもサロンを実施した280団体について、工夫や新たに始めた取組では、「消毒・検温の徹底」が91.8%と最も割合が高く、次いで「換気の徹底」が90.7%、「会場レイアウトの変更」が54.3%、「活動時間の短縮」が40.7%、「プログラム内容の変更」が38.9%と続いています。

○「屋外活動型サロンの実施」を行っているサロンも1割程度あります。

図 2-3-5 感染症拡大後にサロン活動をする上で行った工夫や新たな取組  
 n = 280

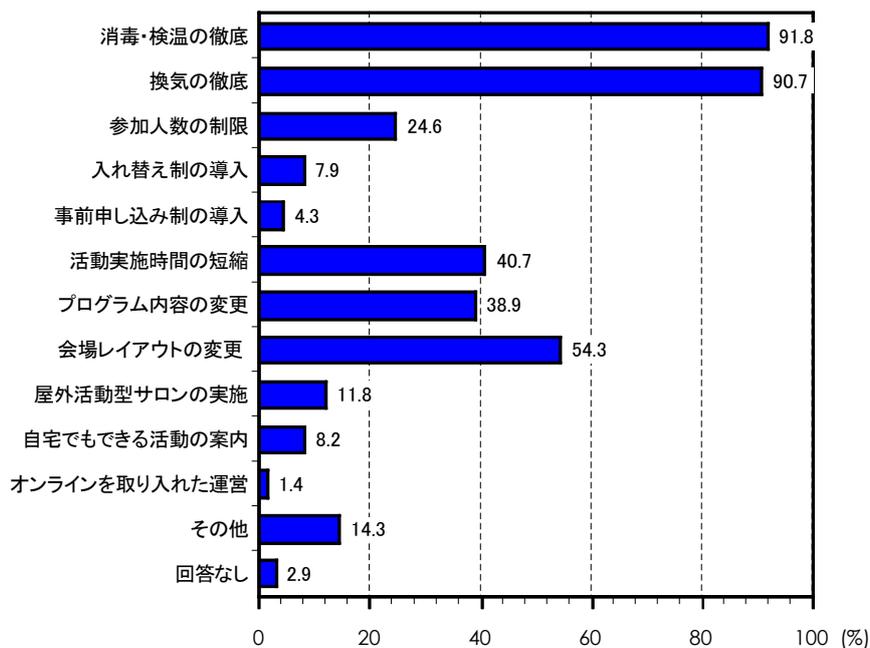


表 2-3-6 感染症拡大後の工夫や新たな取組 (その他内訳)

内容
・ マスク、フェイスシールドの着用 (13件)
・ 飲食を禁止 (6件)
・ パーテーションの設置 (6件)
・ 会話を制限したプログラムへの変更 (5件)
・ 健康チェック (2件)
・ 新規参加者の制限 (2件)
・ 各戸へ手紙や作業備品等を配布 (2件)
・ SNSで参加の有無を確認
・ 連絡先の記入
・ 従来通り

(4) サロン活動の代替として行った取組

問4 サロンの中止経験のあるサロンにおたずねします。サロン活動の代替として行ったことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

◆「電話での安否・体調の確認」「広報誌、回覧板など書面を使った情報発信」といった接触を避ける活動が高くなっています。また、「特に代替の活動は行っていない」が4割を占め、最も高くなっています。

○中止期間があったサロン 256 件について、サロンの代替活動の実施状況について尋ねたところ、「特に代替の活動は行っていない」が 41.4%と最も高くなっています。

○活動のあるサロンでも「電話での安否・体調の確認」が 29.3%、「広報誌・回覧板など書面を使った情報発信」が 12.1%といった非接触の活動についての項目が高く、「サロン参加者宅への訪問活動」が 9.4%に留まっています。

図 2-3-7 中止期間に行った代替活動

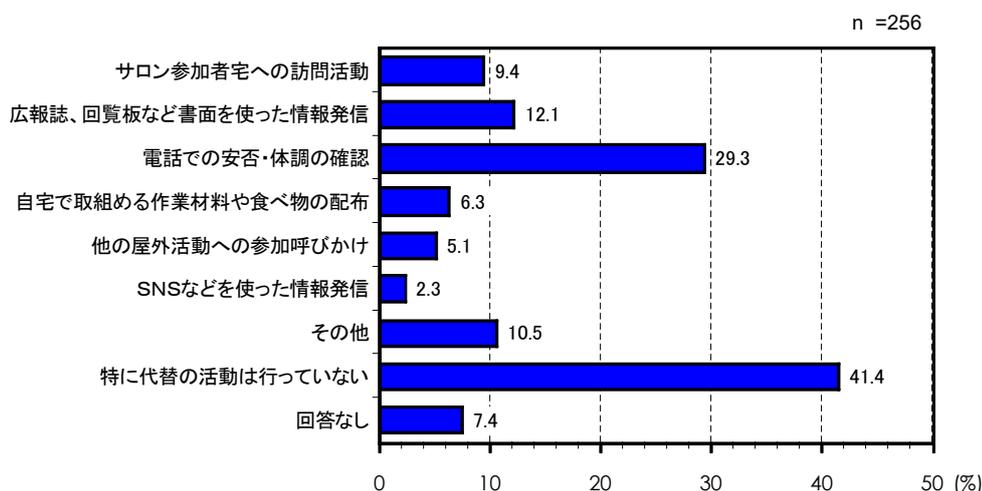


表 2-3-8 中止期間に行った代替活動（その他内訳）

内容
・ 手紙やはがきを使った安否確認（5件）
・ 買物支援
・ 電話で作業内容の質問受付
・ 体育館で距離を取って行える活動内容の実施
・ コミュニティセンターに貼り紙
・ 老人クラブの定例会と合同開催
・ 他の活動時に顔を合わせる人の安否確認

(5) サロン活動のオンライン実施を想定した場合の状況

問5 サロンのオンライン実施を想定した場合の、あなたのサロンの状況について教えてください。(あてはまるものすべてに○)

◆「やりたくない・できない」が3割を占めています。さらに「オンラインツールを使える参加者が少ない」も3割程度を占めています。

○オンライン開催については、「やりたくない・できない」の割合が最も高く 32.0%となっており、次いで「オンラインツールを使える参加者が少ない」が 27.6%、「PC やスマホ、タブレットなど通信機器がある」10.9%と続きます。

○既にオンライン活動の実施経験があるサロンは6件(1.9%)あり、オンラインツールの利用を試してみたいと考えているサロンは9件(2.8%)と、わずかですがありました。

○なお、回答なしが29.5%あります。

図 2-3-9 サロン活動のオンライン実施を想定した場合のあなたのサロン状況

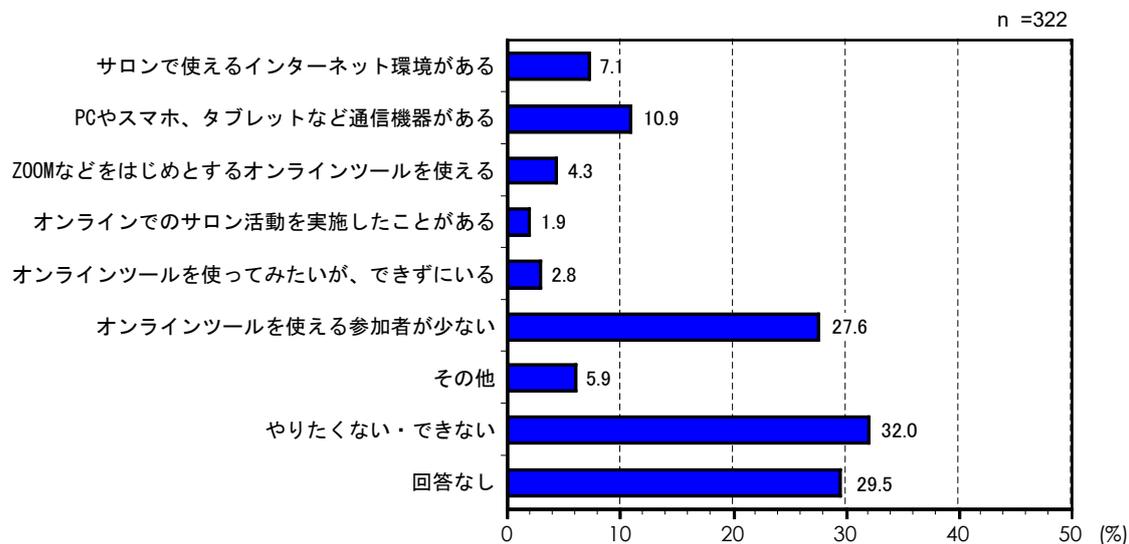


表 2-3-10 サロン活動のオンライン実施を想定した場合のあなたのサロン状況 (その他内訳)

内容

- ・ 年齢的にできる環境ではない (10件)
- ・ 参加者は対面を希望している (3件)
- ・ プログラム内容的にオンライン実施は難しい (2件)
- ・ ハイブリットの方法を考えなければと思うと難しい
- ・ 気力と経済的な問題でできない

(6) サロン開催可否の決め方

問6 サロン開催の可否について、どのように決めたと教えてください。

◆サロン開催の可否の決め方は、「運営者（ボランティア）との話し合いのうえ決めた」の割合が45.3%と最も高くなっています。代表者単独での判断は低く、判断の難しさが伺えます。

○サロン開催の可否については、「運営者（ボランティア）との話し合いのうえ決めた」の割合が最も高く45.3%となっている。次いで「参加者の意見を聞いて判断した」が18.3%、「サロン代表者の判断で決めた」14.6%と続きます。

○なお、回答なしが7.1%あります。

図 2-3-11 サロン開催可否の判断

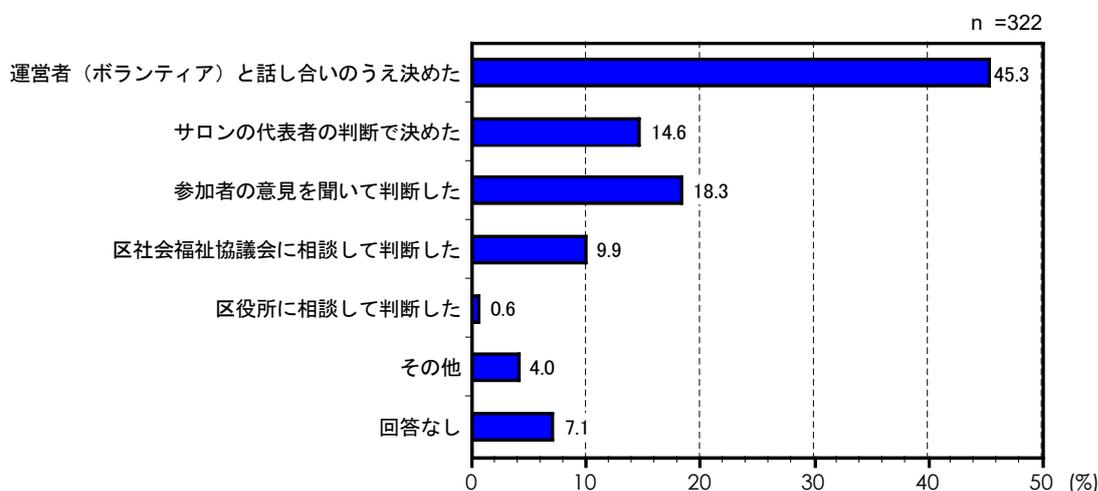


表 2-3-12 サロン開催可否の判断（その他内訳）

内容
・ 会場の使用許可にあわせて判断（5件）
・ 緊急事態宣言及び市の自主規制等にあわせて判断（3件）
・ 講師と話し合いのうえ判断（2件）
・ 社協のサロン開催にあわせて判断（2件）
・ 市の広報に沿って判断
・ 区政協力委員長に相談のうえ判断

(7) 感染症拡大以前と比較した、平均参加者数の変化

問7 新型コロナウイルス感染症拡大以前（2020年1月頃より前）と比較したときの、サロン1回あたりの平均参加者数の変化を教えてください。

◆感染症拡大前後での参加者数の変化では、10人未満の減少が4割を占めています。変化なし、増加もそれぞれ1割程度あります。

- 感染症拡大前後での平均参加者数の変化では、「5人未満減少」の割合が24.2%と最も高く、次いで「5人以上10人未満減少」が20.8%、「変化していない」が15.8%と続いています。
- 一方で、増加していると回答したサロンが1割程度あります。

図 2-3-13 平均参加者数の変化

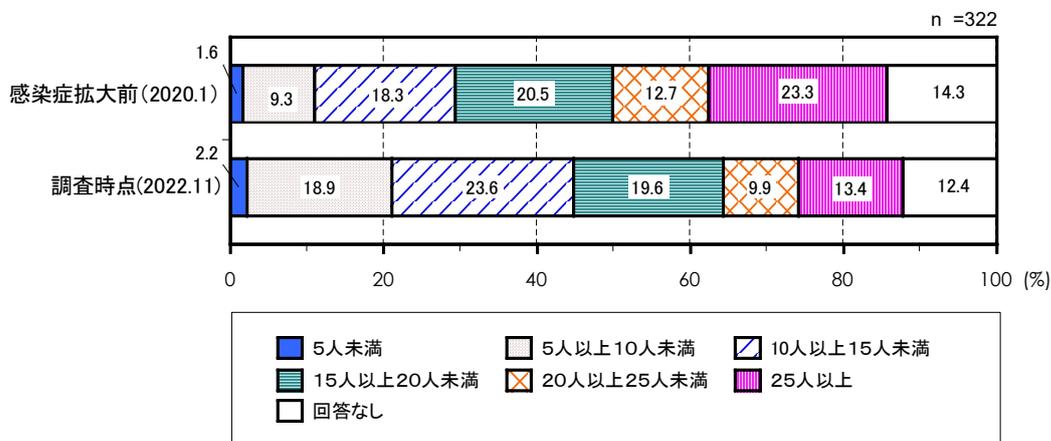
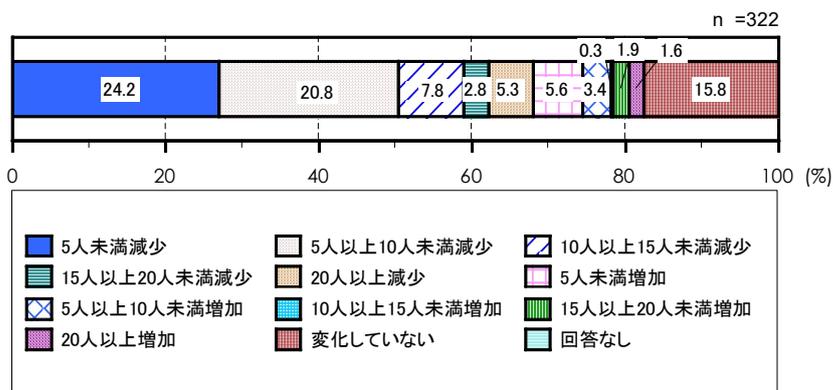


図 2-3-14 感染症拡大前後での平均参加者数の変化



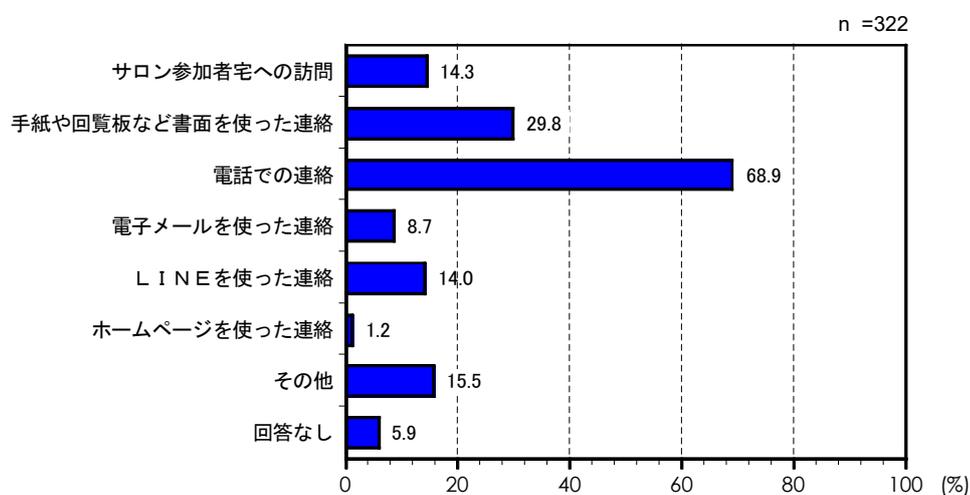
(8) サロン参加者に対する連絡手段

問8 サロン参加者へ中止や時間変更などの連絡を行う際の連絡手段を教えてください。

◆サロン参加者に対する連絡手段では、「電話での連絡」が7割、「手紙や回覧板などを使った連絡」が3割を占めています。

- サロン参加者に対する連絡手段では、「電話での連絡」の割合が68.9%と最も高く、次いで「手紙や回覧板などを使った連絡」が29.8%と続いています。
- 「LINEを使った連絡」14.0%、「電子メールを使った連絡」8.7%とインターネットを介して参加者と連絡を行っているサロンもあります。

図 2-3-15 サロン参加者に対する連絡手段



(9) 感染症拡大以前と比較した、サロンプログラムの変化

問9 サロンのプログラムについて、新型コロナウイルス感染症拡大以前と、今現在行っているプログラムの内容を教えてください。(あてはまるもの5つ以内に○)

◆感染拡大以前から「お茶とおしゃべり」が59.6%→41.3%減少し、「脳トレーニング」が18.9%→23.3%に微増しています。

- サロンの頻度の高いプログラムとしては、感染拡大以前では、「お茶とおしゃべり」が59.6%と最も割合が高く、次いで「健康体操」が51.6%、「創作活動」が30.1%と続いています。
- 調査時点では、「健康体操」が48.8%と最も割合が高く、次いで「お茶とおしゃべり」が41.3%、「創作活動」が24.5%となっています。
- 感染拡大前後での変化として、「お茶とおしゃべり」が59.6%から41.3%に減少し、音楽活動が28.6%から14.0%に減少している一方、多くの項目が減少するなかで、「脳トレーニング」が18.9%から23.3%に微増しています。

図 2-3-16 感染症拡大前・調査時点に行っていたプログラム

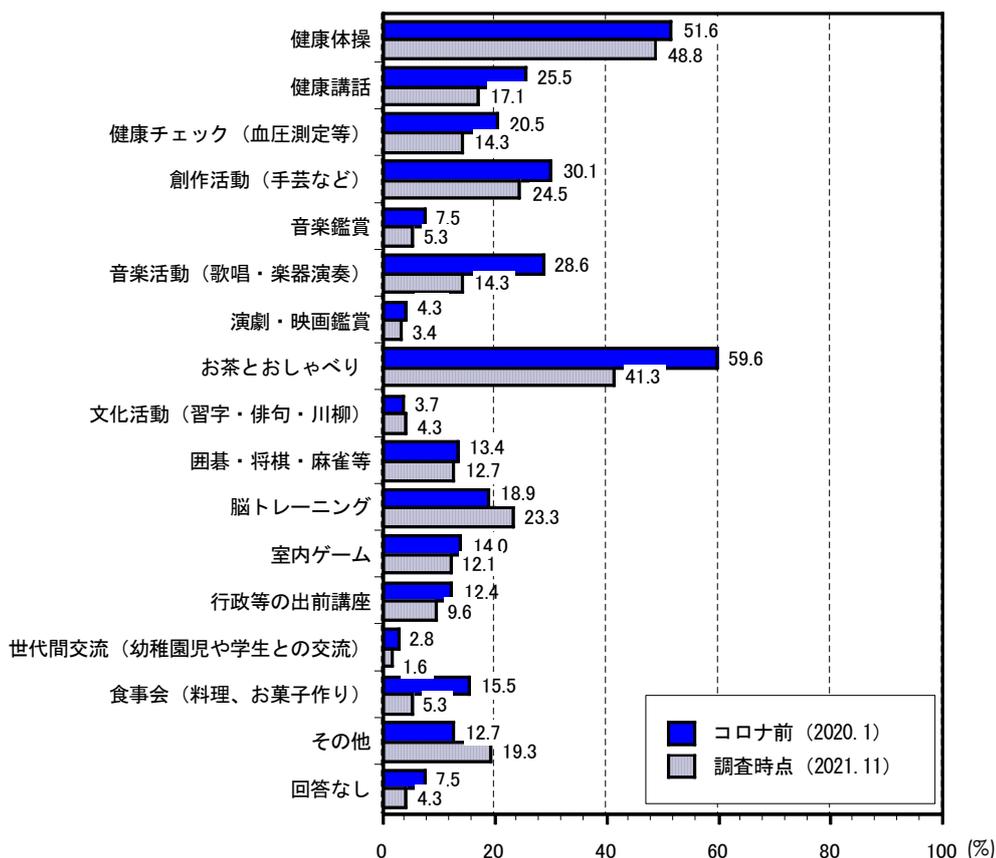


表 2-3-17 感染症拡大前・調査時点に行っていたプログラム (その他内訳)

感染症拡大前	調査時点
・ 折り紙	・ 小物づくり
・ 切り絵	・ 卓球
・ 卓球	・ 手紙

(10) 感染症拡大を経てサロン活動を実施してよかったこと

問 10 新型コロナウイルス感染症の拡大を経験し、サロン活動を実施してよかったことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

◆新型コロナウイルス感染症の拡大を経て、「サロン活動の目的や役割を再認識した」が7割を占めています。

○サロン活動を実施して良かったことでは、「サロン活動の目的や役割を再認識した」が74.5%と最も割合が高く、次いで「サロン活動が運営側にも充実感を与えていることを実感した」が45.0%、「地域の方たちとの絆がより深まった」が39.4%となっています。

○「オンライン利用など、開催方法を模索するようになった」の回答も7件(2.2%)あります。

図 2-3-18 感染症拡大を経てサロン活動を実施してよかったこと

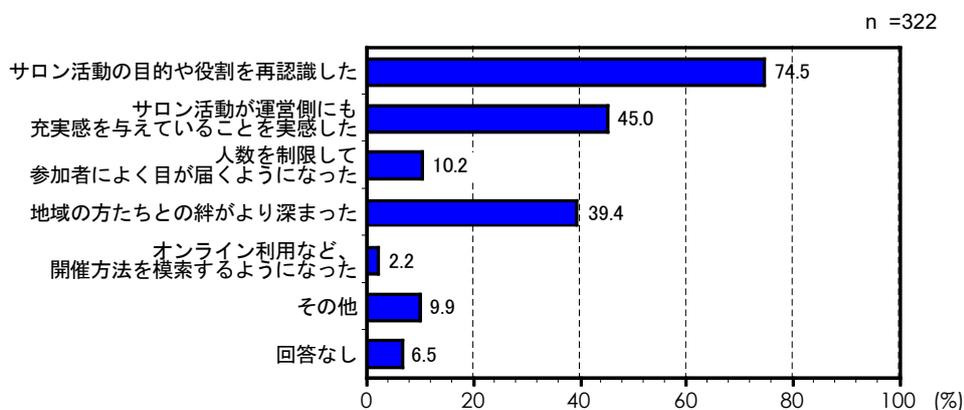


表 2-3-19 感染症拡大を経てサロン活動を実施してよかったこと (その他内訳)

内容
<ul style="list-style-type: none"><li>元気で明るい生活が出来ている</li><li>再開を待ち望んでいることが良く分かった</li><li>会員の健康確認ができた</li></ul>

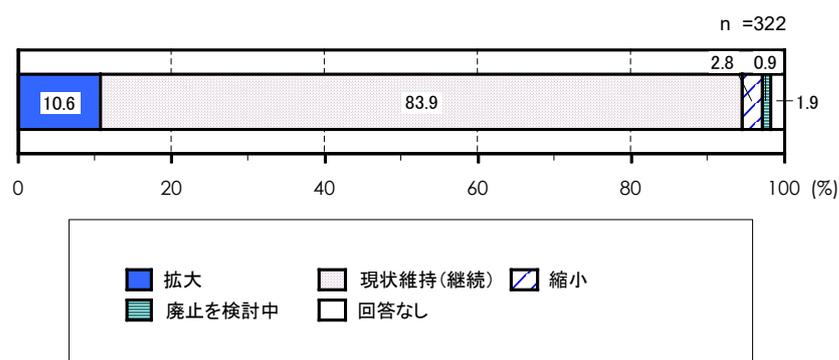
(11) 今後の運営意向

問 11 サロン運営の今後の方向性について教えてください。

◆全体の9割以上が継続または拡大の意向を示しています。

- サロン運営の今後の方向性では、「現状維持（継続）」が83.9%と最も高く、次いで「拡大」が10.6%と、9割以上が今後もサロン運営を続ける意向を示しています。
- 「縮小」は9件（2.8%）、「廃止を検討中」は3件（0.9%）となっています。

図 2-3-20 サロン運営の今後の方向性



(12) 参加者の困りごとと発見・解決に向け取り組んでいること

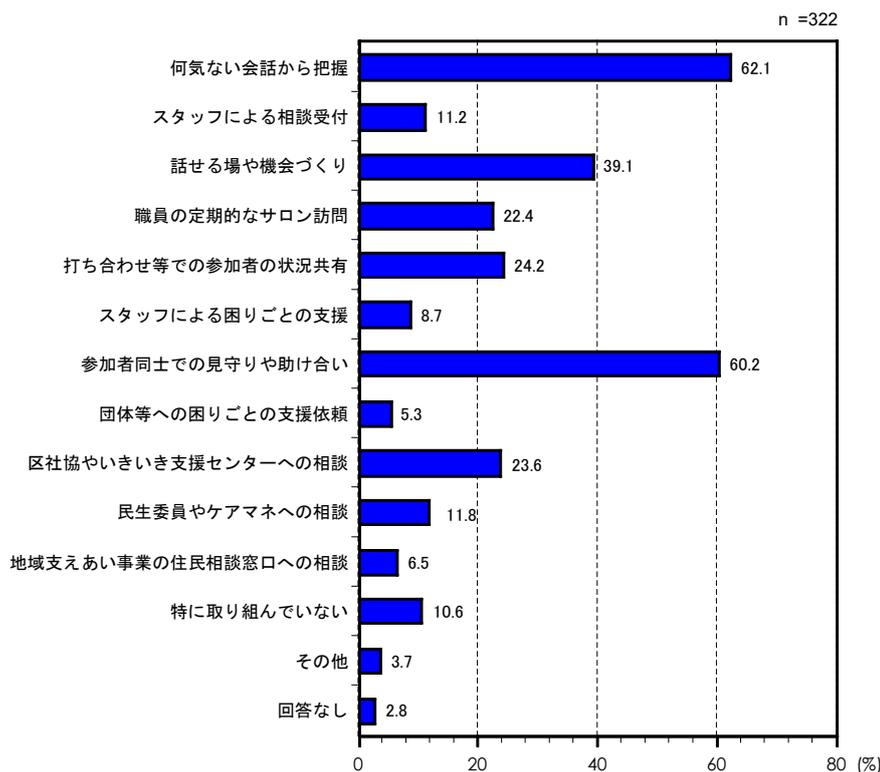
問 12 参加者のちょっとした困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいることについて教えてください。(あてはまるものすべてに○)

◆「何気ない会話から困りごとの把握」や、「参加者同士での見守りや助け合い」が多く取り組まれる一方、「団体等への困りごとの支援依頼」や、「地域支えあい事業の住民相談窓口への相談」との連携の取り組みは少ないようです。

○参加者の困りごとと発見・解決に向けて取り組んでいることでは、「何気ない会話から把握」が62.1%と最も割合が高く、次いで「参加者同士での見守りや助け合い」60.2%、「話せる場や機会づくり」が39.1%と続きます。

○一方で、「団体等への困りごとの支援依頼」が5.3%と最も低く、「地域支えあい事業の住民相談窓口への相談」(6.5%)の取り組みは低いようです。

図 2-3-21 参加者の困りごとと発見・解決に向け取り組んでいること



## 第4章 サロンの経費や助成制度

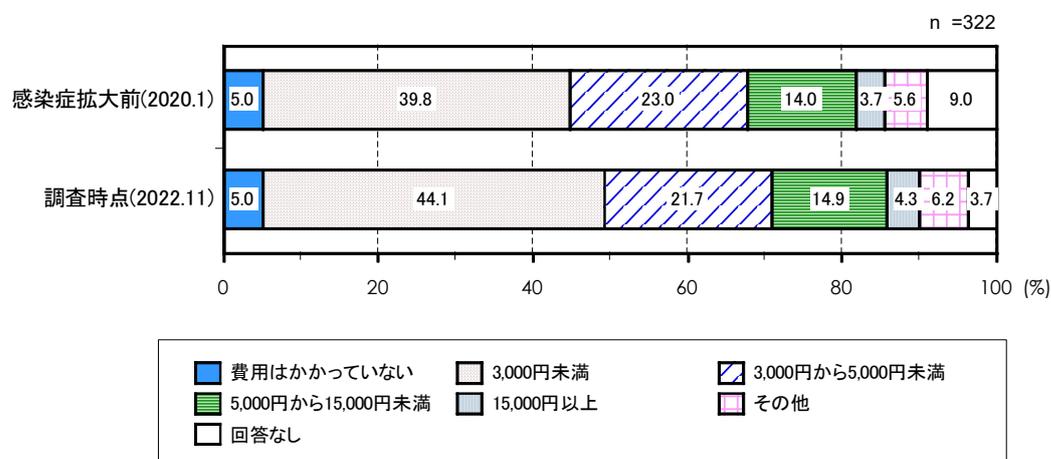
### (1) 1回開催あたりの必要経費

問 13 1回開催あたりの必要な経費について教えてください。(感染症拡大前及び調査時点現在)

◆全体の9割以上のサロンが、開催するにあたり何らかの経費がかかっていると回答しています。金額は、「3,000円未満」が4割と最も高くなっています。

- サロン1回開催あたり必要な経費として、感染症拡大前では、「3,000円未満」が39.8%と最も割合が高く、次いで「3,000円から5,000円未満」(23.0%)、「5,000円から15,000円未満」(14.0%)と続いています。
- サロンを開催するために何らかの経費が必要となっているサロンは8割を超え、感染症拡大前と調査時点を比較すると、そこまで大きな違いはみられません。
- 一方で、サロンを開催するにあたって、「費用はかからない」と回答したサロンの割合は感染症拡大前、調査時点ともに16件(5.0%)程度あり、サロン運営にあたって費用がかからないように運営しているサロンもあります。

図 2-4-1 サロン1回あたりの必要経費



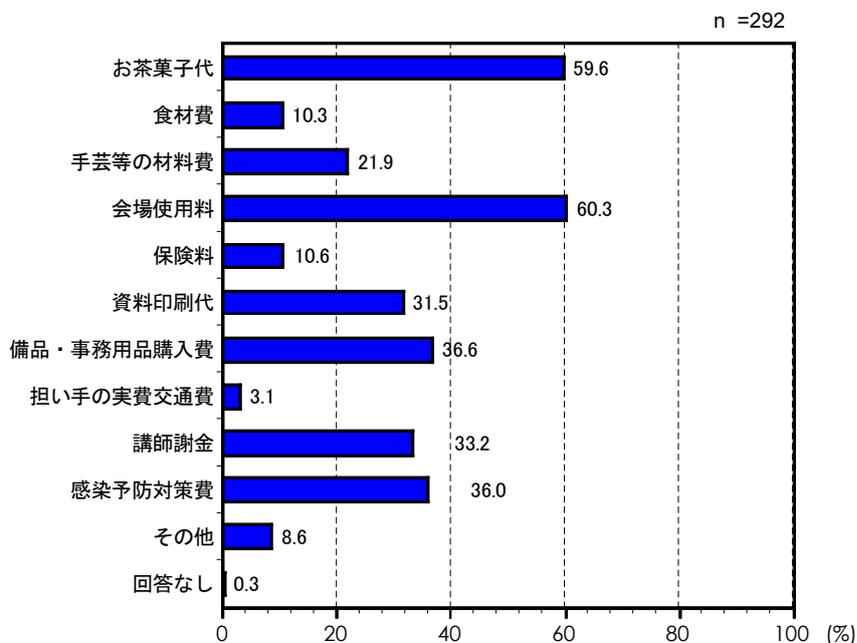
## (2) サロン開催費用の内容

問 14 (問 13で「費用がかかる」と回答した団体に対し) サロン開催費用の内容を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

◆サロン開催費用の内容として、「会場使用料」「お茶菓子代」はそれぞれ6割を占めています。

- 前問で「費用がかかる」と回答した 292 団体に対してサロン開催費用の内容を尋ねたところ、「会場使用料」が 60.3%と最も高く、次いで「お茶菓子代」(59.6%)、「備品・事務用品購入費」(36.6%)と続いています。
- 「感染予防対策費」も 36.0%と、4番目に高くなっています。

図 2-4-2 サロン開催費用の内容



(3) 感染予防対策にかかった費用

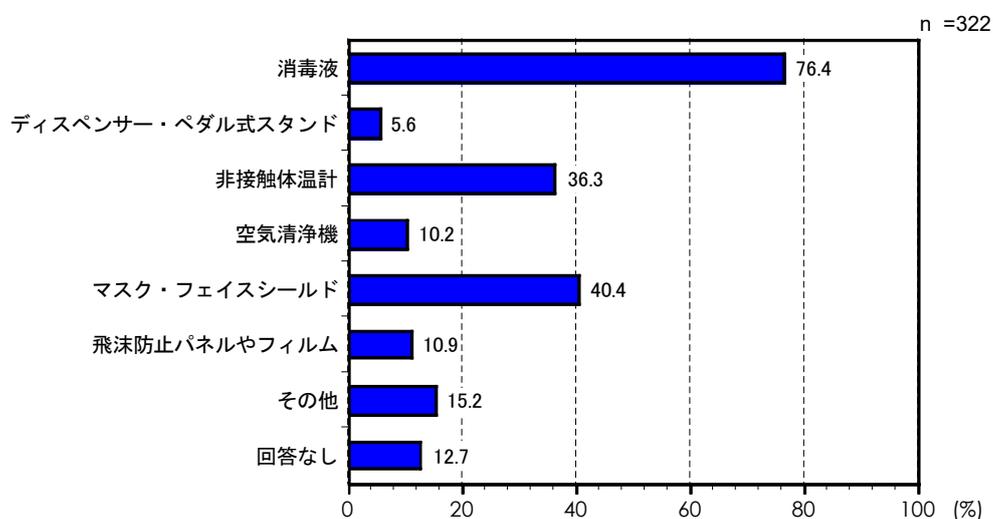
問 15 感染予防対策として購入したものを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

◆「消毒液」は8割弱、「マスク・フェイスシールド」「非接触体温計」はそれぞれ4割を占めています。

○感染予防対策として購入したものでは、「消毒液」が 76.4%と最も割合が高く、次いで「マスク・フェイスシールド」が 40.4%、「非接触体温計」が 36.3%と続いています。

○なお、回答なしが 12.7%あります。

図 2-4-3 感染症対策にかかった費用



(4) サロンの運営費（収入）の状況

問 16 サロンの運営費（収入）の状況について教えてください。

◆全体の8割以上が運営費(収入)状況を概ね良好としています。

【全体】

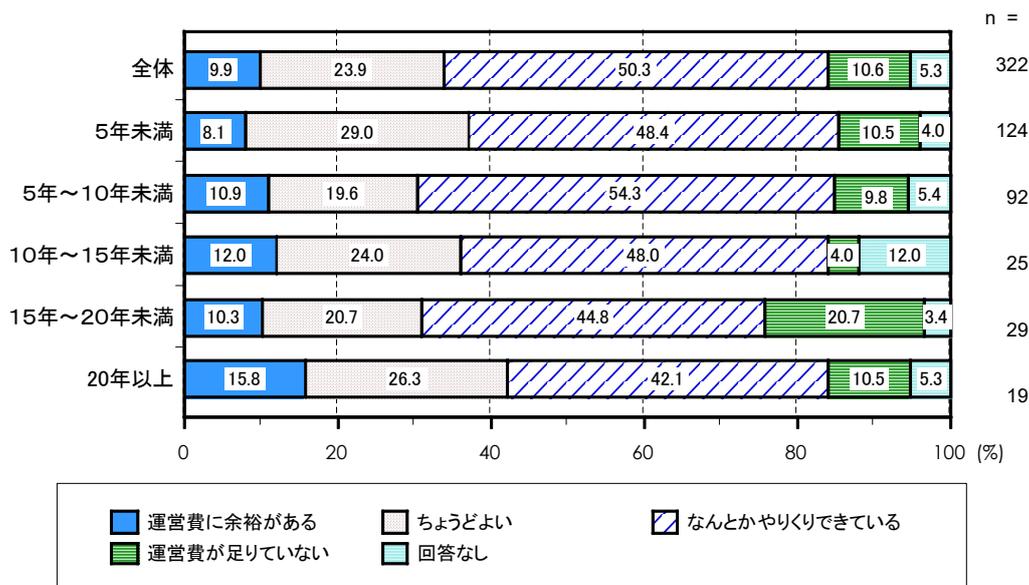
○「なんとかやりくりできている」が50.3%と最も割合が高く、次いで「ちょうど良い」(23.9%)と続いており、「運営費に余裕がある」(9.9%)を合すると、8割以上のサロンが運営費(収入)状況を概ね良好としています。

○一方で「運営費が足りていない」と回答したサロンの割合は10.6%となっています。

【サロンの開始年別】

○「運営費に余裕がある」や「ちょうどよい」の割合はサロン継続年数によってばらつきがあります。

図 2-4-4 サロンの開始年別「サロン運営費（収入）の状況について」



(5) 利用している助成金や補助金

問 17 サロンを継続的に運営していくために利用している

助成金や補助金について教えてください。

◆「区社協からの事業助成」と、「市社協の運営助成」の二つが多く利用されています。

【全体】

○サロンの継続的な運営のために利用している助成金や補助金として、「区社協からの事業助成」が50.6%と最も割合が高く、次いで「市社協の運営助成」が46.3%、「学区地域福祉推進協議会」が24.2%と続いています。

【サロンの開始年別】

○サロン開始年が5年未満～15年未満のサロンは、「市社協の運営助成」が全体よりも高く、15年～20年以上のサロンでは「区社協からの事業助成」が全体よりも高くなっています。

図 2-4-5 利用している助成金や補助金について

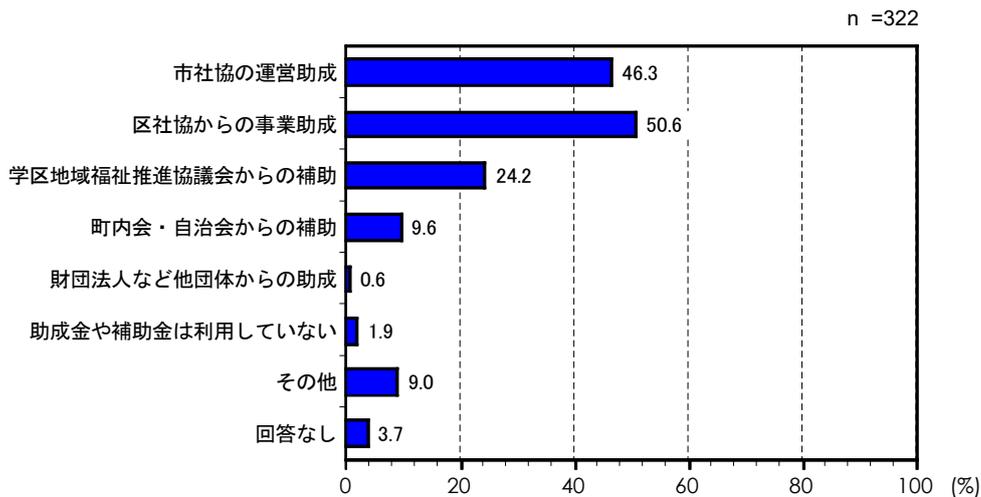
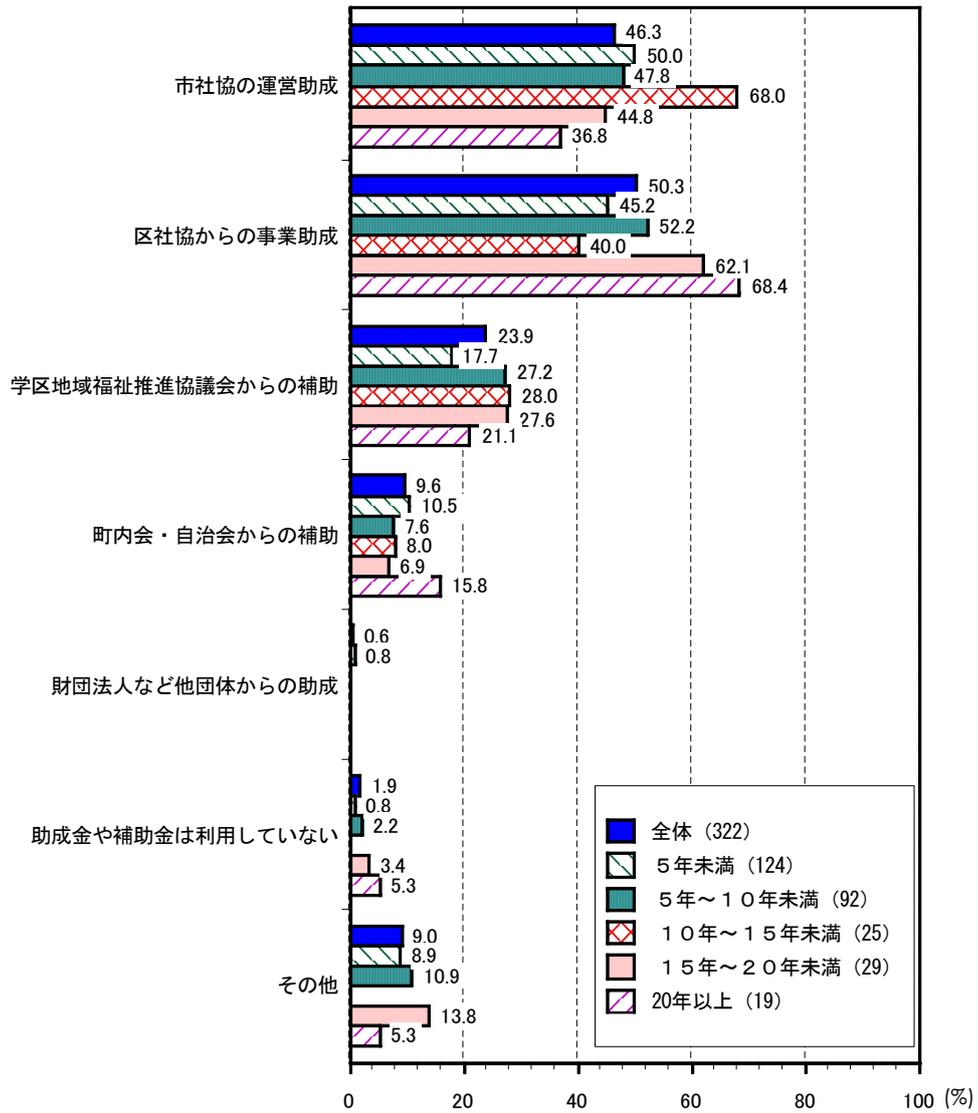


図 2-4-6 サロンの開始年別「利用している助成金や補助金について」



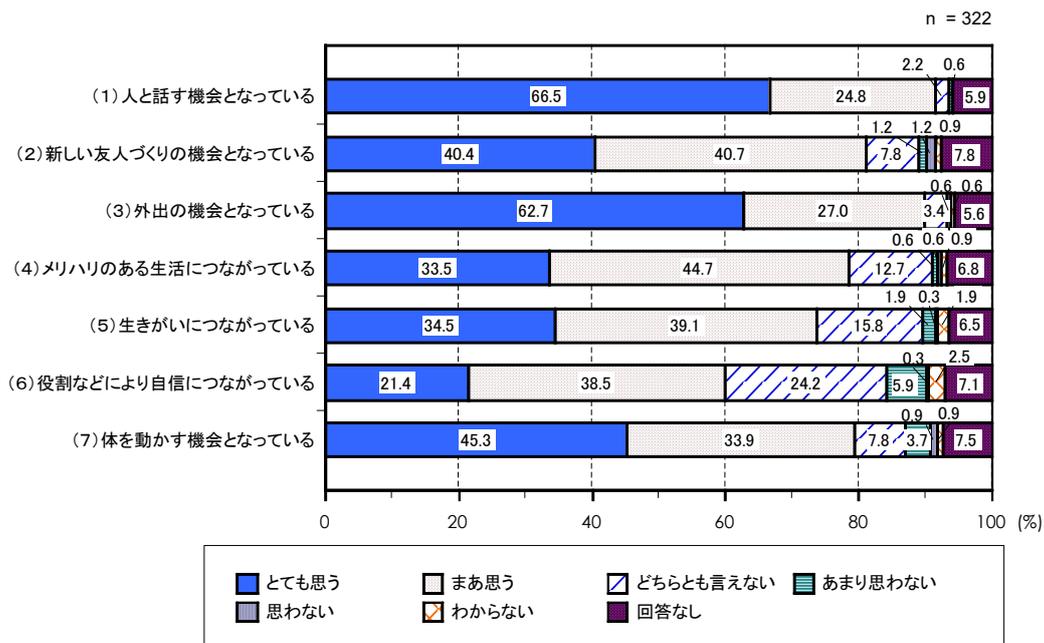
(1) サロン活動の参加者への効果

問 18① 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの閉鎖や活動中止を経験し、改めて感じている「①参加者への効果」についてあなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

◆「人と話す機会が増えている」、「外出の機会となっている」といった効果が高く、全体的には効果が出ているとする項目が多くを占めています。

- サロン活動が参加者に与える効果として、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「人と話す機会が増えている」が91.3%と最も高く、次いで「外出の機会となっている」(89.7%)、「新しい友人や仲間づくりの機会となっている」(81.1%)、「体を動かす機会となっている」(79.2%)、「メリハリのある生活につながっている」(78.2%)となっています。
- 「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、全体を通して低いものの「役割などがあることで自信につながっている」が6.2%と最も割合が高く、次いで「体を動かす機会となっている」(4.6%)となっています。
- 全ての項目で「とても思う」と「まあ思う」の合計値が「あまり思わない」と「思わない」の合計値を大きく上回っており、全体を通じて効果が出ていると思う人の方が効果を感じていない人よりも多くなっています。

図 2-5-1 サロン活動の①参加者への効果



(2) サロン活動のサロンとしての効果

問 18② 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの閉鎖や活動中止を経験し、改めて感じている「② 貴サロンの効果」についてあなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んでください。

◆「参加者の安否確認ができる」、「閉じこもり・孤立の防止になっている」、「参加者の体調の変化などに気づくことができる」といった効果を8割以上の人が感じています。全体的には効果が出ている項目が多くを占めています。

- サロン活動によるサロンへの効果は、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「参加者の安否確認ができる」が89.2%と最も高く、次いで「閉じこもり・孤立の防止になっている」(83.3%)、「参加者の体調の変化などに気づくことができる」(81.4%)、「介護予防や認知症予防になっている」(77.4%)となっています。
- 「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、「地域での助けあい活動や交流の拠点になっている」及び「ちょっとした困りごとの解決につながっている」が共に7.4%、「参加者の家族の負担軽減や気分転換になっている」が6.8%と、いずれの項目も高くなっています。
- 全ての項目で「とても思う」と「まあ思う」の合計値が「あまり思わない」と「思わない」の合計値を大きく上回っており、全体を通じて効果が出ていると思う人の方が効果を感じていない人よりも多くなっています。

図 2-5-2 サロン活動の②サロンとしての効果

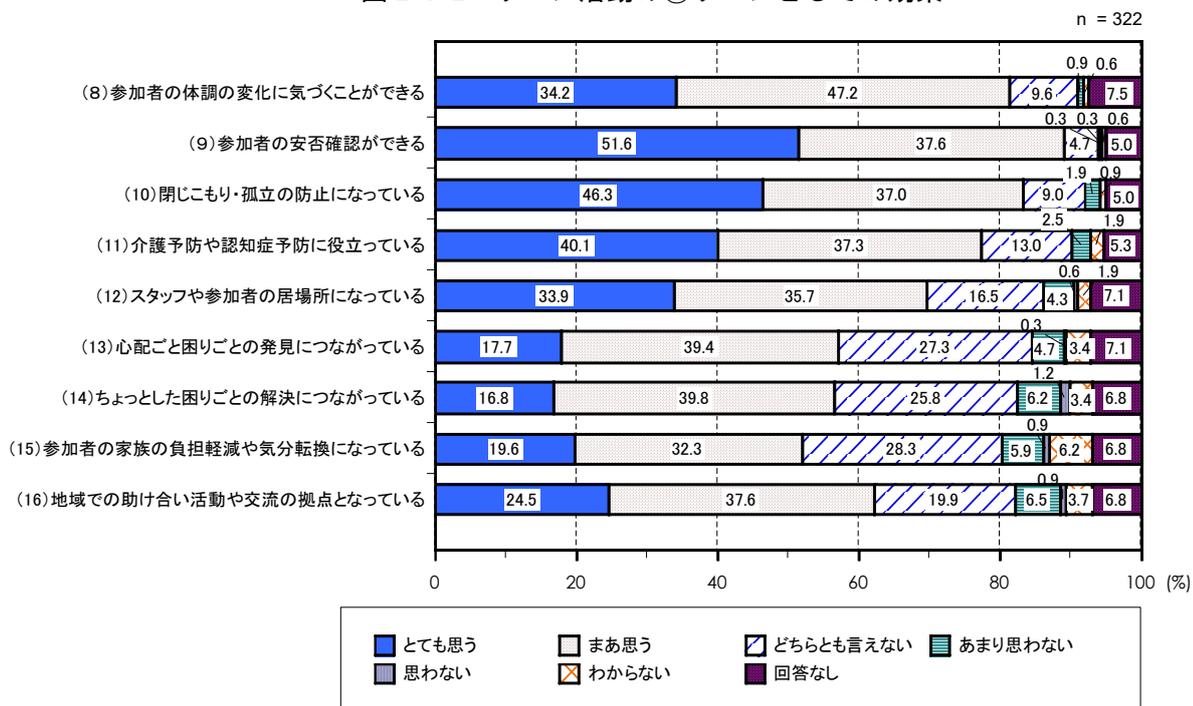


表 2-5-3 その他感じているサロン活動の効果（その他内訳）

内容
・ お金の負担のない楽しい時間になっている
・ ボランティア全員の張り合いにもなっている
・ 健康維持について学習できる機会となっている

(3) 今後の発展のために必要だと思うこと

問 19 今後、サロン活動がより一層発展するために必要だと思うことを教えてください。

◆「新たな担い手の確保」や、「地域住民へのサロン活動の周知」、「継続的な運営助成や補助」が特に必要だと考えられています。

**【全体】**

○今後のサロン活動の発展に向けて、「新たな担い手の確保」が62.7%と最も高く、次いで「地域住民へのサロン活動の周知」(59.6%)、「継続的な運営助成や補助」(45.0%)、「男性参加者の増加」(43.5%)と続いています。

**【サロンの開始年別】** (図 2-5-5)

○サロン運営年数に関わらず、「新たな担い手の確保」、「継続的な運営助成や補助」、「助成金要件の緩和(開催回数等)」が高くなっており、5年未満～20年未満のサロンでは、「男性参加者の増加」が全体と比較して高くなっています。また、サロン開催年数が高くなるにつれて、「参加対象世代の拡大」、「他のサロンとの交流・情報交換」、「スタッフの学習の機会の増」が高くなっています。

○また、15年以上のサロンでは、「感染症対策への具体的な対応」、「集まって開催する以外の活動の情報提供」が全体と比較して高くなっています。

表 2-5-4 今後の発展のために必要なこと

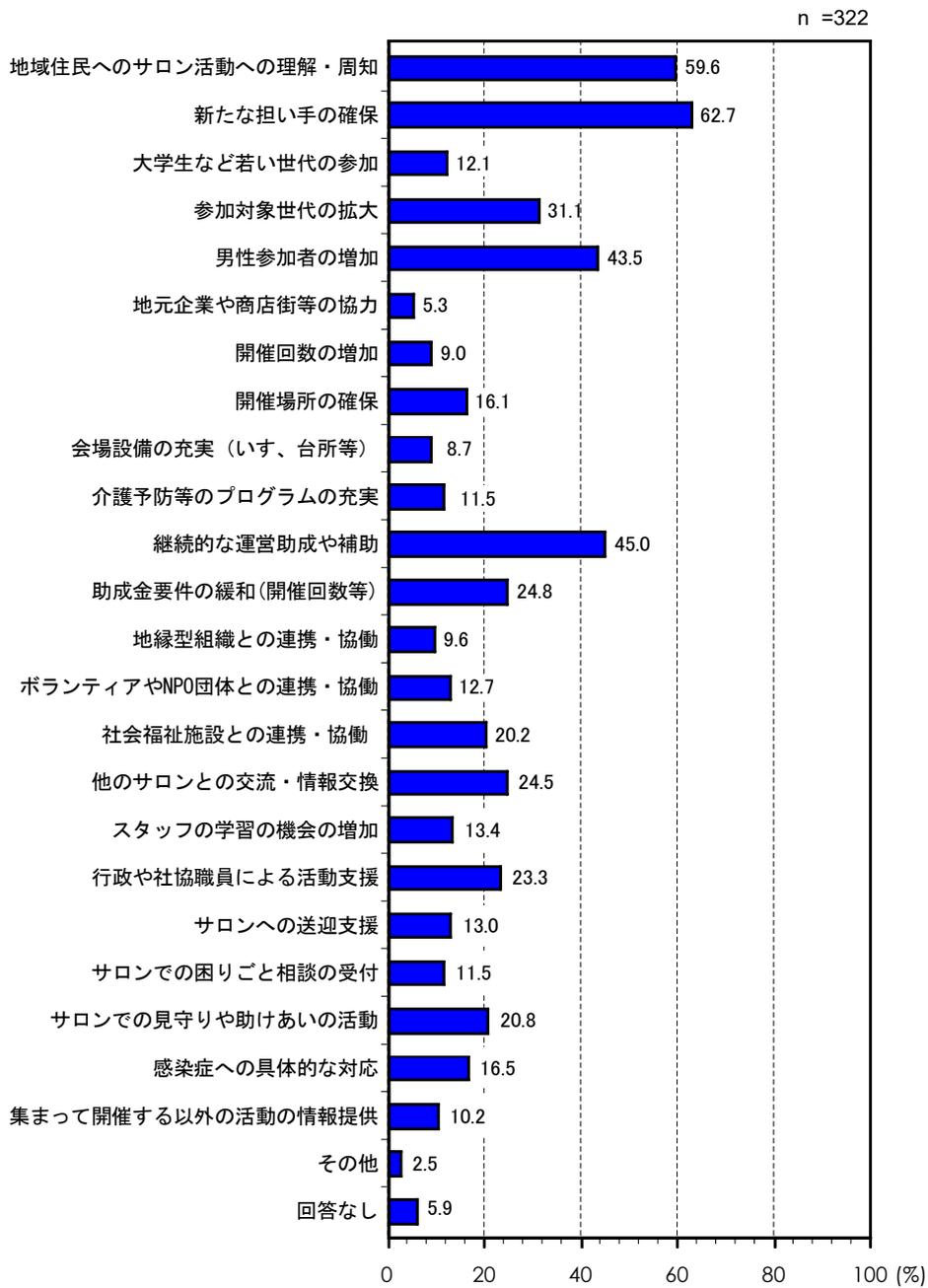
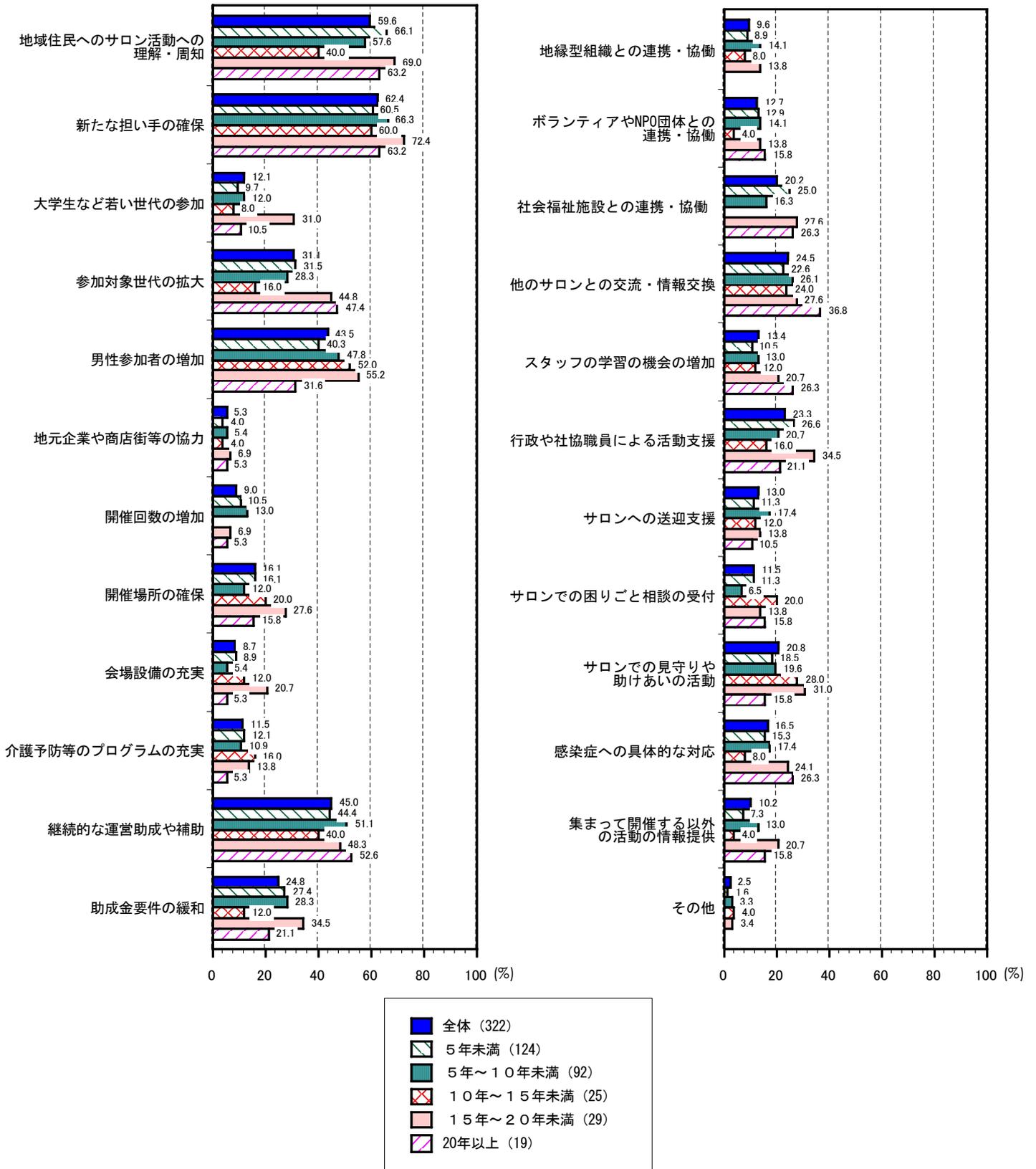


表 2-5-5 サロンの開始年別「今後の発展のために必要なこと」



#### (4) 感染症の拡大を経験して、必要だと感じる支援

問 20 新型コロナウイルス感染症の拡大を経験して感じる、必要な支援について教えてください。

◆サロン活動継続のための必要な支援として、開催の判断基準や感染予防の基準、活動実施に向けた注意点やアドバイスといったきめ細やかな支援が求められています。

##### 【全体】

- サロン活動継続のために、「感染拡大下でのサロン開催の判断基準が知りたい」が 55.9%と最も高く、次いで「活動実施に向けた注意点やアドバイスがほしい」(31.7%)、「他のサロンの活動状況や取組の工夫が知りたい」(26.4%)、「活動内容ごとの感染予防の基準が知りたい」(25.8%)と続いています。
- 「サロン活動実施方を改善したい」(11.5%)、「屋外活動を行う上での場所やプログラムを知りたい」(9.0%)、「オンラインツールを使ったサロンの開催方法が知りたい」(2.5%)といった新たな取組に関するニーズは低い状況です。

##### 【サロンの開始年別】

- 10年～15年未満及び20年以上では、「感染症拡大下でのサロン開催の判断基準が知りたい」が全体と比較して特に高くなっています。また、運営年数が15年以上のサロンでは、「他のサロンの活動状況や取組みの工夫が知りたい」が高くなっています。

図 2-5-6 感染症の拡大を経験して必要だと感じる支援

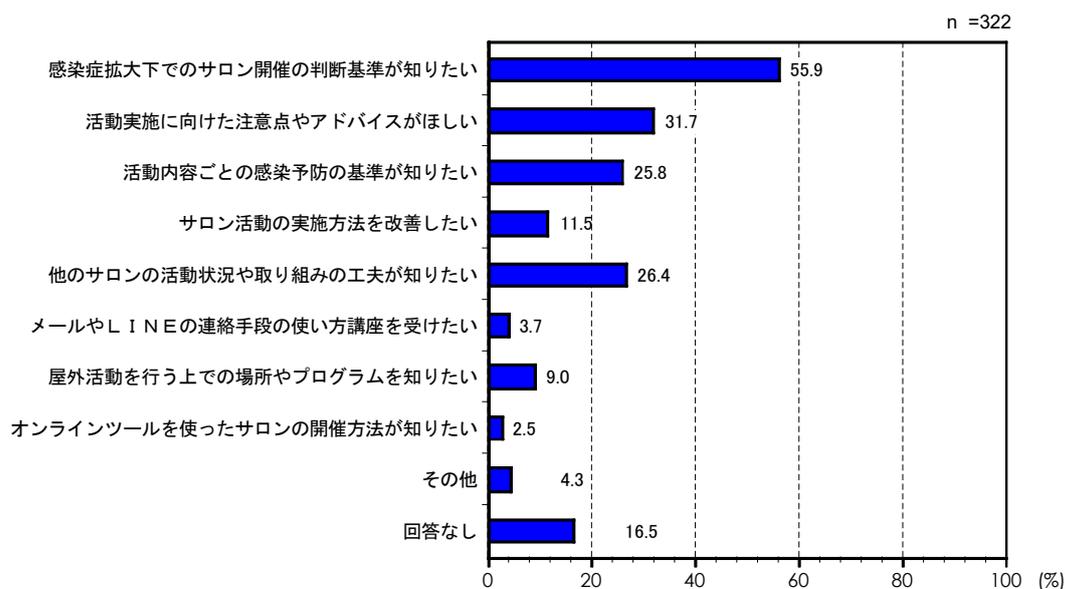


図 2-5-7 サロンの開始年別「感染症の拡大を経験して必要だと感じる支援」

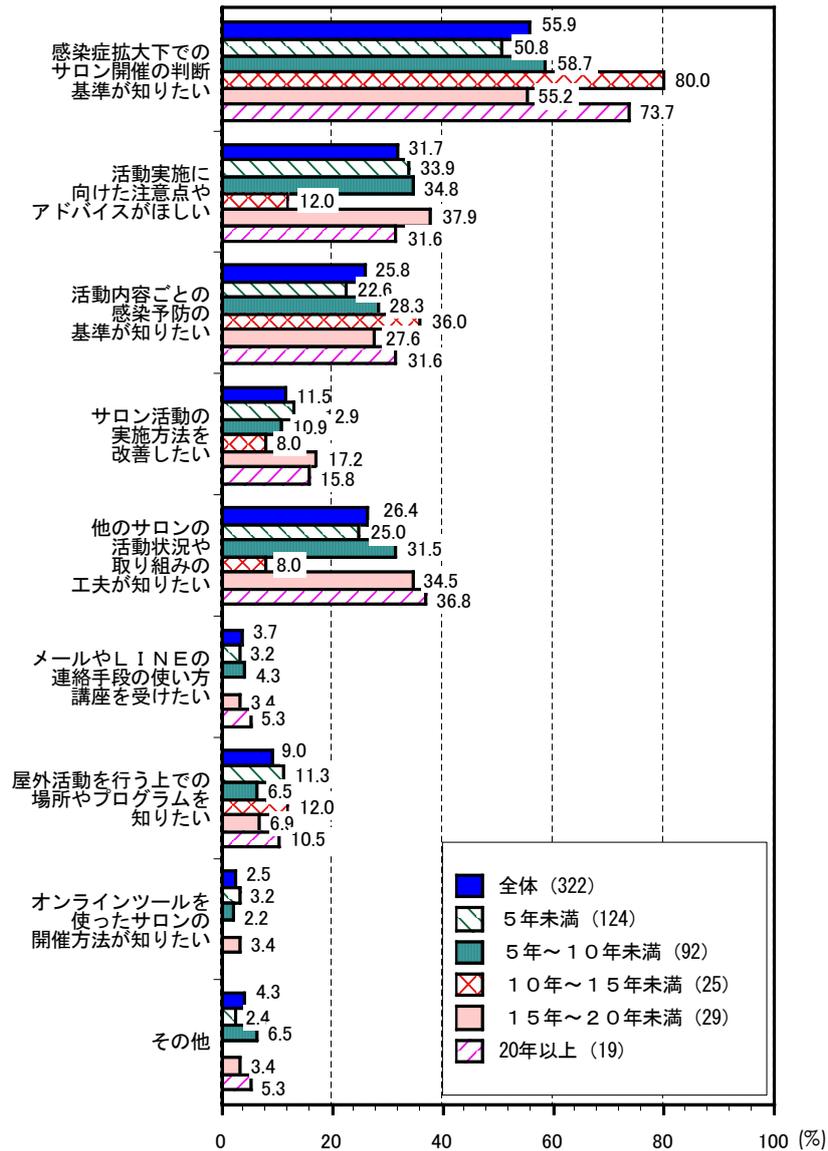


表 2-5-8 感染症の拡大を経験して必要だと感じる支援（その他内訳）

内容
・ 備品の支給、購入補助、体温計、消毒装置、空気清浄器を支援してほしい。

## 第 6 章 地域共生社会について

### (1) 「地域共生社会」の認知度

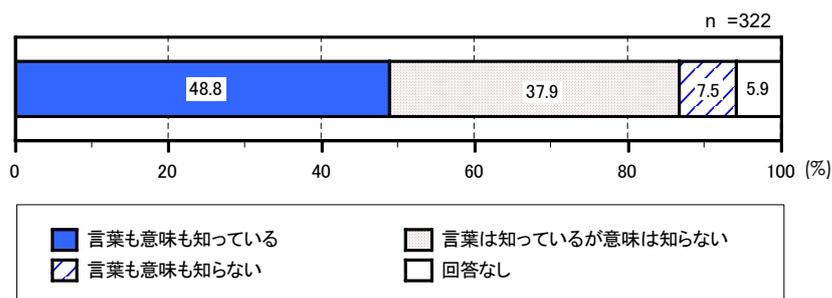
問 21 あなたは、「地域共生社会」を知っていますか。

◆「地域共生社会」について、およそ5割のサロンが「言葉も意味も知っている」と回答しています。

#### 【全体】

○「言葉も意味も知っている」が48.8%と最も割合が高く、次いで「言葉は知っているが意味は知らない」が37.9%と、言葉の認知度は86.7%となっています。一方、「言葉も意味も知らない」が7.5%となっています。

図 2-6-1 「地域共生社会」の認知度



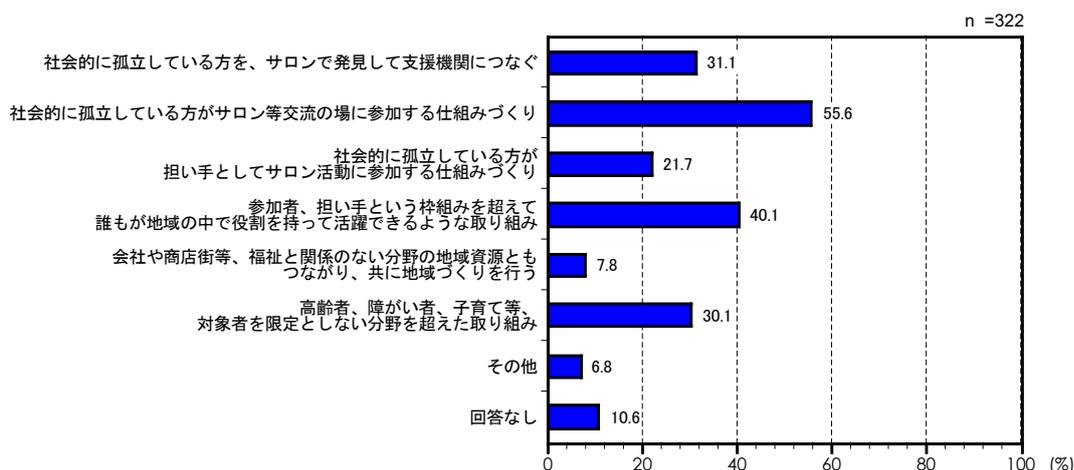
(2)「地域共生社会」の実現に向けて

問 22 「地域共生社会」の実現に向けて、あなたのこれからのサロン活動において取り組むことが出来そうなことを教えてください。

◆「社会的に孤立している方がサロン等交流の場に参加する仕組みづくり」をはじめほとんどの項目への関心が高くなっています。

○出来そうな取組として、「社会的に孤立している方がサロン等交流の場に参加する仕組みづくり」が 55.6%と最も高く、次いで「参加者、担い手という関係を超えて誰もが地域の中で役割を持って活躍できるような取り組み」が 40.1%、「社会的に孤立している方を、サロンで発見して支援機関につなぐ」が 31.1%、「高齢者、障がい者、子育て等、対象者を限定としない分野を超えた取り組み」30.1%と続きます。

図 2-6-2 「地域共生社会」の実現に向けてサロン活動で出来そうな取組



(3) サロン運営について日ごろ感じていることについて

問 23 サロンを運営する中で、日頃考えていたり、感じていたりすることがあればご自由にお書きください。

◆サロン運営への提案や感想を 177 名から 258 件いただいています。

○代表者として、サロン活動のこれまでの成果や今後の期待、運営における問題点、参加者、担い手の確保について、会場や連携する機関・団体、助成金について、そしてプログラム・内容の充実に向けて、新型コロナウイルス感染症拡大の対応についてなど、多くの意見が寄せられました。

■分類別記入件数と、代表的な意見（抜粋）

サロン運営（62 件）

〔サロンの必要性〕（12 件）

- ・サロンでの活動がますます大切になってきていると感じる
- ・小規模でも良いので会場を増やしてほしい
- ・サロンが高齢者の憩いの場になっていることに喜びを感じている
- ・居場所の提供と、挨拶や声掛けの必要性を感じる
- ・サロンが発展して人と繋がっていききたい

〔運営について〕（7 件）

- ・楽しいサロン、憩いの場になることを願っている
- ・みんなで話し合い、確認し合って進めるように心がけている

〔困りごと〕（10 件）

- ・予約制ではないので、人数把握、準備ができず困っている
- ・自信がないまま、サロンの開催をしている
- ・問題を共有して解決に向けることの大切さを痛感している

〔活動の継続について〕（7 件）

- ・活動を継続していきたい
- ・サロンをどのように継続するか悩んでいる

〔情報提供・情報発信について〕（12 件）

- ・どのようなサロンが近くにあるか知らない人が多い
- ・アピールをもっとしてほしい
- ・もっと多くの人に知ってもらえる手段はないか
- ・他のサロンの活動を知りたい。
- ・サロングループ向けのLINEによる情報共有の仕組みをサポートしてほしい
- ・SNS は便利である

〔支援の必要性について〕（8 件）

- ・社会福祉協議会の支援に感謝している。今後も引き続きお願いしたい
- ・行政の専門的な支援がほしい
- ・プログラム作りなど専門的なサポートが必要である
- ・地域ささえあい事業として活動できないか

〔その他〕（6 件）

- ・多すぎるとまとまりがなくなる。今の人数でよい

サロン参加者（61 件）

〔減少〕（3 件）

- ・高齢で参加が難しくなっている人がいる
- ・高齢者も仕事をしているので参加しない

〔増加〕（26 件）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人に来てほしい</li> <li>・どのようにして参加者を増やすかが課題である</li> </ul> <p>[男性] (4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男性の参加者が少ない</li> <li>・男性の参加を促す取り組みが必要だが思いつかない</li> </ul> <p>[孤立者] (10件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引きこもりがちの高齢者にサロンに参加してもらいたい。</li> <li>・社会的に孤立している方が自ら進んでサロンに参加していることは少ないように思う</li> </ul> <p>[参加者] (18件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさんが楽しく元気に体操ができて嬉しく思っている</li> <li>・日々の楽しみや生きがいづくりに毎週顔を見せてもらうことで安心している</li> <li>・いろいろな性格の人との交流が生活に良い刺激を与えている</li> <li>・認知症の方が元気になっている</li> </ul>
<p><b>担い手確保 (35件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな担い手を確保したい</li> <li>・新たな担い手の確保が難しい</li> <li>・ボランティアが高齢化している</li> <li>・男性ボランティアがいない</li> <li>・若い人に参加してもらいたい</li> <li>・スタッフも楽しく活動している</li> </ul>
<p><b>会場について (20件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場の確保が難しい</li> <li>・個人の家やお店の空間を使わせてくれる所にも補助があるとよい</li> <li>・身近なところに会場を確保できるとよい</li> <li>・会場が狭い。</li> <li>・机が重く、積み上げたり、下ろすのが難しくなっている</li> <li>・会場が2階で、足の悪い人、弱った人が利用するのが困難である</li> <li>・会場までの公共交通手段がない</li> <li>・交通手段がなく、行きたくても行けない人がいる</li> </ul>
<p><b>連携 (18件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人たちが交流できる、集まれる場所があるとよい</li> <li>・地域組織との連携・協力を進めたい</li> <li>・保健所の方が来てくれて、話をしたり、健康管理をしてくれた</li> <li>・民生委員、社会福祉協議会、行政の協力と支援があるとよい</li> <li>・地域包括ケアと老人クラブ活動をする</li> <li>・地域との交流、防犯、防災訓練をする</li> <li>・他のサロンと交流したい</li> </ul>
<p><b>助成金 (11件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助成金を増やしてほしい</li> <li>・助成金があってありがたい</li> <li>・赤字運営で苦勞している</li> <li>・家賃補助があるとよい</li> </ul>
<p><b>プログラムや内容 (38件)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン活動に楽しく参加できる工夫をしている</li> <li>・高齢者が来てくれる取り組みを考えたい</li> <li>・会員の趣味などをサロン活動に組み入れている</li> <li>・魅力的なサロンにするために、無料の新しい講師を紹介してほしい</li> <li>・サロンの内容にマンネリを感じるようになった。</li> <li>・活動範囲を検討したい</li> <li>・のんびりお茶を飲みながら、おしゃべりできればよい</li> </ul>

- ・健康に関する講座（理論、実技、健康体操、ラジオ体操など）をしている・やりたい
- ・スポーツ（グランドゴルフ、ボッチャなど）をしている・やりたい
- ・カラオケ、歌声サロンなどをしている・やりたい
- ・手芸、折り紙などをしている・やりたい
- ・将棋、碁、麻雀などをしている・やりたい
- ・脳トレをしている・やりたい
- ・防災訓練を実施する
- ・敬老パスを使って参加記録を収集できると助かる

#### 新型コロナウイルス感染症拡大対応（11件）

- ・コロナ感染拡大により中止をした
- ・新型コロナウイルス感染症拡大によるサロン中止の判断があいまいなため、具体的に指示してほしい
- ・感染の心配もあり参加する方が固定している
- ・コロナ禍で参加する人が減り、運営についても不安である
- ・消毒、換気、検温と感染症予防対策をしながらのサロン運営はスタッフの負担が大きい
- ・コロナ対策にかかる費用等が全て個人の負担になっている
- ・参加者からは早く集まりたいという声が多くある
- ・歌を歌うこと、朗読する、健康体操など、自粛しなければいけない行為を取り入れていることが多くあり、再開が難しい
- ・コロナ以前は雑談をしたくて来ている人が多かったが、今は控えている
- ・コロナ禍でコーヒーやお菓子を食べながら、雑談できないのが物足りない
- ・コロナ禍で外出機会が少なくなって体力や認知機能が落ちてきている高齢者が増えている
- ・サロン便りを発行するだけの活動をしている
- ・中止しているため、楽しんで全員が集まれる機会を待っている現状である
- ・どのように再開をするかが悩みである

#### その他（2件）

- ・ひとり暮らし高齢者、高齢者のみ世帯の方へアンケートを実施してほしい
- ・参加者が何をしたいのか知りたい。今は話をしたい

## 第7章 参加者のプロフィール

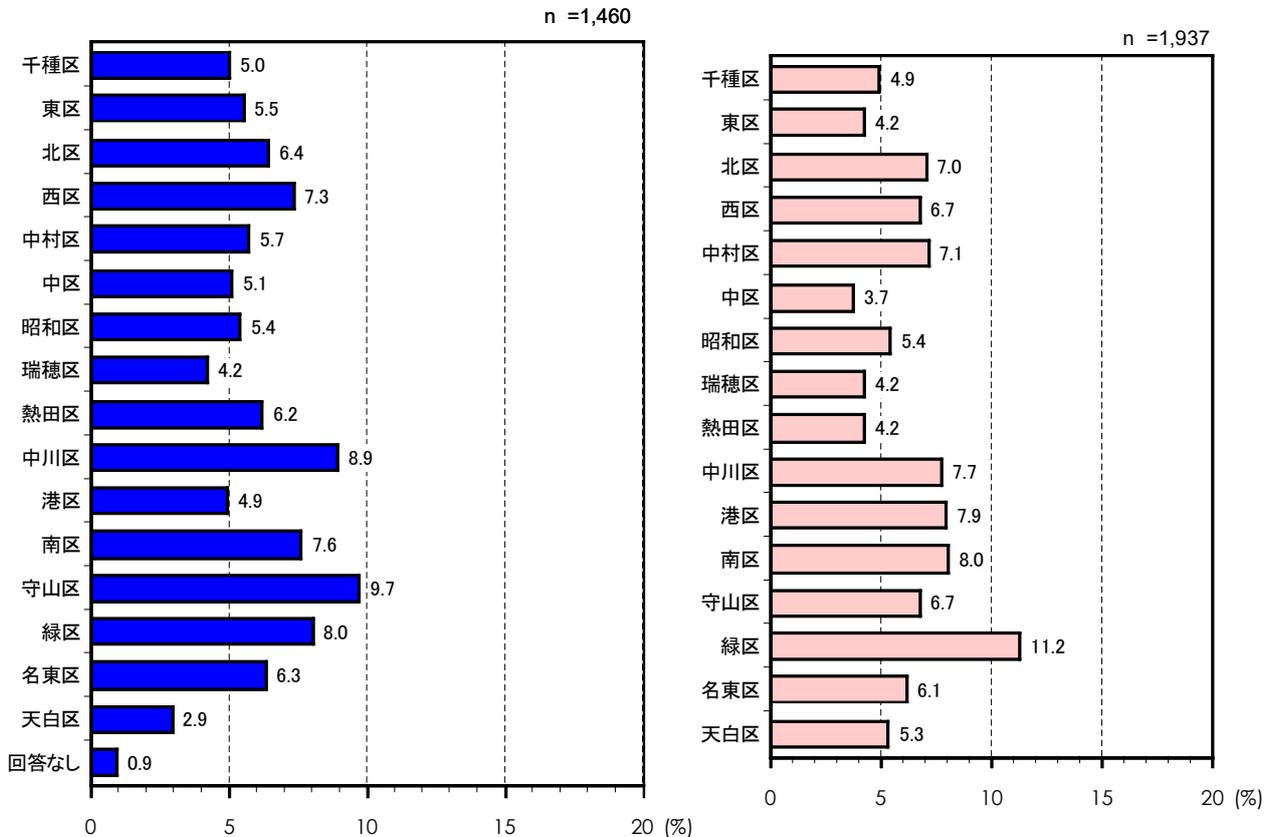
### (1) サロンの開催地区

問1-1 サロンの開催地区を教えてください。

◆守山区がもっとも多く、中川区、緑区と続きます。令和3年11月現在のサロン設置数と比較して、概ね現在のサロン数と同程度の割合で回答していると言えます。

- 回答数(1,460)全体に占める各区の割合は、守山区が最も多く9.7%、次いで中川区8.9%、緑区8.0%、南区7.6%と続き、一番少なかったのは天白区の2.9%でした。
- これは、アンケートを各区のサロン設置数を基に、全体数を比例案分して調査依頼をしていることから生じたものと思われます。
- 参考までに令和3年11月時点でのサロン設置数と、今回のアンケート調査回答とを比較すると、緑区、天白区の回答率が少ないものの概ね比率が一致していると言え、どの区のサロンも概ね同程度の割合で回答していると言えます。

図2-7-1 サロンの開催地区（アンケートより） 【参考】 令和3年2月時点でのサロン設置数



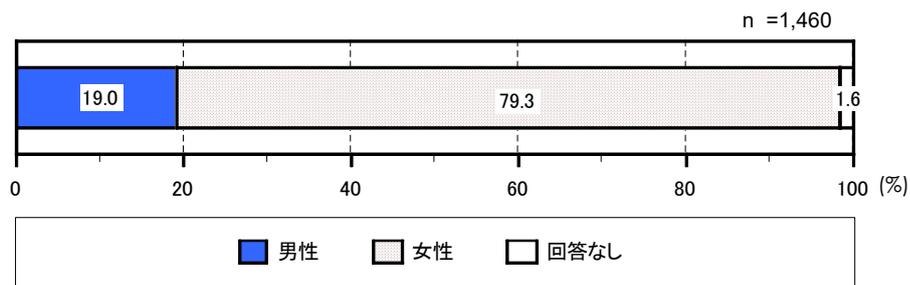
(2) 参加者の性別

問 1-2 サロン参加者の性別を教えてください。

◆「女性」が約8割と多くなっています。

○回答者の性別をみると、「女性」が79.3%、「男性」が19.0%と、女性が多くなっています。

図 2-7-2 サロン参加者の性別



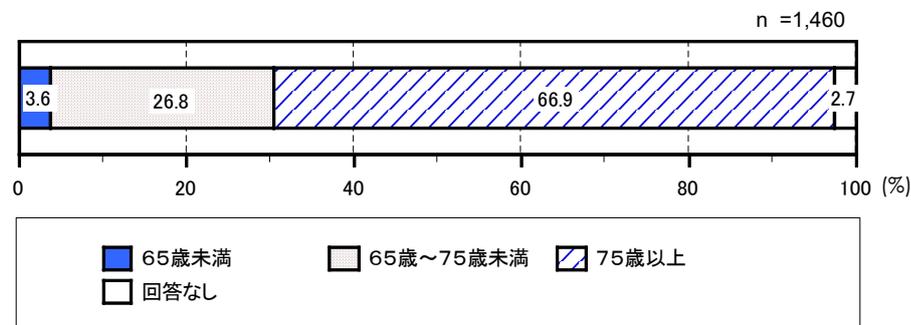
(3) 参加者の年齢

問 1-3 サロン参加者の年齢を教えてください。

◆高齢者が全体の9割を超えています。

○回答者の年齢をみると、「75歳以上」が66.9%、次いで「65歳～75歳未満」が26.8%、「65歳未満」が3.6%となっており、高齢者のサロン参加が全体の9割を超えています。これは今回アンケートが高齢者及び共生型サロンを対象としたためと思われます

図 2-7-3 サロン参加者の年齢



(4) 参加者の家族構成

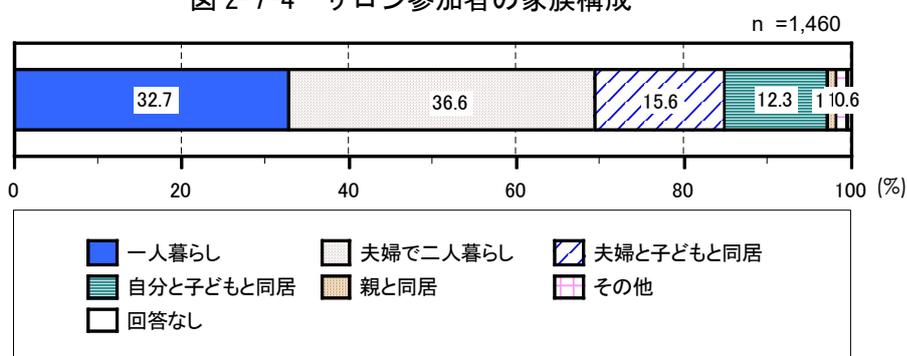
問 1-4 サロンの参加者の家族構成を教えてください。

◆「夫婦で二人暮らし」が36.6%で最も割合が高く、次いで「一人暮らし」が32.7%となっています。

○サロン参加者の家族構成をみると、「夫婦で二人暮らし」が36.6%で最も割合が高く、次いで「一人暮らし」が32.7%と続いており、約7割の方が高齢者のみの世帯で住んでいることがうかがえます。

○一方で、「夫婦と子ども（または子ども世帯）と同居」が15.6%、「自分と子ども（または子ども世帯）と同居」が12.3%あり、約3割の世帯が二世帯同居となっています。

図 2-7-4 サロン参加者の家族構成



(5) 参加者の介護認定の有無

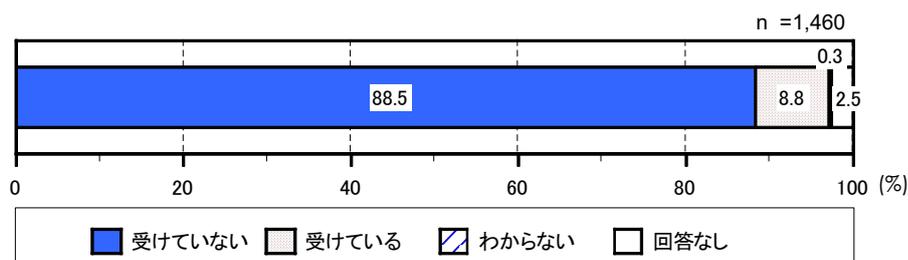
問 1-5 サロンの参加者の介護認定の有無を教えてください。

◆8割の人が介護認定を「受けていない」と答えています。

○サロン参加者の介護認定の有無をみると、「受けていない」が88.5%で最も割合が高くなっています。

○一方で、「受けている」が8.8%と介護認定を受けながらサロンに参加されている方が約1割となっています。

図 2-7-5 サロン参加者の介護認定の有無



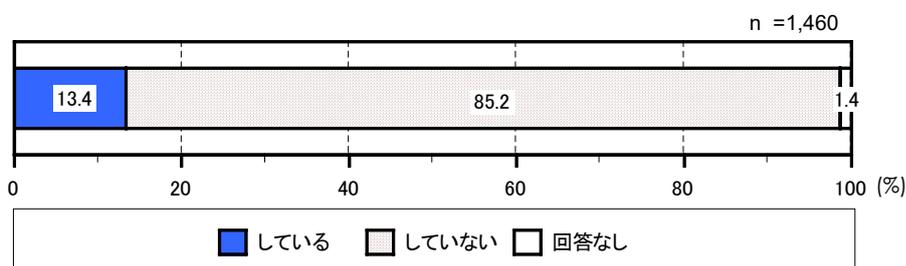
(6) 収入を得る仕事

問 1-6 収入を得る仕事の有無を教えてください。

◆収入を得る仕事を「していない」の割合が高く、85.2%となっています。

- サロン参加者の収入を得る仕事の有無をみると、「していない」が85.2%で最も割合が高くなっています。
- 一方で、収入を得る仕事を「している」が13.4%となっておりサロン参加者の約1割が収入を得る仕事をしながらサロンに参加しています。

図 2-7-6 収入を得る仕事の有無



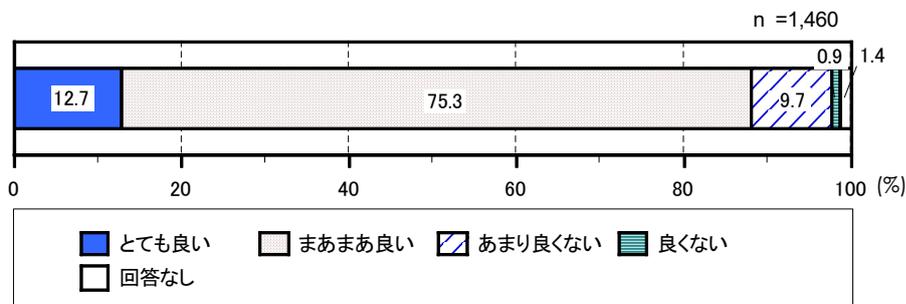
(7) 現在の健康状態

問 1-7 現在の健康状態を教えてください。

◆健康状態が良い方が約9割となっています。

- サロン参加者の現在の健康状態では、「まあまあ良い」が75.3%で最も割合が高くなっており、「とても良い」の12.7%と合わせると、健康状態の良い方が全体の約9割を占めています。
- 一方で、現在の健康状態が「あまり良くない」が9.7%となっており、「良くない」は0.9%となっています。

図 2-7-7 現在の健康状態



(8) 地域内で参加している活動

問 1-8 地域内で参加している活動を教えてください。

◆趣味・娯楽のグループや、老人クラブへの参加が多く、4割以上の方が、複数のサロンに参加しています。

○サロン参加者が地域内で参加している活動は、「趣味・娯楽のグループ」が50.3%、「老人クラブ」が28.3%「町内会・自治会活動」が25.1%となっています。

○「その他」では、地域での活動やスポーツ、文化活動等が挙げられました。

○また、参加しているサロンの数は、「1つ」が54.5%と最も多く、次いで「2つ」27.7%、「3つ」9.9%と続き、「4つ以上」参加する人は3.2%となっています。

図 2-7-8 地域内で参加している活動

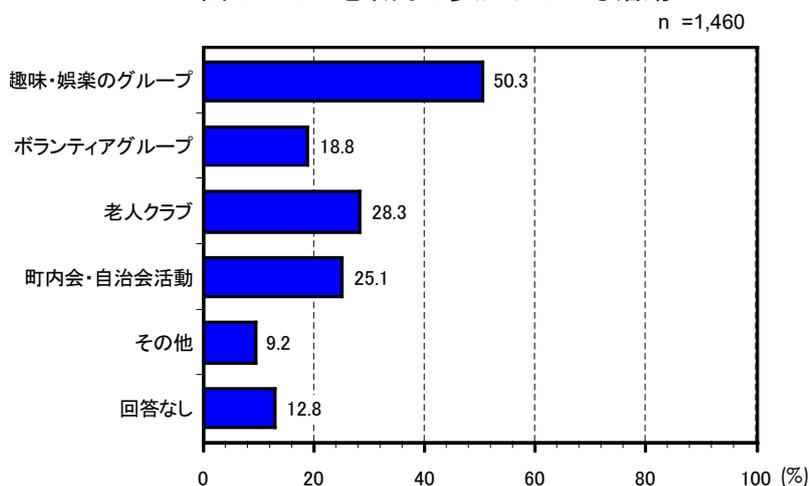


図 2-7-9 参加しているサロンの数

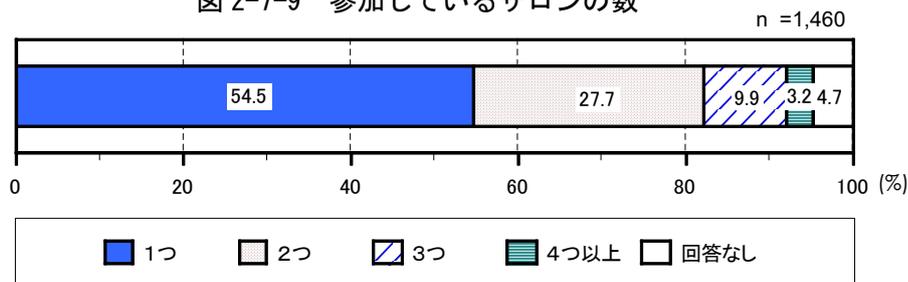


表 2-7-10 地域内で参加している活動（その他内訳）

内容		
・ 介護予防体操	・ グランドゴルフ	・ コミュニティセンターの活動
・ 健康教室	・ テニス	・ 女性会
・ ラジオ体操	・ 卓球	・ 民生委員
・ ウォーキング	・ クラフト教室	・ トワイライト
・ 給食会	・ 健康マーじゃん	・ 生協
・ 歌おう会/コーラス	・ カルチャーセンター	

(9) 新型コロナウイルス感染症拡大以前に地域内で参加している活動

問 1-9 新型コロナウイルス感染症拡大以前に地域内で参加していた活動を教えてください。

◆新型コロナウイルス感染症拡大以前に参加していた活動は、趣味・娯楽のグループや、町内会・自治会、老人クラブの参加が多く、現在と同様に4割以上の方が、複数のサロンに参加しています。

○サロン参加者が地域内で参加している活動は、「趣味・娯楽のグループ」が52.9%、「町内会・自治会活動」が28.4%、「老人クラブ」が27.4%となっています。新型コロナウイルス感染症拡大以前は「趣味・娯楽のグループ」「町内会・自治会活動」が現状よりもやや高くなっています。

○また、参加していたサロンの数は、「1つ」が46.9%と最も多く、次いで「2つ」24.9%、「3つ」11.1%と続き、「4つ以上」参加する人は4.4%となっています。

図 2-7-11 地域内で参加している活動

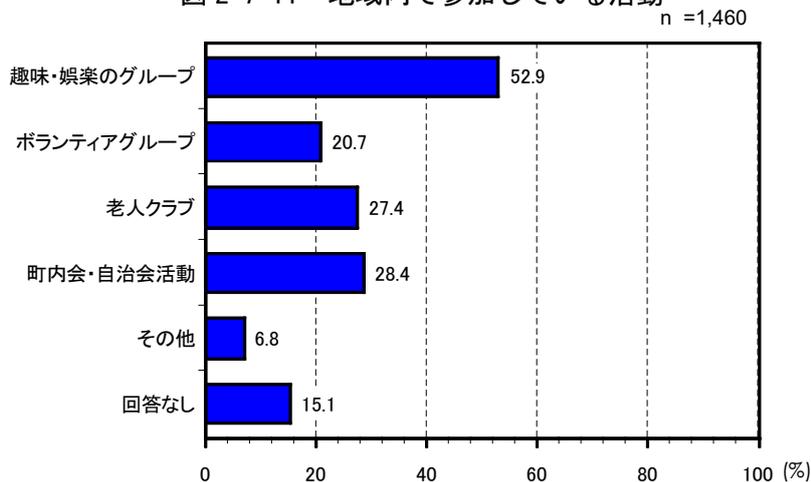
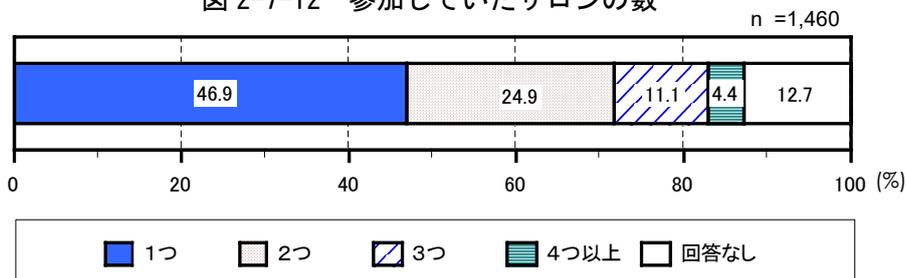


図 2-7-12 参加していたサロンの数



## 第8章 参加しているサロンについて

### (1) サロン会場までの徒歩による片道移動時間

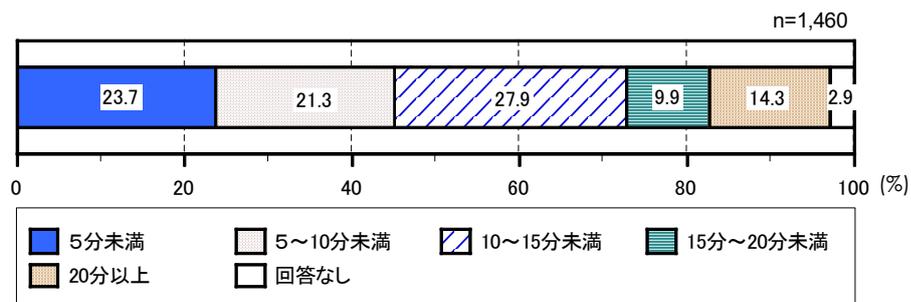
問2 自宅からサロン会場までの徒歩による片道移動時間を教えてください。

◆参加者の自宅から比較的近い場所が会場となっており、徒歩による片道移動時間は、「15分未満」が7割を占めています。

○自宅からサロン会場までの徒歩による片道移動時間は、「10分～15分未満」が27.9%と最も高く、次いで「5分未満」が23.7%、「5～10分未満」が21.3%と続いています。

○「10分～15分未満」が最も高くなっていますが、10分未満というサロン参加者の自宅から比較的近い場所の会場に行っていることがうかがえます。

図 2-8-1 サロン会場までの徒歩による片道移動時間



(2) サロンに参加する理由

問3 サロンに参加する理由を教えてください。

◆「健康を維持するため」、「友人や仲間との交流を深めるため」が、サロンに参加する主な理由となっています。

【全体】(図 2-8-2)

○サロンに参加する理由としては、「健康を維持するため」68.2%が最も高く、次いで「友人や仲間との交流を深めるため」(67.1%)、「開催場所が近いから」(46.6%)、「介護予防・認知症予防になるから」(42.5%)、「新たに友人や仲間をつくるため」(34.0%)となっており、サロンは健康維持や身近な交流の場となっていることがうかがえます。

【性別】(図 2-8-3)

○女性は「健康を維持するため」(70.5%)、が最も高く「介護予防・認知症予防になるから」「開催場所が近いから」が男性に比べて高くなっています。男性は、「友人や仲間との交流を深めるため」(64.7%)が最も高く、「地域や社会の役に立ちたいため」「趣味や特技、技術をいかすため」「自分の役割があるから」が女性に比べて高くなっています。

【年齢別】(図 2-8-4)

○「健康を維持するため」「介護予防・認知症予防になるから」「開催場所が近いから」は年齢が上がるにつれて高くなっています。「友人や仲間との交流を深めるため」は年代を問わず高くなっています。

【介護認定の有無別】(図 2-8-5)

○介護認定を受けている参加者は「介護予防・認知症予防になるから」が48.4%と全体と比較してやや高くなっています。

図 2-8-2 サロンに参加する理由 n =1,460

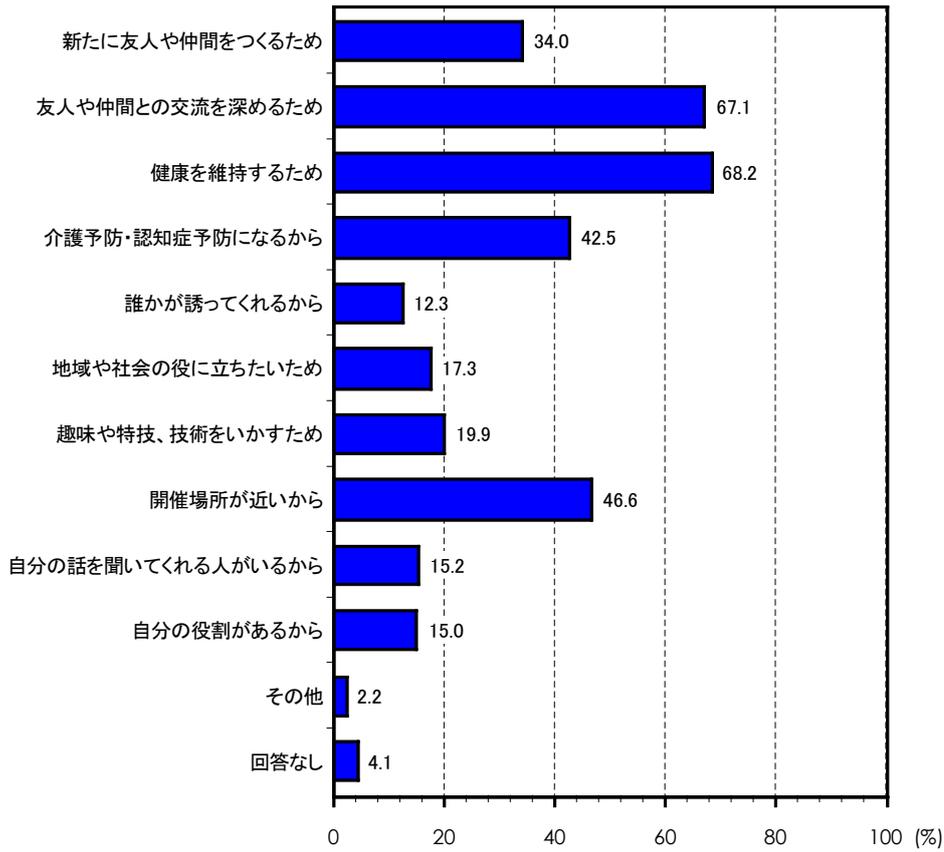


図 2-8-3 性別「サロンに参加する理由」

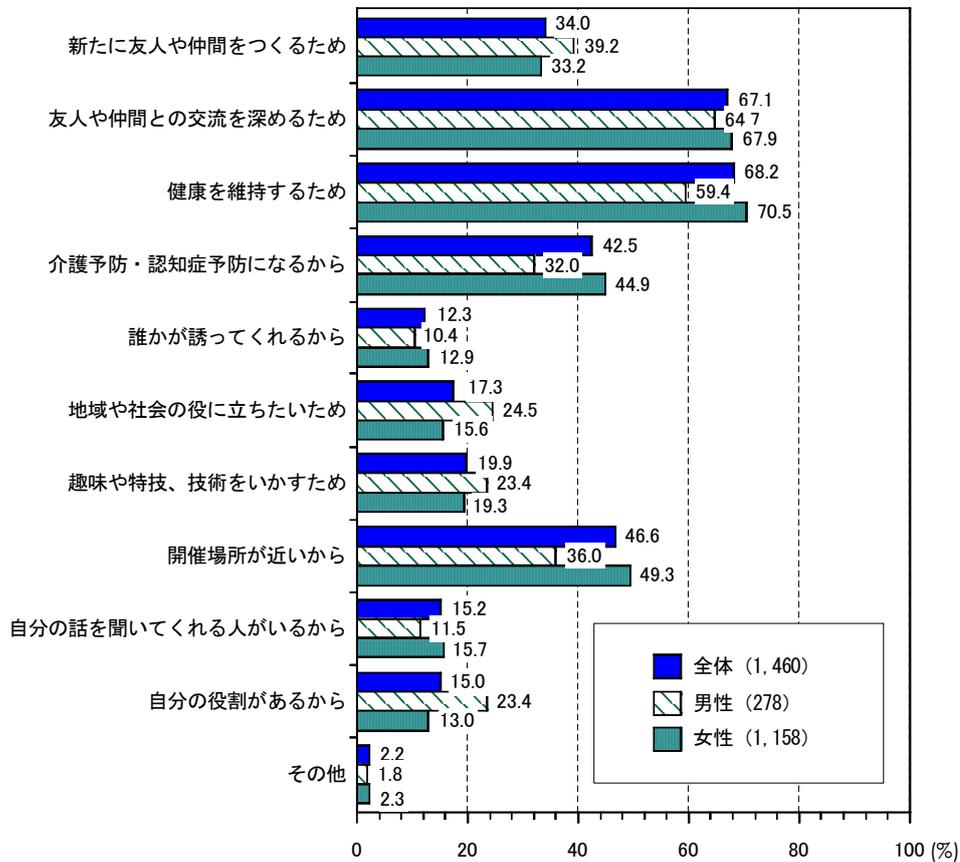


図 2-8-4 年齢別「サロンに参加する理由」

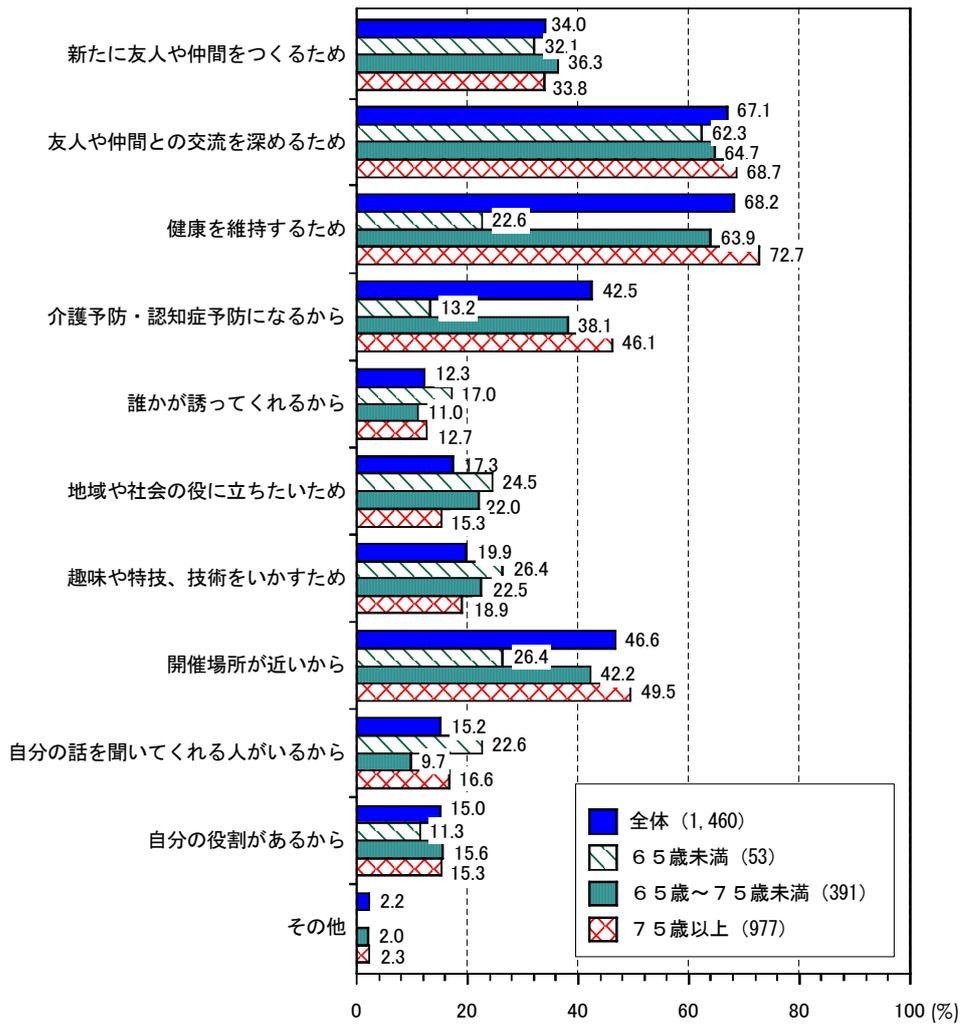


図 2-8-5 介護認定の有無別「サロンに参加する理由」

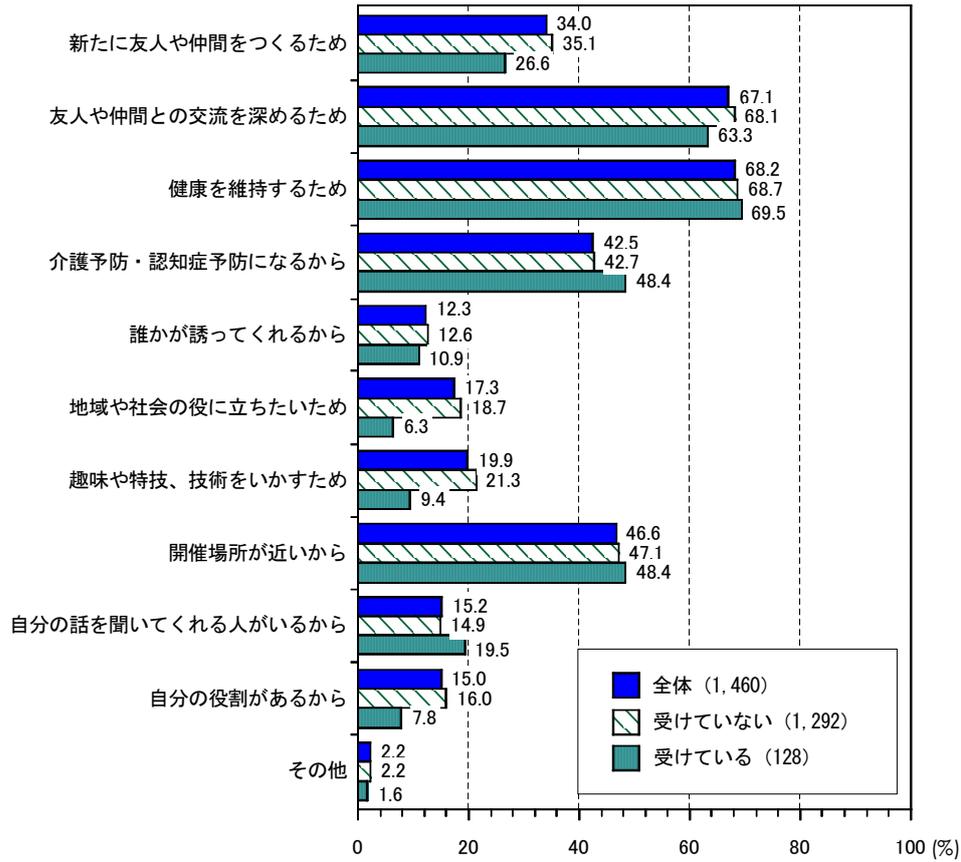


表 2-8-6 サロンに参加する理由（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽しい</li> <li>・ いろいろな人と知り合える</li> <li>・ おしゃべりができる</li> <li>・ 歌が好き</li> <li>・ 生活のリズムができる</li> <li>・ 情報を得られる</li> <li>・ 知識を深めることができる</li> <li>・ ひまつぶしになる</li> <li>・ 寂しさをまぎらわすため</li> </ul>

(3) サロン参加年数

問4 サロンに参加し始めてから何年経過したか教えてください。

◆「5年以上」が36.6%、「2～3年未満」が18.3%、「4～5年未満」が17.0%となっています。

○サロンに参加している年数としては、「5年以上」が最も多く36.6%、次いで「2～3年未満」(18.3%)、「4～5年未満」(17.0%)、「1年未満」(8.4%)となっています。

○サロン参加年数が1年未満から5年までの人が全体で6割となっており、比較的最近参加した方が多いことが分かります。

図 2-8-7 サロン参加年数

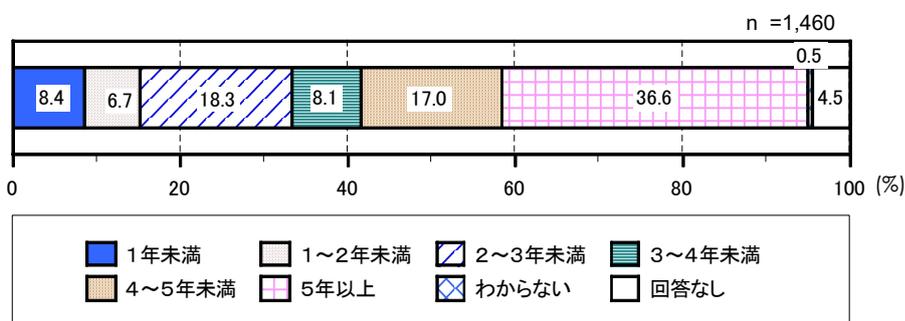
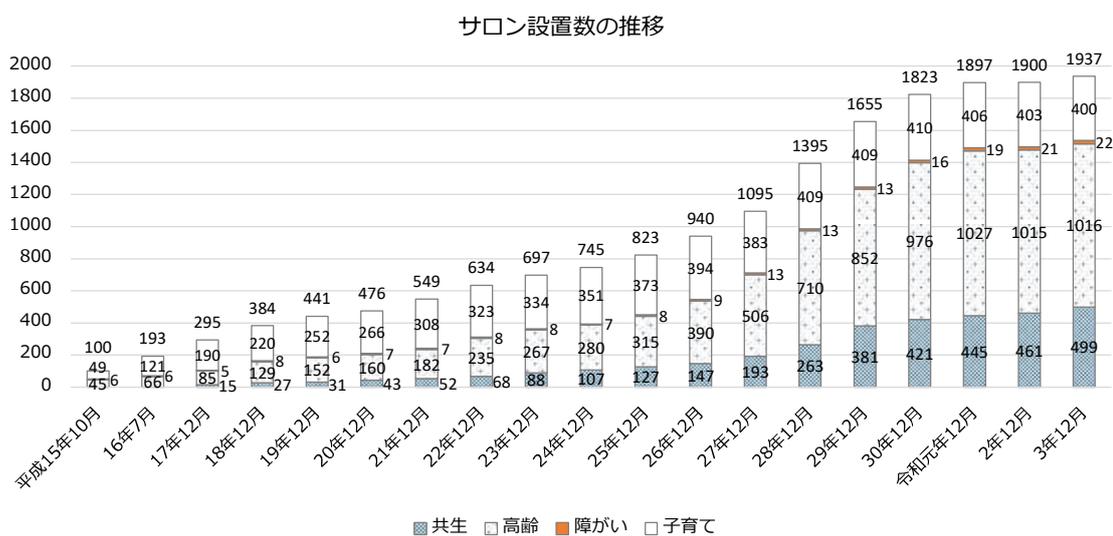


図 2-8-8 サロン設置数



(4) サロン参加費

問5 サロン参加費(会費)について、あなたのお考えに一番近いものを教えてください。

◆65.9%の人が「運営に必要な参加費は負担しても構わない」と考えています。

【全体】(図2-8-7)

○サロン参加費としては、「運営に必要な参加費は負担しても構わない」(65.9%)が最も高く、次いで「低額なら負担しても構わない」(24.0%)となっています。

○サロン参加費については、運営に必要な経費として理由があれば参加費を負担しても構わないとの意向を持っている人が多いと思われます。

【性別】(図2-8-7)

○性別で大きな差はみられません。

【年齢別】(図2-8-8)

○各年代とも「運営に必要な参加費は負担しても構わない」が最も高く、年齢が下がるにしたがって高くなっています。

【介護認定の有無別】(図2-8-9)

○介護認定を受けている人は、受けていない人に比べて「運営に必要な参加費は負担しても構わない」がやや低く、「低額なら負担しても構わない」がやや高くなっています。

図2-8-9 性別「サロン参加費」

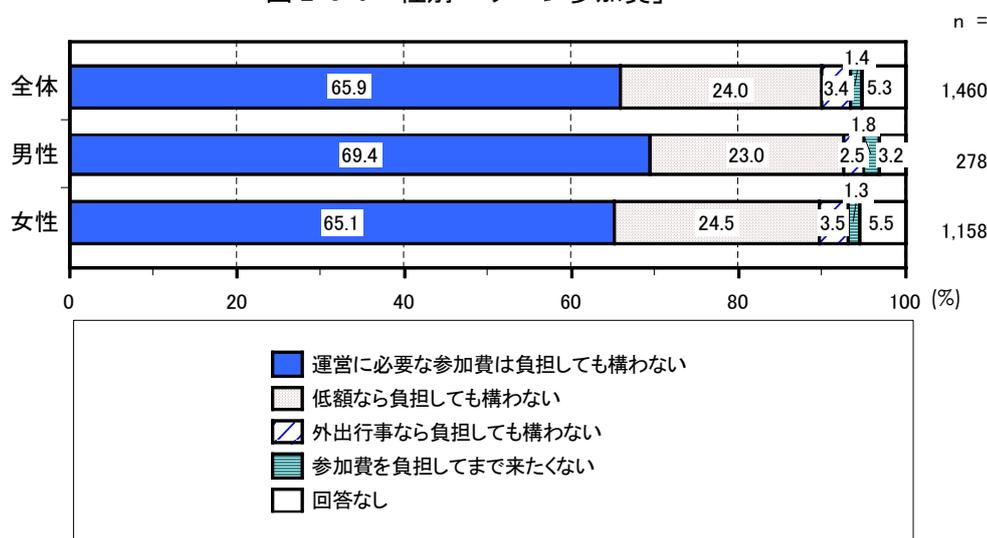


図 2-8-10 年齢別「サロン参加費」

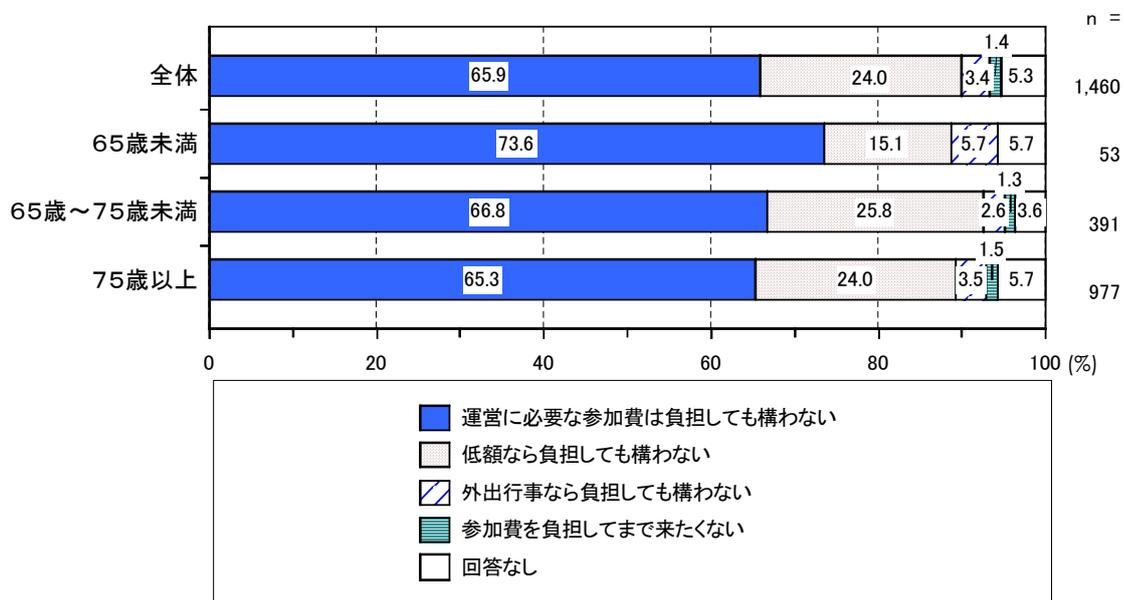
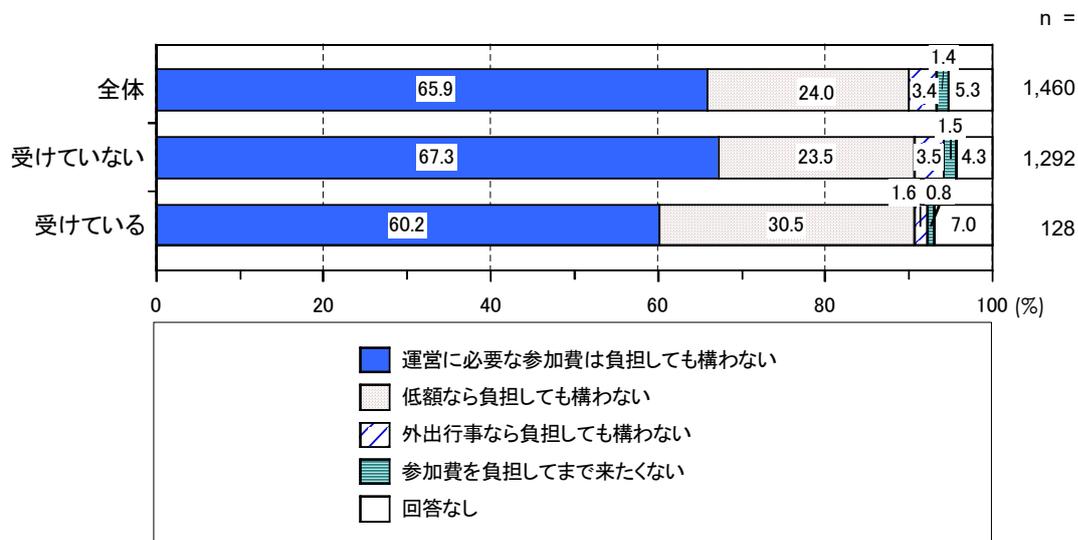


図 2-8-11 介護認定の有無別「サロン参加費」



(5) サロンに対する満足度

問6 サロンに対する満足度について、あなたのお考えに一番近いものを教えてください。

◆9割以上の方がサロンについて満足していると回答しています。

【全体】(図 2-8-11)

○サロンに対する満足度としては、「とても満足している」が 42.5%、「まあ満足している」が 48.2%となっており、合わせて 90.7%の方がサロンについて『満足している』と回答しています。

【性別】(図 2-8-11)

○男女とも「まあ満足している」が最も高くなっていますが、男性は女性に比べて「とても満足している」が低く「まあ満足している」が高くなっています。

【年齢別】(図 2-8-12)

○65歳未満では「とても満足している」が 69.8%で最も高く、65～75歳未満、75歳以上では「まあ満足している」が最も高くなっています。

【介護認定の有無別】(図 2-8-13)

○介護認定の有無で大きな違いはありません。

図 2-8-12 性別「サロンに対する満足度」

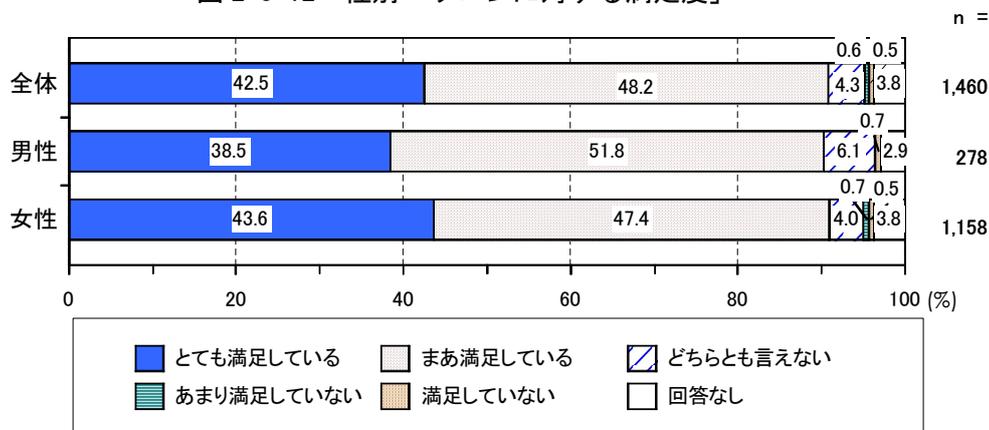


図 2-8-13 年齢別「サロンに対する満足度」

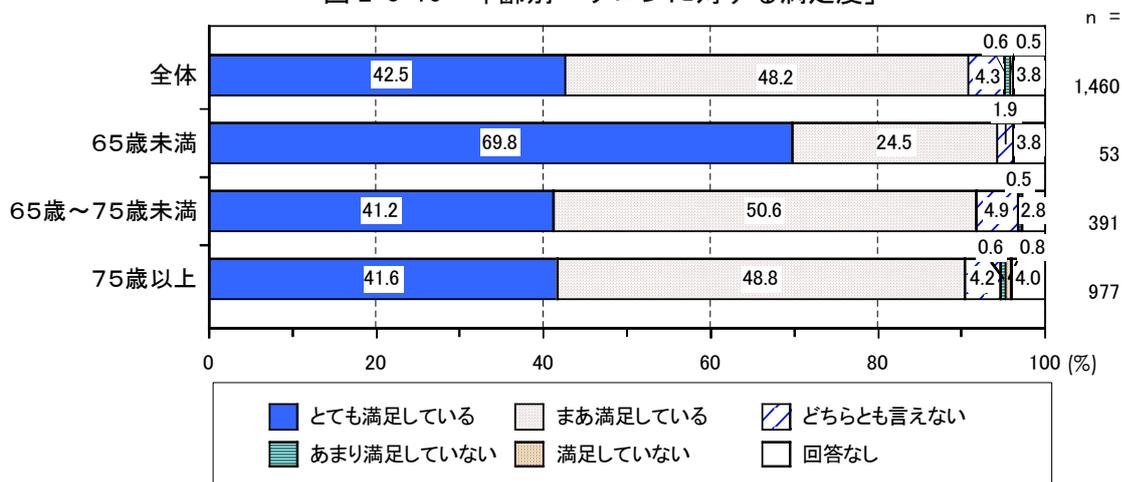
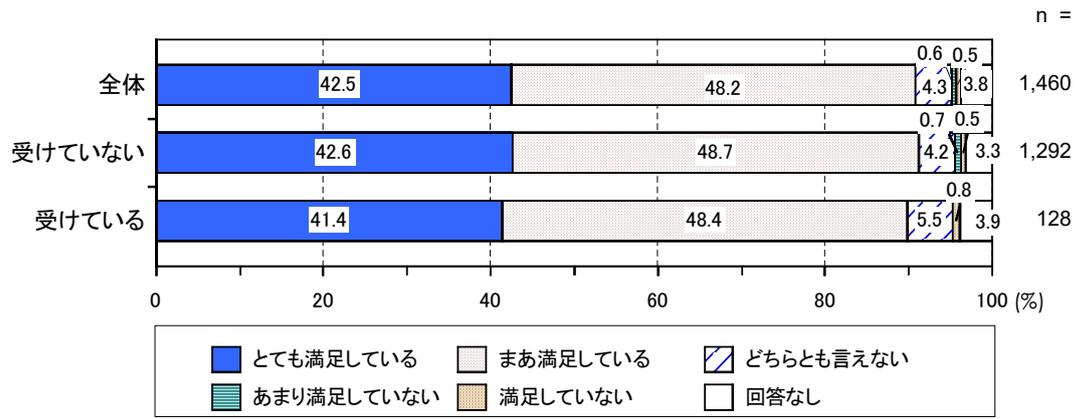


図 2-8-14 介護認定の有無別「サロンに対する満足度」



(6) サロンに関する情報等の連絡方法

問7 サロンの開催情報等の連絡方法について、あなたが利用可能な手段を教えてください。

◆サロンの開催情報等の連絡方法について「電話」が主となっています。65歳未満では「LINE」の活用も高くなっています。

【全体】(図 2-8-15)

○サロンの開催情報等の連絡方法について「電話」が68.3%、次いで「郵便」が37.3%、「LINE」が24.7%となっています。

○LINEをはじめ、電子メール、FacebookなどのSNS、サロンのホームページ等オンラインでの対応ができる人もいます。

【性別】(図 2-8-16)

○男女とも「電話」が最も高く、大きな傾向の違いはありません。

【年齢別】(図 2-8-17)

○65歳未満は「LINE」が75.5%と最も高く、65歳以上では「電話」が70%前後を占めています。

【介護認定の有無別】(図 2-8-18)

○介護認定を受けている参加者は「電話」が57.0%で最も高くなっていますが、受けていない人に比べて全体的に低い状況です。

図 2-8-15 サロンに関する情報等の連絡方法

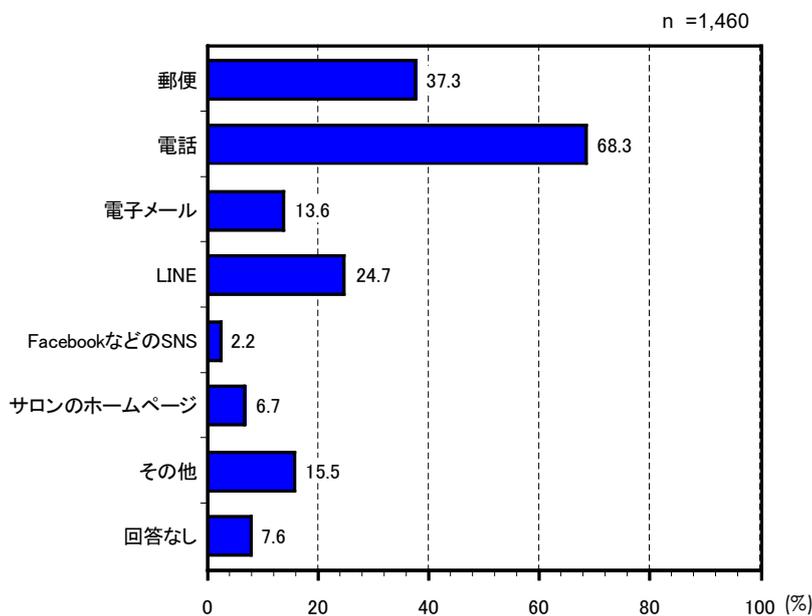


図 2-8-16 性別「サロンに関する情報等の連絡方法」

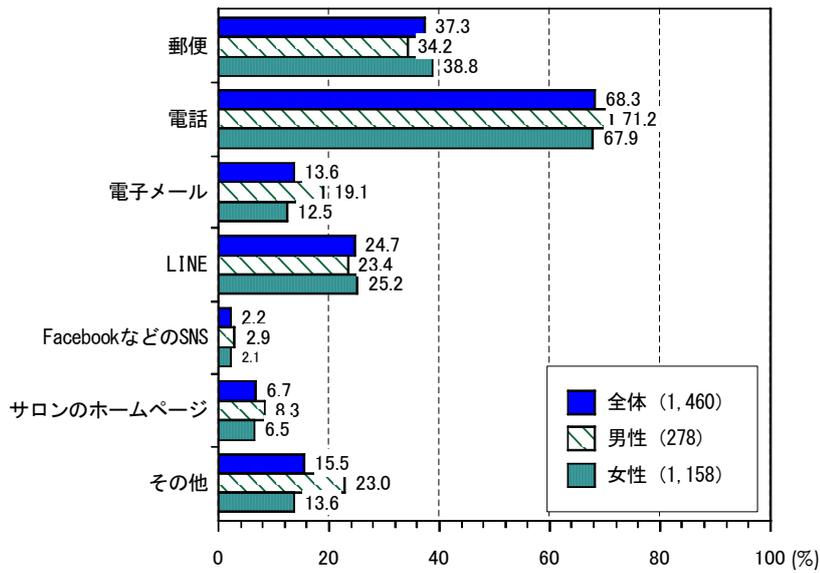


図 2-8-17 年齢別「サロンに関する情報等の連絡方法」

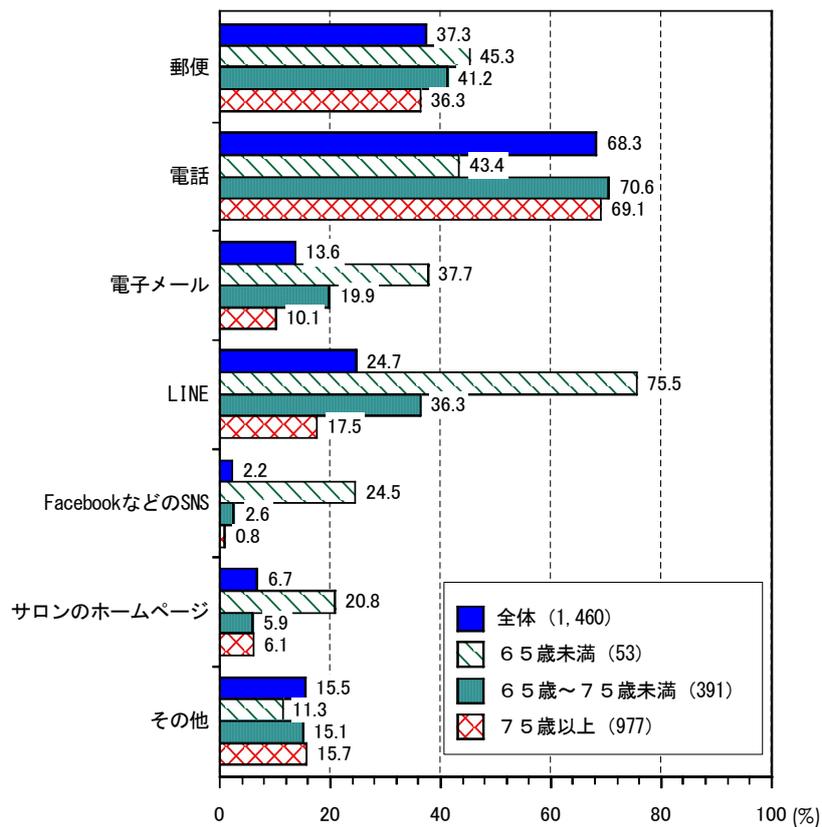


図 2-8-18 介護認定の有無別「サロンに関する情報等の連絡方法」

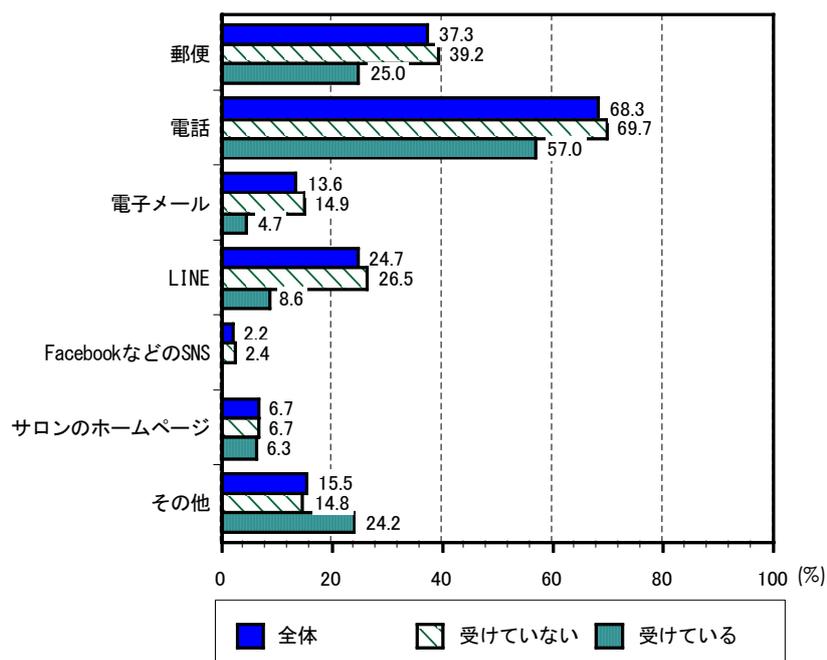


表 2-8-19 サロンに関する情報等の連絡方法（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年間の計画・開催日カレンダー</li> <li>・ 学区だより</li> <li>・ 会報・機関紙</li> <li>・ 回覧板</li> <li>・ 掲示板</li> <li>・ 友だち</li> <li>・ 老人会</li> <li>・ 民生委員</li> </ul>

## 第9章

## 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

### (1) 新型コロナウイルス感染症拡大のサロン参加への影響

問8 新型コロナウイルス感染症拡大によって、サロンの参加に影響はありましたか。

◆新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの参加への影響は、「変わりなく参加した」全体の1/4を占めている。「参加したかったが、サロンが休止していた」が6割を占め最も高くなっています。一方で「サロンは開催していたが、参加は控えていた」も1割弱あり、新型コロナウイルス感染症に対する個人の考えにより、行動が変わっていることがわかります。

#### 【全体】(図2-9-1)

○新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの参加への影響は、「参加したかったが、サロンが休止していた」が62.5%と最も高く、「変わりなく参加した」25.5%、「サロンは開催していたが、参加は控えていた」5.9%となっています。

○多くの人が新型コロナウイルス感染症拡大によってサロンへの参加に影響が出ていたことがわかります。

#### 【性別】(図2-9-1)

○男女によって大きな傾向の違いはありません。

#### 【年齢別】(図2-9-2)

○65歳未満は「サロンは開催していたが、参加は控えていた」が他の年代に比べてやや高くなっています。

#### 【介護認定の有無別】(図2-9-3)

○介護認定の有無によって大きな傾向の違いはありません。

図2-9-1 性別「新型コロナウイルス感染症拡大のサロン参加への影響」

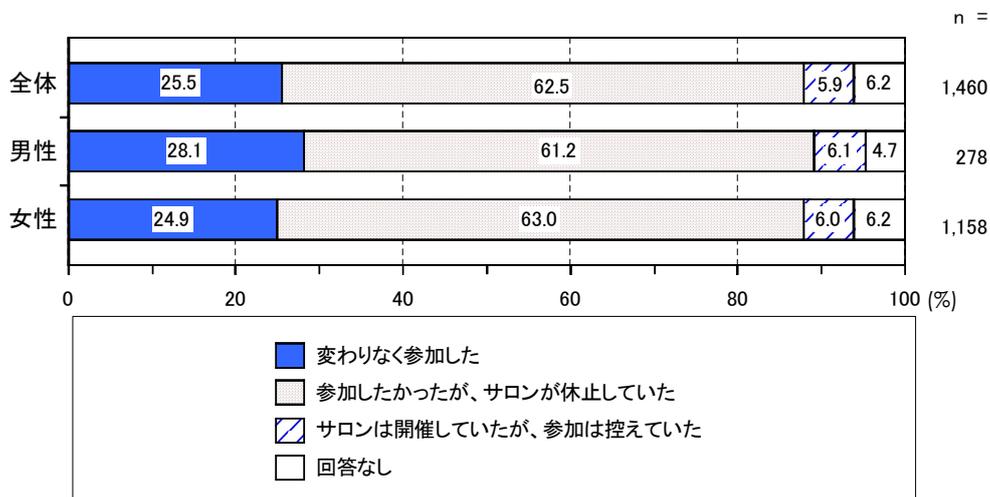


図 2-9-2 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大のサロン参加への影響」

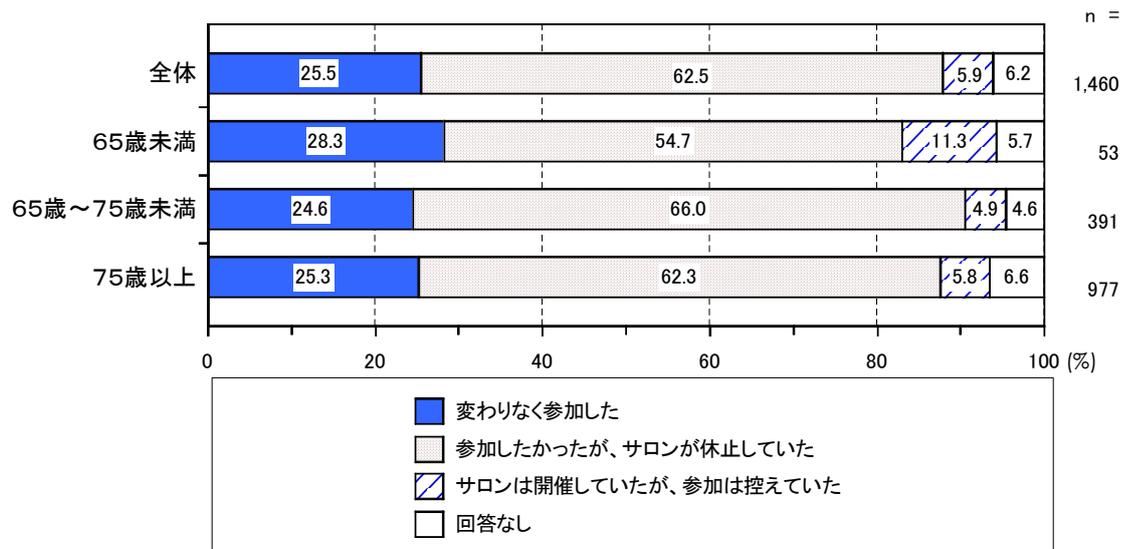
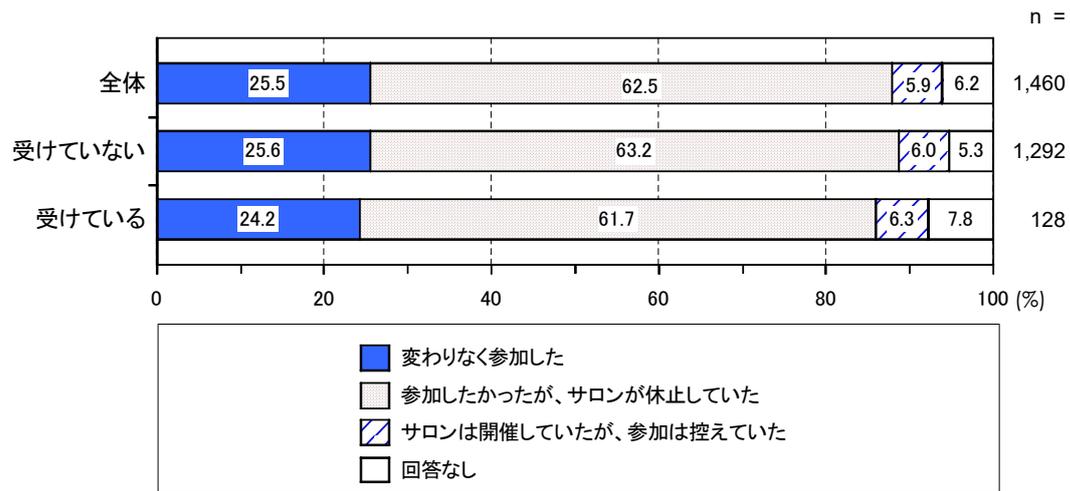


図 2-9-3 介護認定の有無別「新型コロナウイルス感染症拡大のサロン参加への影響」



## (2) サロン閉鎖時の過ごし方

問9 新型コロナウイルス感染症拡大によりサロンが閉鎖していた期間中、どのように過ごしていましたか。

◆「自宅でひとりでも取組める趣味や運動などしていた」が半数と高く、「サロン以外の会（趣味や運動など）で活動していた」「屋外で出来る活動に参加していた」といった代替の活動をしている人が多くなっています。

### 【全体】 (図 2-9-4)

○サロン閉鎖期間中の過ごし方では「自宅でひとりでも取組める趣味や運動などしていた」が48.7%で最も高く、次いで「サロン以外の会（趣味や運動など）で活動していた」が25.5%、「屋外で出来る活動に参加していた」が18.2%となっています。

○一方で「特に活動などはできずにいた」も15.9%挙げられています。

### 【性別】 (図 2-9-5)

○男性は「屋外で出来る活動に参加していた」、女性は「自宅でひとりでも取組める趣味や運動などしていた」が高くなっています。

### 【年齢別】 (図 2-9-6)

○「サロン以外の会（趣味や運動など）で活動していた」は年齢が上がるにつれて高くなっています。65歳未満は「オンラインの活動に参加していた」が17.0%と他の年代に比べてかなり高くなっています。

### 【介護認定の有無別】 (図 2-9-7)

○介護認定を受けている参加者は「サロン以外の会（趣味や運動など）で活動していた」「屋外で出来る活動に参加していた」が受けていない人に比べてやや低くなっています。

図 2-9-4 サロン閉鎖時の過ごし方

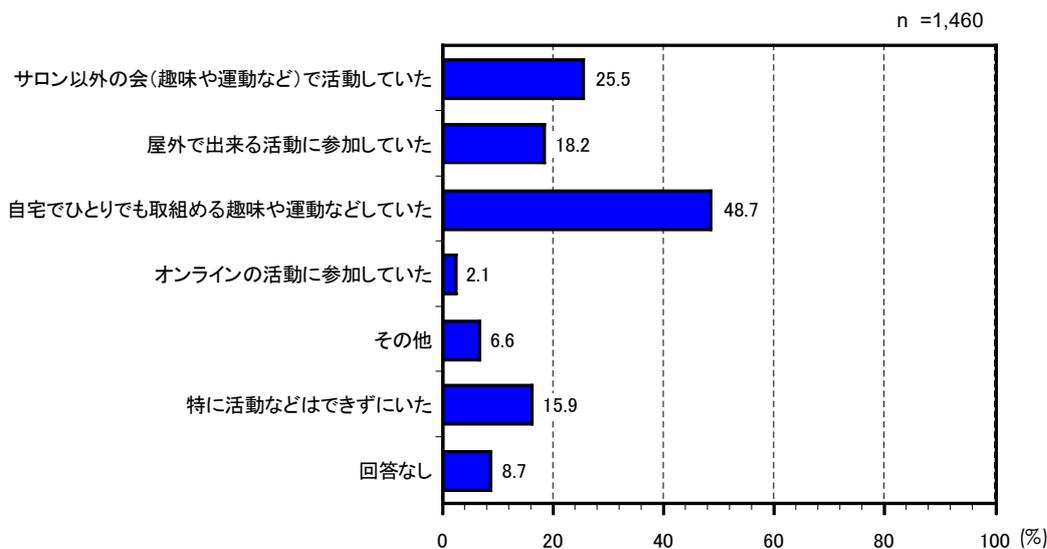


図 2-9-5 性別「サロン閉鎖時の過ごし方」

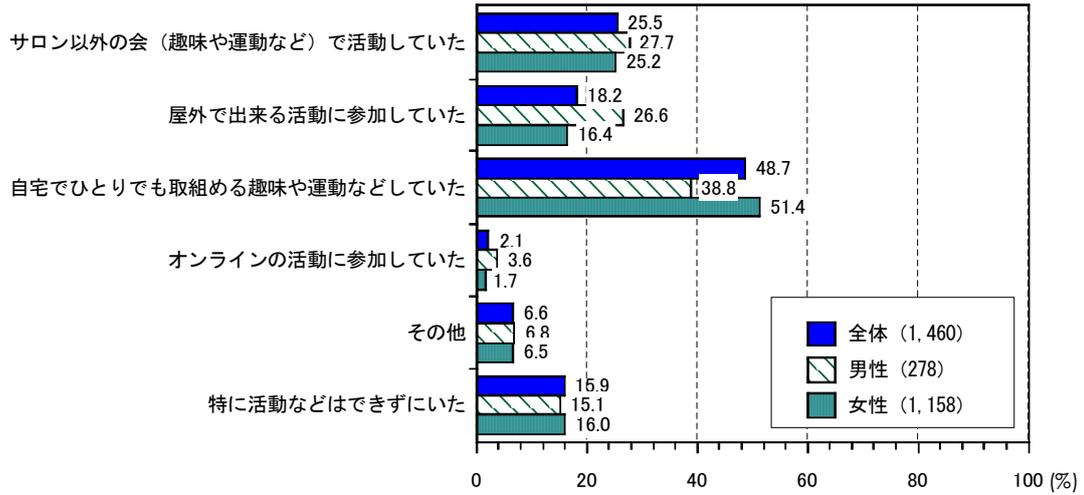


図 2-9-6 年齢別「サロン閉鎖時の過ごし方」

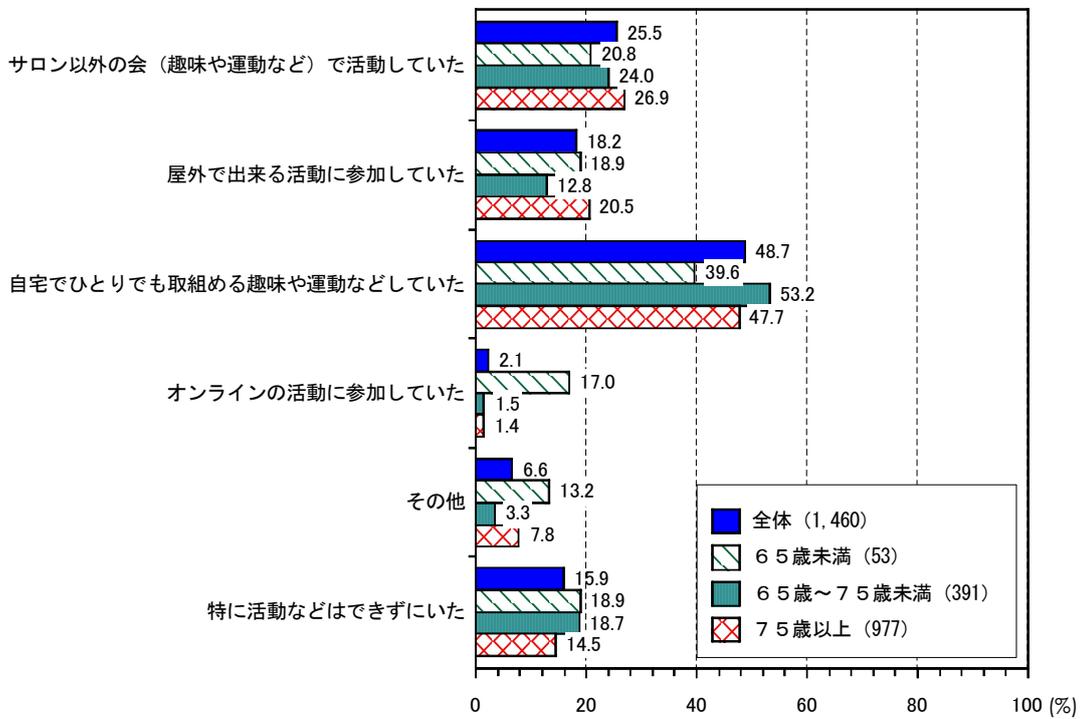


図 2-9-7 介護認定の有無別「サロン閉鎖時の過ごし方」

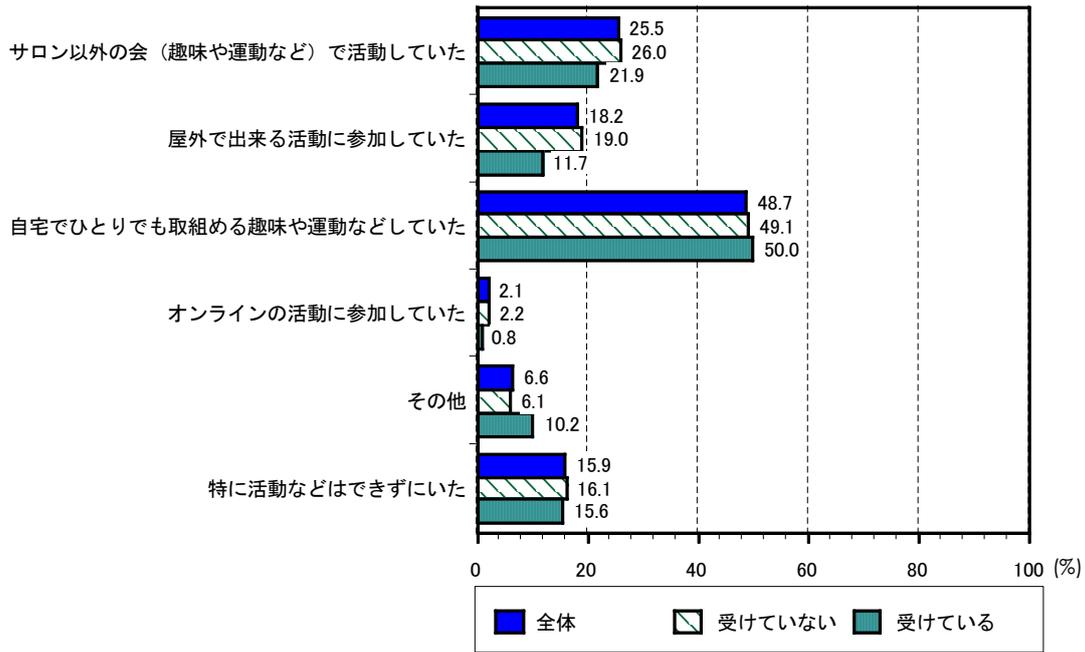


表 2-9-8 サロン閉鎖時の過ごし方（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキング</li> <li>・グランドゴルフ</li> <li>・デイサービスに行っていた</li> <li>・畑仕事</li> <li>・ナンプレ</li> <li>・陶芸</li> <li>・スケッチ</li> <li>・写経</li> <li>・家の片付け・物品廃棄</li> <li>・友だちとおしゃべり</li> <li>・図書館に行っていた</li> <li>・サロン以外のボランティアに参加していた</li> <li>・家に閉じこもっていた</li> <li>・他の会場を借りて活動していた</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

(3) 感染防止対策としてサロンに望むこと

問 10 参加するサロンにおける感染防止対策として、望むことについて教えてください。

◆感染防止対策としてサロンに望むことは「会話中のマスク着用の徹底」「消毒・検温の徹底」「換気の徹底」といった基本的な感染対策の徹底が高くなっています。

【全体】(図 2-9-9)

- 感染防止対策としてサロンに望むことは「会話中のマスク着用の徹底」が 81.4%、次いで「消毒・検温の徹底」が 76.2%、「換気の徹底」が 75.5%と、基本的な感染対策の徹底が求められています。
- 一方で「入れ替え制の導入」(8.7%)、「事前申し込み制の導入」(7.2%)は低く、「オンラインを利用したサロンの実施」(1.1%)、「自宅で出来る取組みの案内」(7.8%)、「屋外で出来る取組みの案内」(8.9%)といったサロンの代替活動を求める声も低くなっています。

【性別】(図 2-9-10)

- 「参加者との距離の確保」「参加人数の制限」は男性よりも女性の割合が高くなっています。

【年齢別】(図 2-9-11)

- 「屋外で出来る取組みの案内」は年齢が下がるにしたがって高くなっています。それ以外の項目は年齢による大きな傾向の差はありません。

【介護認定の有無別】(図 2-9-12)

- 介護認定を受けている参加者は「自宅で出来る取組みの案内」が受けていない人に比べて高くなっています。

図 2-9-9 感染防止対策としてサロンに望むこと

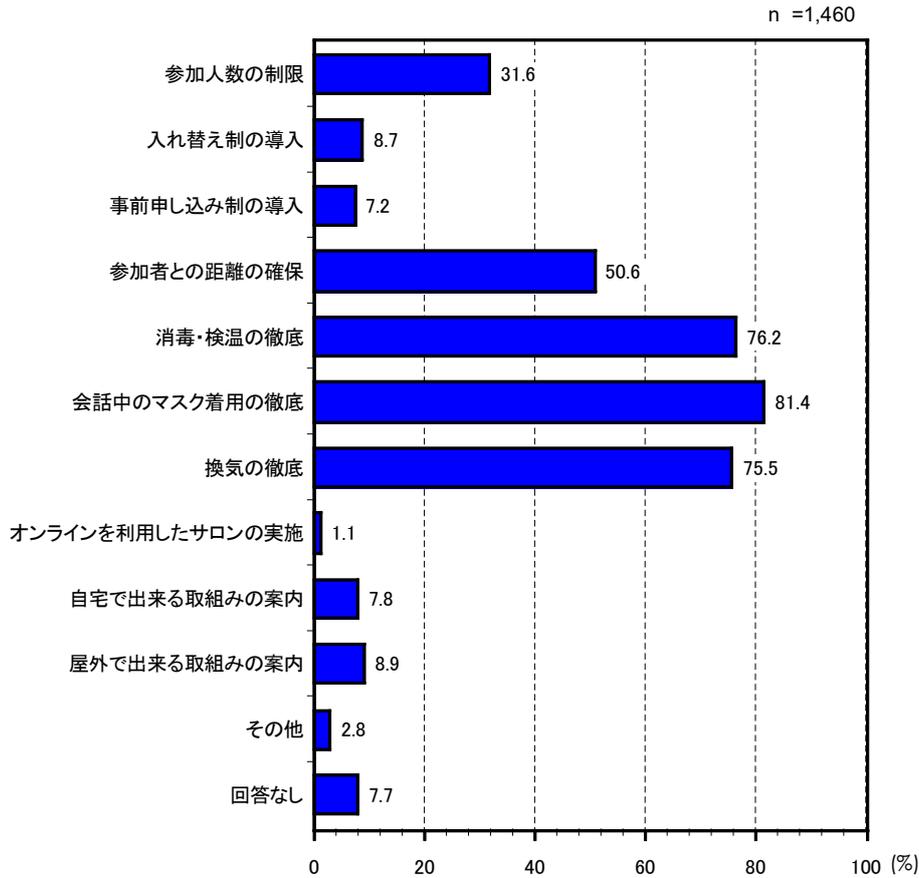


図 2-9-10 性別「感染防止対策としてサロンに望むこと」

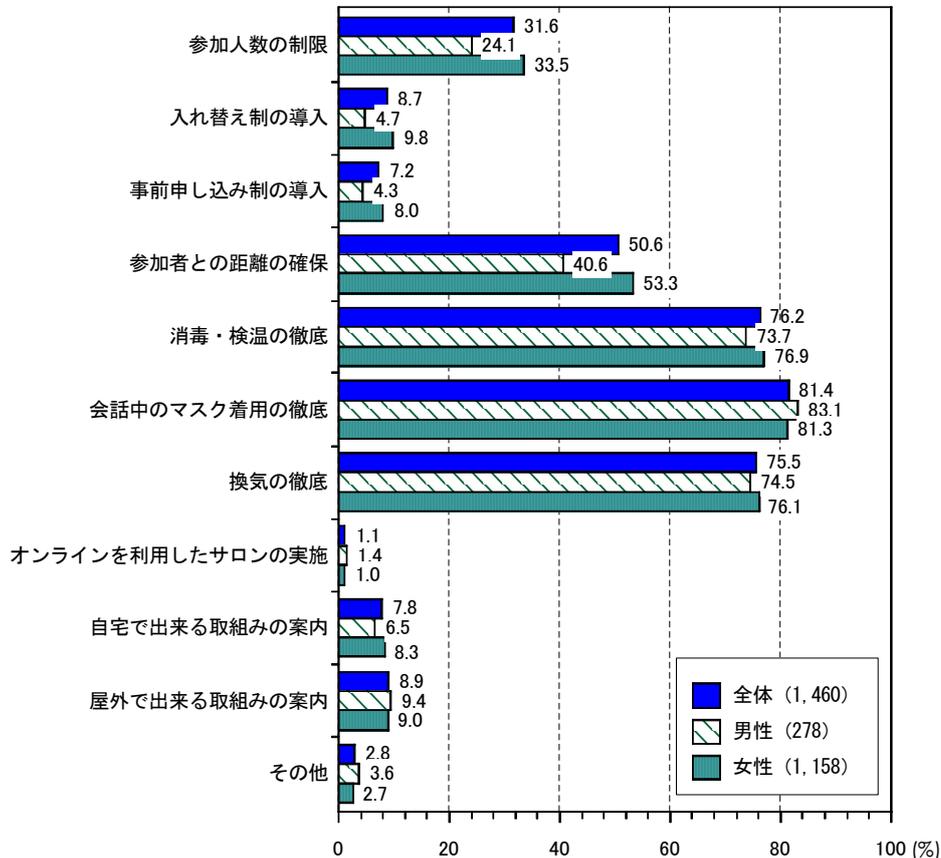


図 2-9-11 年齢別「感染防止対策としてサロンに望むこと」

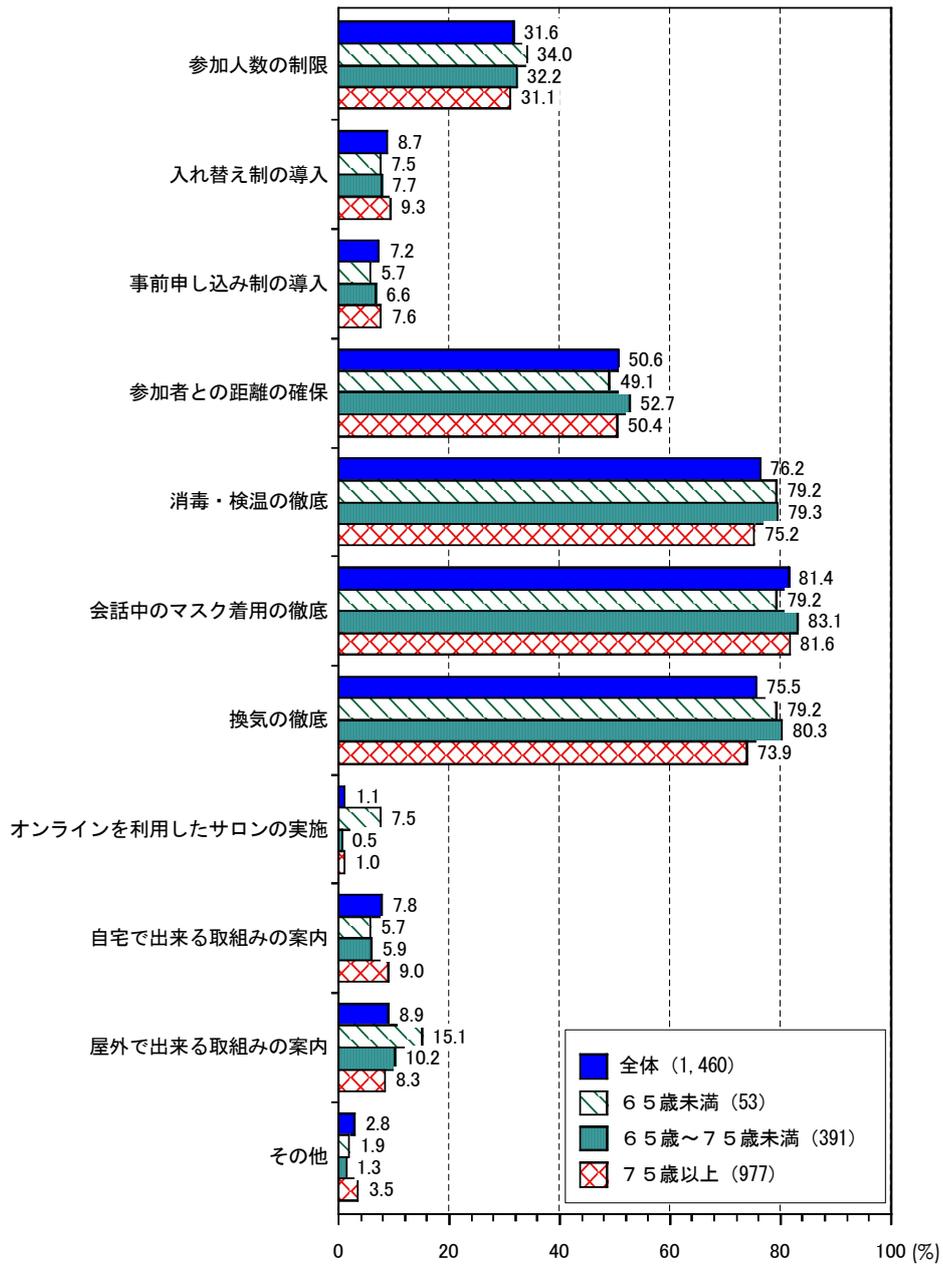


図 2-9-12 介護認定の有無別「感染防止対策としてサロンに望むこと」

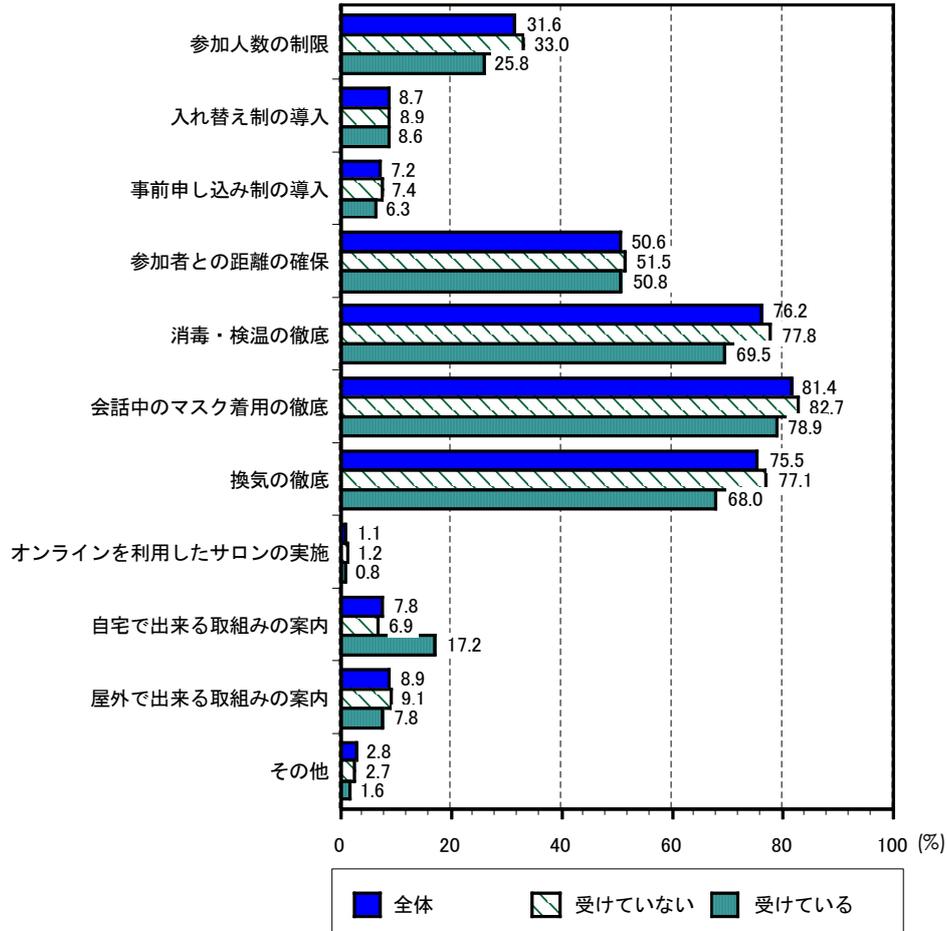


表 2-9-13 感染防止対策としてサロンに望むこと（その他内訳）

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染防止対策は万全だった</li> <li>・現状が良い</li> <li>・無理のない外の活動をしてほしい</li> <li>・ワクチンを打ったので、そこまで過敏にならなくてもよい</li> <li>・コロナが終息するまで参加したくない など</li> </ul>

#### (4) オンラインサロンの開催時の対応

問 11 サロンがオンラインでの開催になった場合のあなたの状況について教えてください。

◆サロンがオンラインでの開催になった場合のあなたの状況に「タブレット端末などの通信機器を持っている」が3割を占めているが、「やりたくない・できない」「オンラインツールを使ってみたいが、できずにいる」が半数程度を占める。

##### 【全体】 (図 2-9-14)

○サロンがオンラインでの開催になった場合のあなたの状況に「タブレット端末などの通信機器を持っている」が30.6%、「自宅で使えるインターネット環境がある」(18.6%)とオンライン対応できる人も一定数います。

○一方で「やりたくない・できない」が43.4%と最も高く、「オンラインツールを使ってみたいが、できずにいる」も10.1%を占めています。

##### 【性別】 (図 2-9-15)

○男性は「タブレット端末などの通信機器を持っている」「自宅で使えるインターネット環境がある」が女性に比べて高くなっています

##### 【年齢別】 (図 2-9-16)

○65歳未満は「タブレット端末などの通信機器を持っている」「自宅で使えるインターネット環境がある」が半数を超えており、年代が上がるにしたがって低くなっています。

##### 【介護認定の有無別】 (図 2-9-17)

○介護認定を受けている参加者は「タブレット端末などの通信機器を持っている」が21.1%となっており、介護認定を受けていない参加者に比べて低くなっています。

図 2-9-14 オンラインサロンの開催時の対応

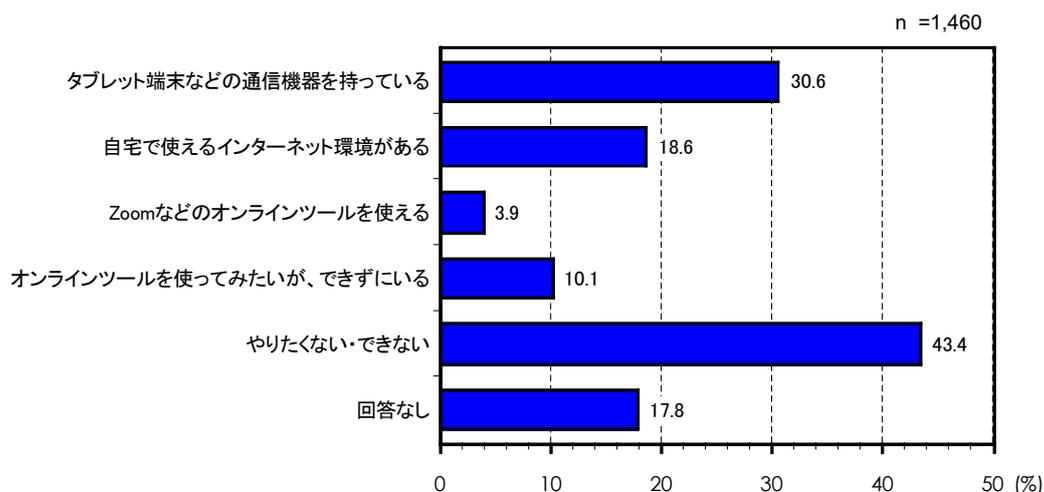


図 2-9-15 性別「オンラインサロンの開催時の対応」

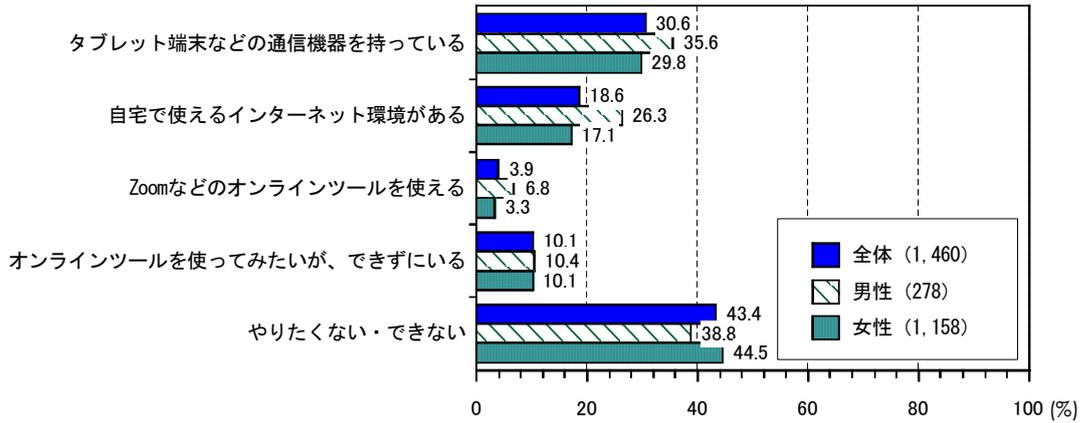


図 2-9-16 年齢別「オンラインサロンの開催時の対応」

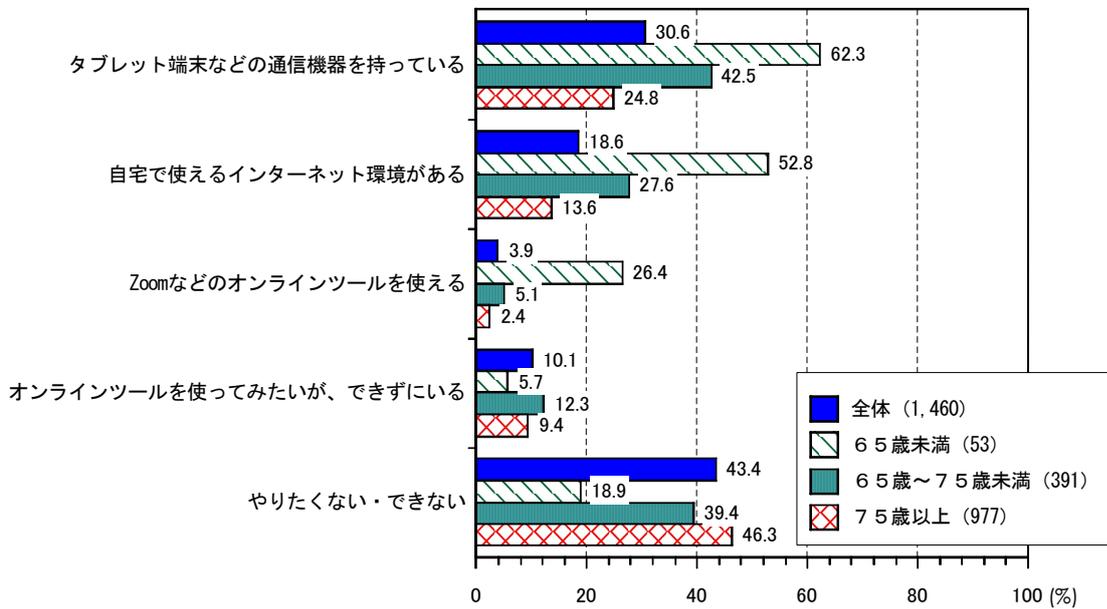
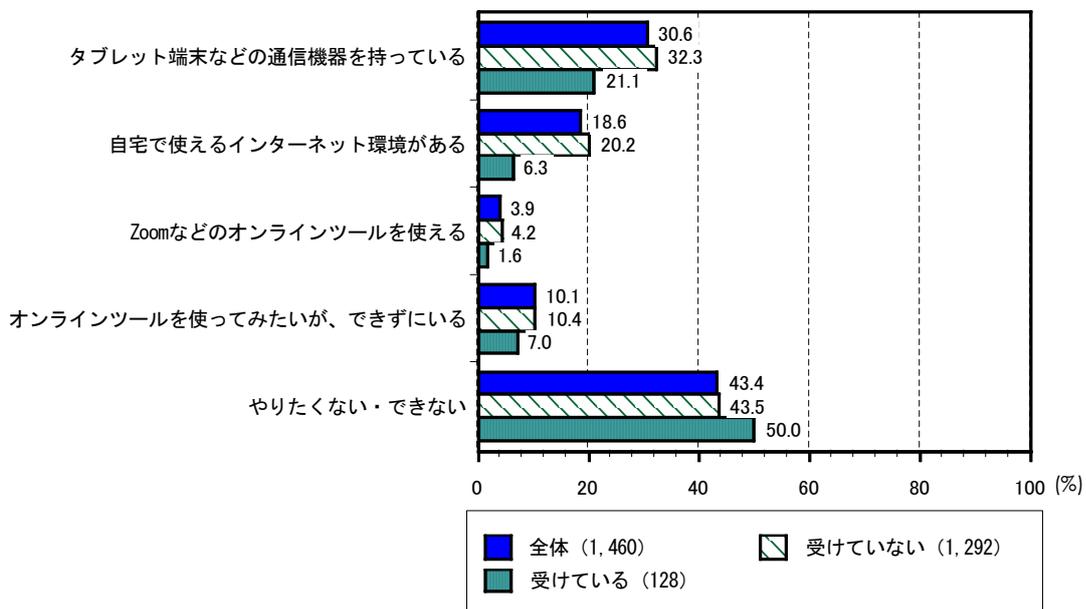


図 2-9-17 介護認定の有無別「オンラインサロンの開催時の対応」



## 第10章 サロン休止中に感じたこと

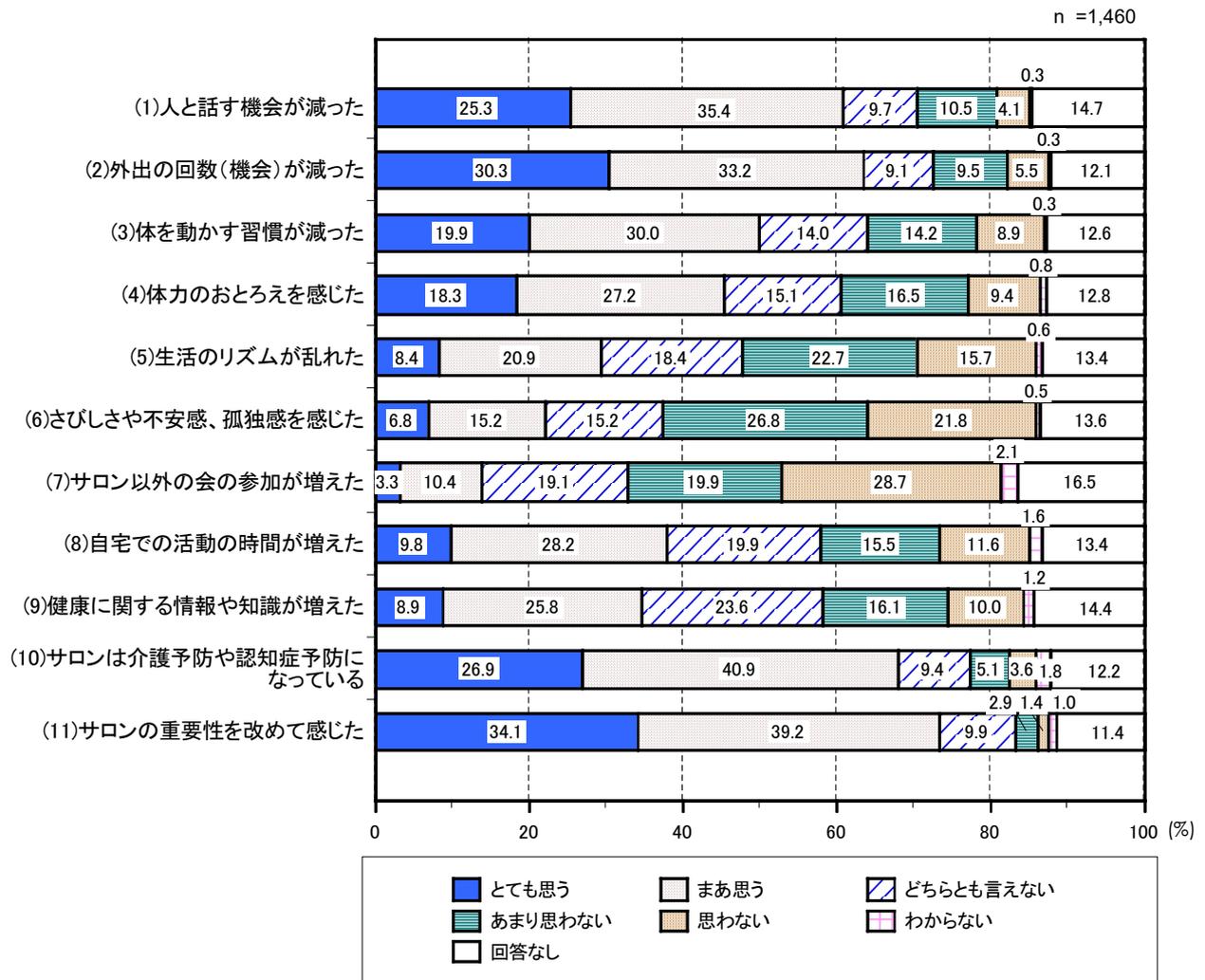
### (1) サロン休止中に感じたこと

問 12 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの休止等で、参加が出来なかった期間中、あなたのお考えに最も近いものを選んでください。

◆新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの休止等で、参加が出来なかった期間中について、「サロンの重要性を改めて感じた」「サロンは介護予防や認知症予防になっている」といったサロンの効果を改めて感じた人が7割前後を占めています。一方で、「さびしさや不安感、孤独感を感じた」「生活のリズムが乱れた」は『思わない』という意見が多くなっています。

- サロン参加以前と比較した効果では、「とても思う」と「まあ思う」を合わせた回答は「サロンの重要性を改めて感じた」(73.3%)が最も高く、次いで「サロンは介護予防や認知症予防になっている」(67.8%)、「外出の回数(機会)が減った」(63.5%)「人と話す機会が減った」(60.7%)となっています。
- 「あまり思わない」と「思わない」を合わせた回答は、「さびしさや不安感、孤独感を感じた」(48.6%)、「サロン以外の会(趣味や運動など)の参加が増えた」(48.6%)で最も高く、次いで「生活のリズムが乱れた」(38.4%)となっています。
- サロンの効果や良さを改めて感じた機会となっているようです。

図 2-10-1 サロン休止中に感じたこと



## 第11章 日常の行動や感じていること

(1) 今後のサロン活動に必要なこと

問 13 今後、サロン活動をより一層充実するために必要だと思うことを教えてください。

◆「生活に役立つ情報の提供」「プログラムや内容の充実」「他世代の参加・交流」「より身近な場所でのサロンの実施」へのニーズが高くなっています。

### 【全体】(図 2-11-1)

- 今後、サロン活動をより一層よくするために必要なこととしては、「生活に役立つ情報の提供」が 42.1%と最も高く、次いで「プログラムや内容の充実」(31.8%)「他世代の参加・交流」(28.4%)、「より身近な場所でのサロンの実施」が 24.5%となっています。
- 一方で「オンライン (ICT の活用) による交流」(0.8%)、「サロンへの送迎支援」(4.2%)、「サロンでの困りごと相談の受付」(9.1%)は低い状況です。

### 【性別】(図 2-11-2)

- 男性は「他世代の参加・交流」が 40.6%と最も高く、「男性参加者の増加」(27.7%)が女性に比べてもかなり高くなっています。女性は「生活に役立つ情報の提供」が 44.9%と最も高く、「より身近な場所でのサロンの実施」が男性に比べて高くなっています。

### 【年齢別】(図 2-11-3)

- 65 歳未満は「他世代の参加・交流」が 49.1%、「開催回数の増加」30.2%、「活動できる機会の増加」および「サロンでの見守りや助けあいの活動」24.5%、「サロンでの困りごと相談の受付」17.0%が他の年代に比べて高くなっています。

### 【介護認定の有無別】(図 2-11-4)

- 介護認定を受けている参加者は「生活に役立つ情報の提供」が受けていない人に比べて高くなっています。

図 2-11-1 今後のサロン活動に必要なこと

n =1,460

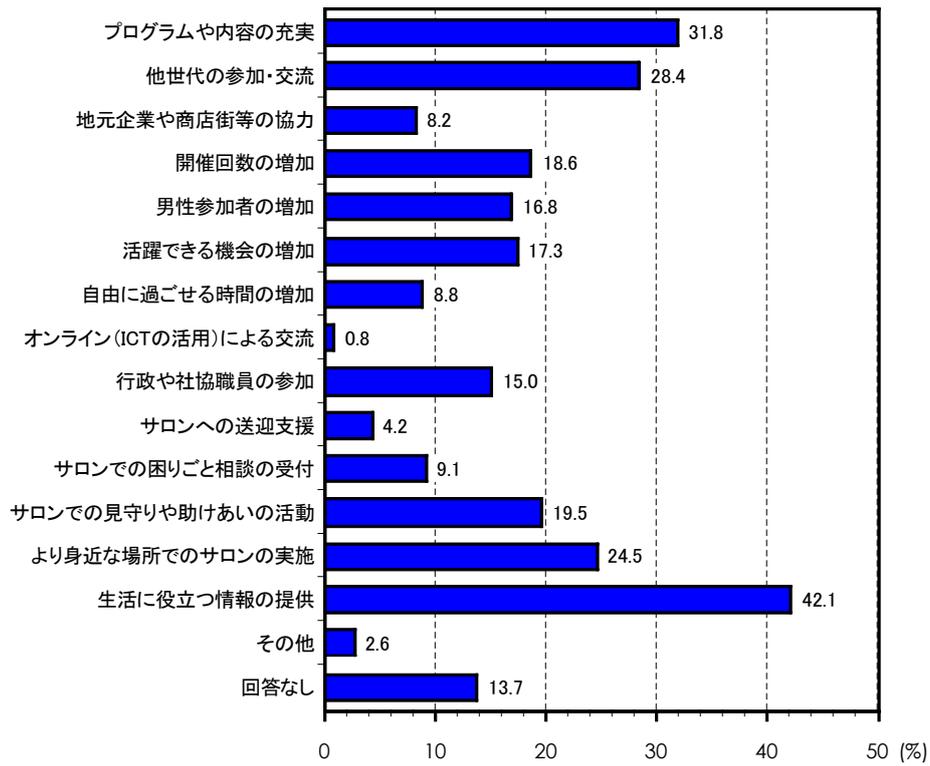


図 2-11-2 性別「今後のサロン活動に必要なこと」

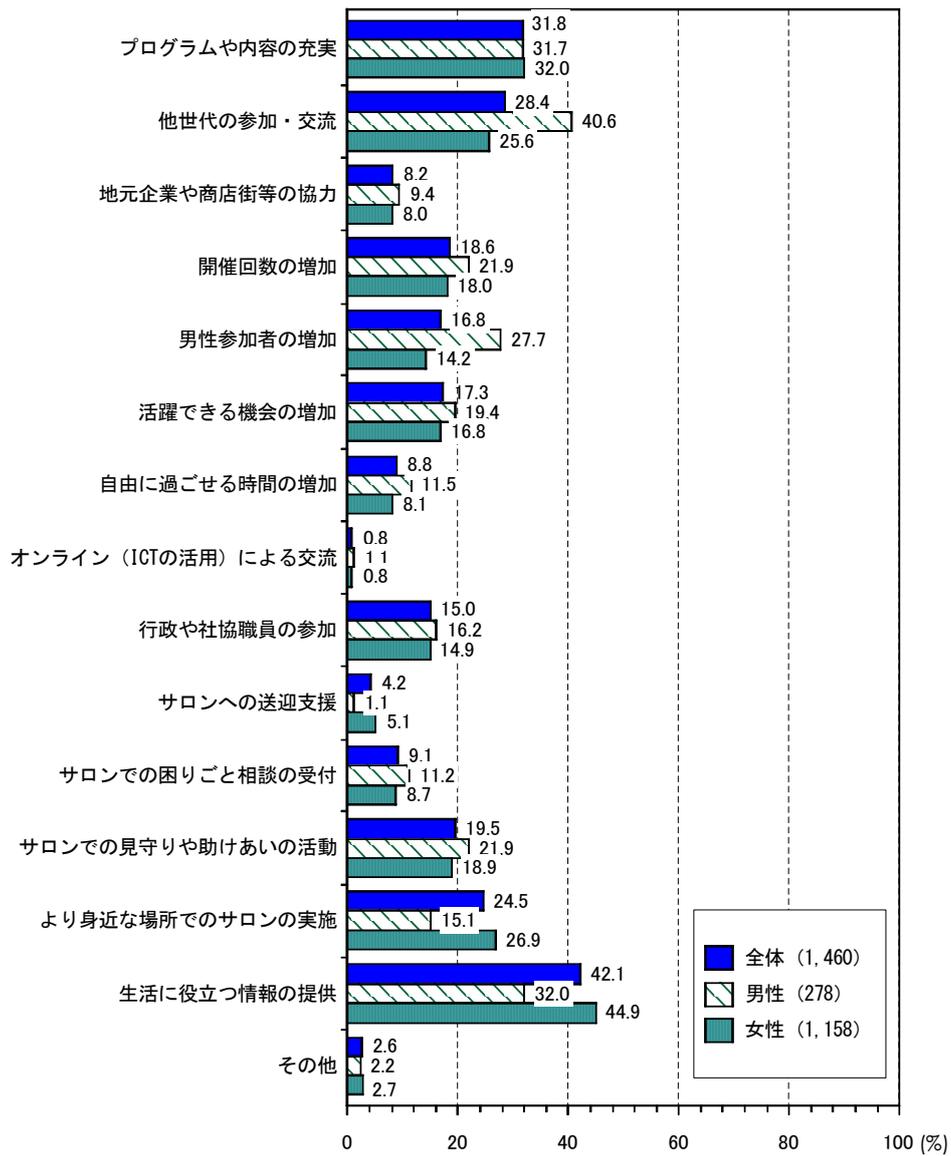


図 2-11-3 年齢別「今後のサロン活動に必要なこと」

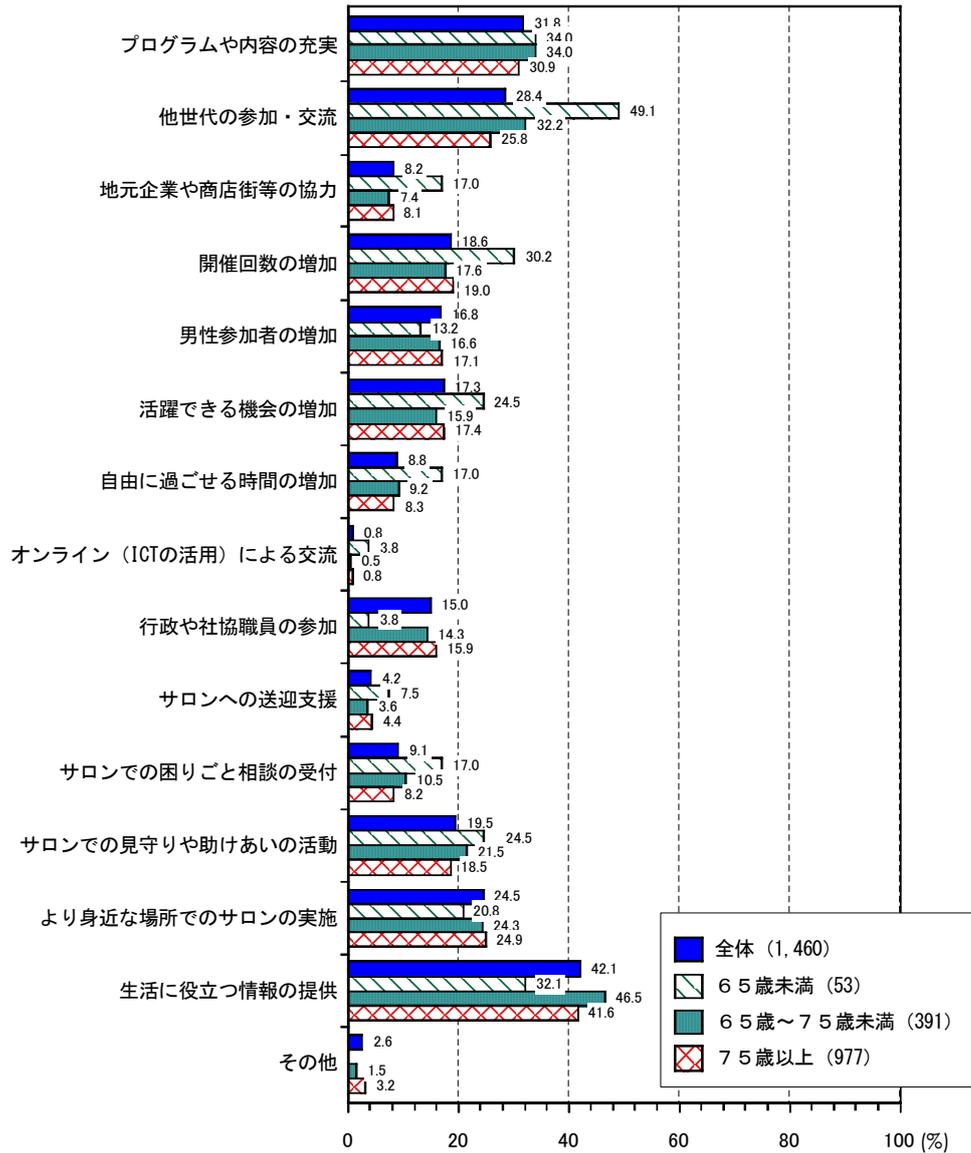


図 2-11-4 介護認定の有無別「今後のサロン活動に必要なこと」

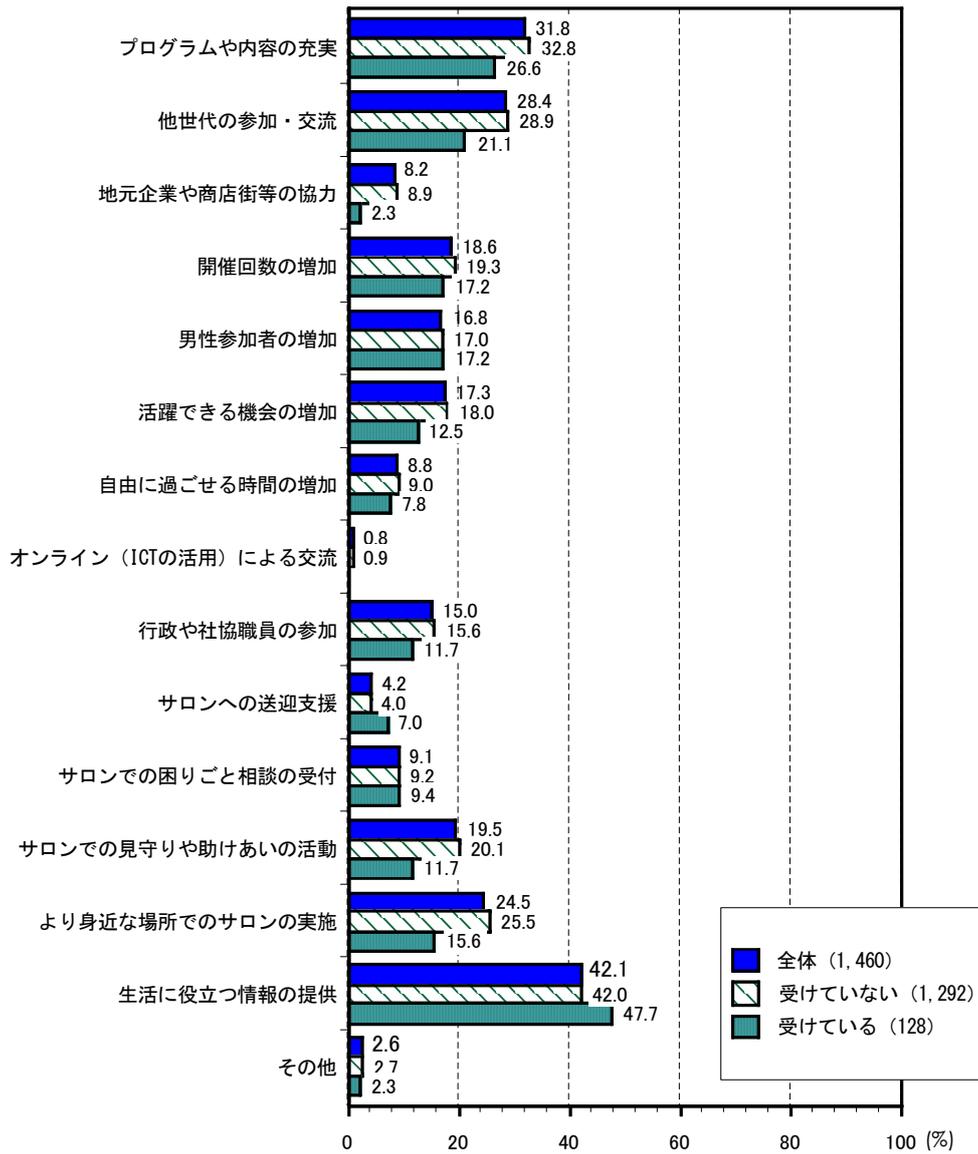


表 2-11-5 今後のサロン活動に必要なこと (その他内訳)

内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす体操</li> <li>・高齢者の健康指導</li> <li>・支援金の増加</li> <li>・会場の確保と使用料の軽減</li> <li>・パソコンの使い方を教えてほしい</li> <li>・避難場所の確認、持ち物、時期、心得が必要</li> <li>・参加者の増加</li> <li>・今のままでよい</li> </ul>
など

(2) 困りごとの相談相手

問 14 日頃、困りごとがあった時に誰に相談するか教えてください。

◆困りごとの相談相手は「家族（親族）」や「友人」が多く挙げられています。

【全体】（図 2-11-6）

○困りごとについての相談相手は「家族（親族）」が 82.7%と最も高く、次いで「友人」（56.1%）、「サロンの仲間」（23.8%）、「近所の人」（20.4%）、「民生委員・児童委員」（13.5%）、「いきいき支援センター」（13.2%と続いています。

【性別】（図 2-11-7）

○女性は「家族（親族）」「友人」「近所の人」「サロンの仲間」が男性に比べて高くなっています。  
男性は「自治会・町内会」「区役所・保健センター」が女性に比べて高くなっています。

【年齢別】（図 2-11-8）

○65歳未満は「家族（親族）」「友人」「サロンのスタッフ」が全体と比較して高くなっています。  
75歳以上では「家族（親族）」「友人」がやや低くなる傾向にあり、「民生委員・児童委員」が他の年代に比べて高くなっています。

【介護認定の有無別】（図 2-11-9）

○介護認定を受けている参加者は「担当のケアマネージャー」が 35.9%と受けていない人に比べてかなり高くなっています。

図 2-11-6 困りごとの相談相手 n = 1,460

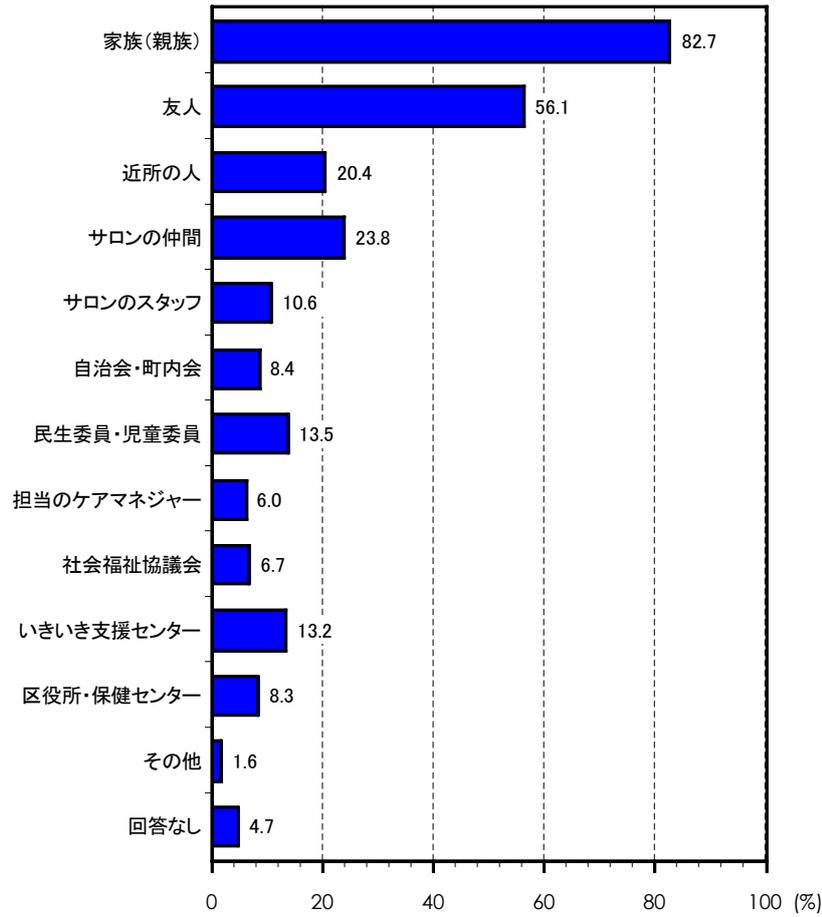


図 2-11-7 性別「困りごとの相談相手」

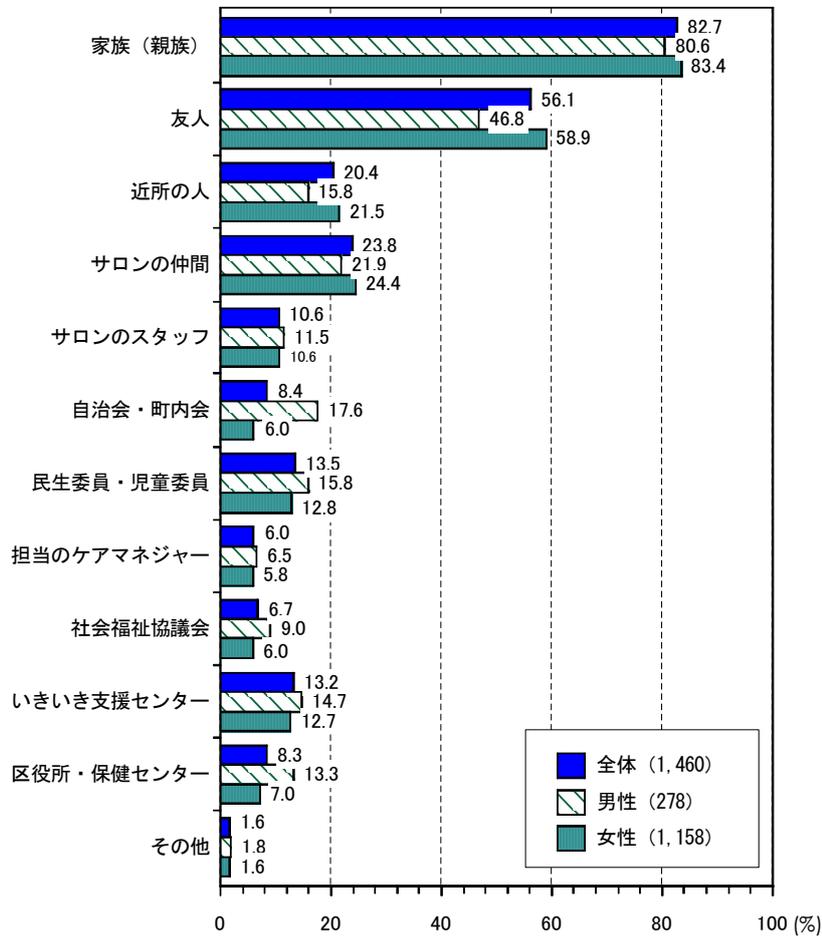


図 2-11-8 年齢別「困りごとの相談相手」

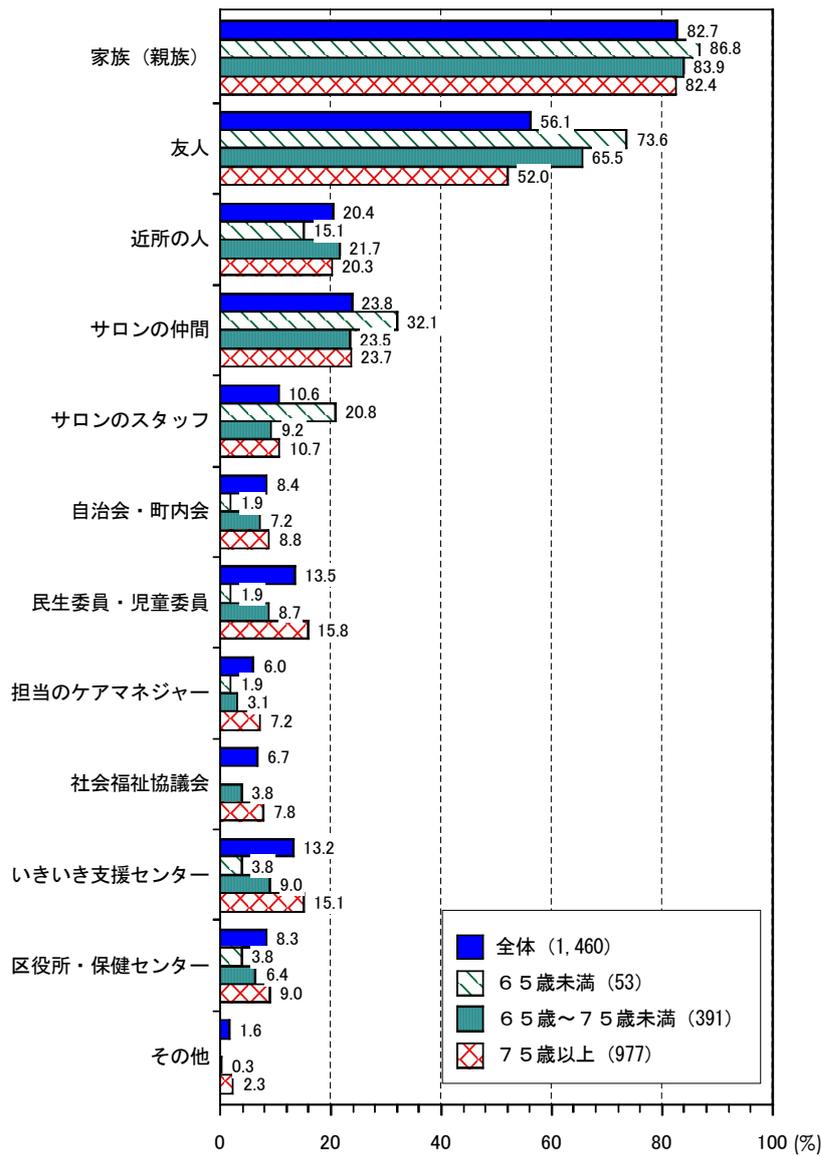
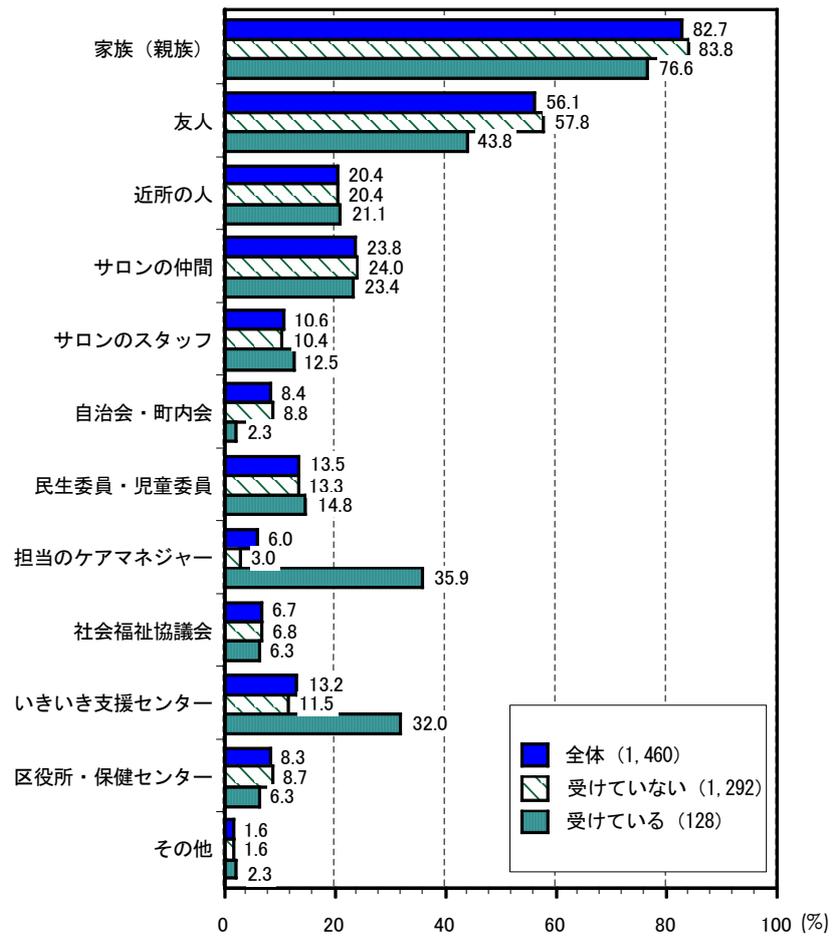


図 2-11-9 介護認定の有無別「困りごとの相談相手」



### (3) 日ごろ感じていること

問 15 サロンに参加する中で、日頃感じていることがあればご自由にお書きください。

## ◆サロンに参加する中で、日頃感じていることについて、587 名から 707 件いただいています。

- サロンに対する要望や提案としては、参加者の増加希望、開催回数の増加、プログラム内容の充実、身近な場所での開催などの意見が寄せられました。
- サロンに関する感想や主催者へのメッセージでは、サロンに参加することで仲間や居場所を得て、生活にメリハリが生まれた、楽しみが増えた、健康維持に役立っているなど、大きな効果があったことが挙げられました。また、代表者や運営ボランティアへの感謝のメッセージもたくさん記入されています。感謝するとともに、運営側の負担の重さを心配し、何よりも今後継続して参加したい、長くサロンを続けてほしいとの思いが多く寄せられました。
- コロナ禍で中止になったサロンの再開を待ちわびていたこと、早く元のように活動をしたいこと、サロンの大切さ・効果を改めて実感したという意見も多く聞かれました。

## ◆分類別記入件数と、代表的な意見（抜粋）

### ①サロンに対する要望や提案（222 件）

#### 参加者について（59 件）

- ・参加者を増やしたい。増えてほしい。
- ・若い人に参加してほしい
- ・新しい人に参加してほしい、決まった人ばかりになる
- ・男性の参加者が少ない
- ・コロナで参加者が減少している
- ・高齢化で参加者が減少している。
- ・どうしたらみんなが関心を持ってくれるだろうと感じている
- ・年齢を重ねると自分の殻に閉じこもり、誘いの言葉をかけても行動を起こさない方が多いので、そのような方こそ参加してもらいたい

#### 開催の仕方やプログラムについて（112 件）

- ・回数を増やしてほしい
- ・コロナで自粛中。元のように活動したい
- ・サロン活動のプログラム検討、支援が必要
- ・なんでも相談できる、話し合えるとよい
- ・内容を充実してほしい
- ・機材などを充実してほしい
- ・専門家や指導者を派遣してほしい
- ・雨天時に開催できる場所がほしい
- ・サロン指導者の講習が必要である
- ・時間を長くしてほしい
- ・収支報告をしてほしい
- ・サロンの開催場所がより使いやすいとよい
- ・場所や内容をわかりやすく伝えてほしい
- ・行政や社会福祉協議会からの支援があるとよい

<b>会場について (17件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場がもっと近くにあるとよい</li> <li>・安定した場所でできるとよい</li> <li>・場所代が無料で助かる</li> <li>・会場費が高い</li> <li>・近くに会場があるので便利である</li> <li>・駐車場が近くにあるとよい</li> </ul>
<b>サロンの継続開催、交流活性化を望む (16件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも続けてほしい</li> <li>・他のサロンとの見学・交流会をしたい</li> <li>・役員の高齢化と担い手が不足している。このままではいつかサロンがなくなる。</li> </ul>
<b>サロン運営者への要望 (13件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい方と従来から地域に住まわれている方と親しくなれる会があったらよい</li> <li>・急に来られなくなる人がいて心配である。社会福祉協議会から確認してもらえるとよい</li> <li>・サロンのお手伝いに少しでよいので報酬をだしてほしい</li> <li>・会費をもう少し負担して回数を増やしてほしい</li> <li>・行政や社会福祉協議会が指導をしてほしい</li> </ul>
<b>サロンに関する情報について (5件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンをみんなに広報してほしい</li> <li>・広報誌にサロンの活動状況を報告する欄を作ってほしい</li> <li>・インターネットのやり方を教えてほしい</li> <li>・福祉に関する情報を流してほしい</li> </ul>

## ②サロンへの感想やメッセージ (457件)

<b>サロンに参加した効果・成果 (219件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロンに参加してとても楽しく過ごしている</li> <li>・体力づくり、運動不足の解消になっている</li> <li>・話ができるとよい</li> <li>・いろんな情報が得られる</li> <li>・友人・仲間が増えた</li> <li>・気軽に参加できる場所</li> <li>・近くの会場なので参加しやすい。</li> <li>・介護予防、認知症予防にもなっていると思う。</li> <li>・元気になれる</li> <li>・長く続けてほしい</li> <li>・コロナでサロンの大切さがわかった・寂しかった</li> <li>・サロンに参加することで新しい出会いができて良かった</li> </ul>
<b>代表者、運営スタッフへのメッセージ、謝辞 (126件)</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく参加している</li> <li>・感謝している</li> <li>・サロンの役員・職員に感謝している</li> <li>・現在のままで十分よい</li> <li>・このような場所がずっと続いてほしい</li> <li>・コロナ禍で開催してくれてありがたい・うれしい</li> </ul>

**好きな、気に入っているプログラムの内容 (18 件)**

- ・お茶とおしゃべり：コーヒーが美味しい、活動後のお茶が楽しみ。
- ・健康体操・軽い運動・グランドゴルフ・リズム体操：健康を意識する、体を動かうことがよい・知識を得られる
- ・コーラス・歌を歌う
- ・脳トレーニング：元気をもらっている。刺激になる。ボケ防止になる。
- ・さまざまな内容で変化がある。麻雀、カラオケ、手芸、折り紙、塗り絵など

**現在の参加状況・今後の継続希望 (50 件)**

- ・とても楽しみにして参加している
- ・とても居心地が良い
- ・複数のサロンに参加している
- ・コロナで休止したサロンが再開するのを待ちわびていた
- ・コロナで休止を経て、サロンが大切な所だとつくづく感じている
- ・これからも続けて参加したい

**不満に思うこと、困っていること (31 件)**

- ・仲間づくりは難しい
- ・参加したくても一人で行くことに自信がない。友達を作ることが下手なので行けない。
- ・男性の参加が少ない
- ・聞こえの問題で参加をためらう人が多いのは残念である
- ・足が不自由な人は2階以上の会場に行きづらい
- ・係の仕事が大変である
- ・コロナでできなくなったことがあった。
- ・署名活動や政治に関する活動が嫌で、サロン参加をためらう

**良いと思うシステム・ルールについて (13 件)**

- ・手先を使った作品作りが楽しみ、認知症予防にもなる
- ・バランスよく講座が思考を凝らした内容で組まれている
- ・同世代と話すことが出来て、音楽を聞いたり歌ったり、とても大切な解放感を持てる場だと思っている

**③その他 (12 件)****日常、自身がこころがけていること (4 件)**

- ・運動することが大事である
- ・フレイルを自分事として考えることが大事である
- ・楽しく過ごせるとよい

**その他 (8 件)**

- ・参加して、まだ日が浅く、よくわからない
- ・早くコロナが収束してほしい

(1) サロン代表者向けアンケート

**名古屋社会福祉協議会 高齢者・共生型サロン実態把握調査**  
**ふれあい・いきいきサロン 運営ボランティア代表者向けアンケート**

**アンケート調査へのご協力のお願い**

時下、ますます清浄のこととお喜び申し上げます。  
皆さまには日頃から、「ふれあい・いきいきサロン（以下サロン）」をはじめとする地域福祉活動にご理解・ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。  
このたび、名古屋社会福祉協議会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、従来の活動が困難となっている状況が続くなか、名古屋市内におけるサロンの現状について、サロン主催者及び参加者の双方を対象としたアンケートを実施することとしました。今回の調査を通じて、運営ボランティア代表者・参加者の方々の現状やサロン活動の効果、新しい生活様式を踏まえたサロンの在り方やサロン活動上での課題、支援要望などを把握し、今後安心してサロン活動ができる地域社会づくりに役立てたいと考えております。  
つきましては、お忙しいところ大変申し訳ありませんが、以下のアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

令和3年11月 名古屋社会福祉協議会

**ご回答にあたってのお願い**

- 本アンケート調査は、社会福祉協議会（以下「社協」という）が把握する高齢者・共生型サロンについて、各区から無作為抽出し、サロンの代表者に送付しています。
- 代表者または団体としての方針や考えをお答えいただける方のご記入をお願いいたします。（代表者の代理の方がお答えいただいても構いません。）
- 回答にあたっては、特に記載のない場合は、該当する項目を1つ選んで、番号に○印をつけてください。ただし、「その他」を選択された場合は、( ) 内に具体的にその内容をご記入ください。
- 質問に出てくる「新型コロナウイルス感染症拡大以前」とは、2020年1月頃より前のことの意味しています。
- 調査結果はすべて統計処理し、個人の名前や回答が特定されることはありません。
- 書戻していただけることをありのままにお答えください。
- 回答された調査票は「12月24日（金）」までに同封しました返信封筒（切手不要）に入れて、お近くのポストに投函してください。
- このアンケートについてのご質問などがありましたら下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】  
〒462-8558名古屋北区清水4-17-1 名古屋社会福祉協議会社会福祉会館5階  
名古屋社会福祉協議会地域福祉推進部 担当：染野・中根  
TEL 052-911-3193 / FAX 052-917-0702 / mail a.nakane@nagoya-shakyo.or.jp

サロンの概要についておたずねします。

サロンの名					学区	月
サロンの開催地区	区				年	
サロンの開始年月	昭和・平成・令和				月	
サロンの運営団体	1. 地域福祉推進協議会（学区社協） 7. 保健・医療・福祉施設 2. 町内会・自治会 8. 介護保険事業者 3. 民生委員・児童委員協議会 9. 企業・商店 4. ボランティアグループ 10. 大学・専門学校 5. NPO法人 11. その他 6. 協同組合（具体的に）					
代表者の年齢	49歳以下	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	
ポピュラリア	人数 （開催時数）	人	うち	男性	人	女性
	年齢構成	10歳代（人）	50歳代（人）	60歳代（人）	70歳代（人）	80歳以上（人）
	平均参加者数	現在の1回に参加するボランティアの平均人数（人）				
	サロンの開催の種別	新型コロナウイルス感染症拡大以前の1回に参加するボランティアの平均人数（人）				
サロンの開催頻度	1. コミュニティセンター 6. 施設・事業所・NPO 2. 集会所 7. 地区会館・公民館 3. 喫茶店・店舗 8. 屋外 4. 社務所・寺院・教会 9. その他 5. 個人宅・空き家（具体的に） ※複数会場がある場合は、あてはまるもの全てについて記入してください。					
所要時間	感染症拡大前（2020年1月以降）	1. 週1回以上 3. 月1回程度 5. その他 2. 月2回以上4回未満 4. 年に数回（ ）				
	現在（調査時点）	1. 週1回以上 3. 月1回程度 5. 休止中 2. 月2回以上4回未満 4. 年に数回 6. その他（ ）				
所要時間	感染症拡大前（2020年1月以降）	1. 1時間 3. 2時間 5. 4時間 2. 1.5時間 4. 3時間 6. 5時間以上				
	現在（調査時点）	1. 1時間 3. 2時間 5. 4時間 2. 1.5時間 4. 3時間 6. 5時間以上				
サロンの男女比	1. 女性のみ 4. 男性・女性がほぼ同数 7. 男性のみ 2. ほとんどが女性参加者 5. やや男性が多い 3. やや女性が多い 6. ほとんどが男性参加者					

サロン参加者の 平均年齢	1. 50歳未満 2. 50～55歳未満 3. 55～60歳未満	4. 60～65歳未満 5. 65～70歳未満 6. 70～75歳未満	7. 75～80歳未満 8. 80歳以上
1回あたりの 参加費	1. 無料 2. 100円未満	3. 100～200円未満 4. 200～300円未満	5. 300円以上

**新型コロナウイルス感染症拡大後のサロンの運営状況についておたずねします。**

問2 新型コロナウイルス感染症拡大後のサロンの運営状況を教えてください。(ひとつに○印)

- おおむね年間通り実施している
- 緊急事態宣言や、まん延防止措置を受けて一時活動を中止するなど、状況に応じて実施している
- 新型コロナウイルス感染症拡大当初から現在まで活動を中止し続けている
- その他( )

問2-1 活動を中止していた期間を教えてください。(期間が複数ある場合すべて記入)

①	年	月	から	年	月	まで
②	年	月	から	年	月	まで
③	年	月	から	年	月	まで
④	年	月	から	年	月	まで
⑤	年	月	から	年	月	まで

参考：新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、これまでに愛知県が発出した措置等の期間  
【緊】…緊急事態宣言 【防】…まん延防止等重点措置

令和2年度	令和3年度
【緊】2020年4月16日～5月14日 【緊】2021年1月14日～2月28日	【防】2021年4月20日～5月11日 【緊】2021年5月12日～6月20日 【防】2021年6月21日～7月11日 【防】2021年8月8日～8月26日 【緊】2021年8月27日～9月30日

問3 新型コロナウイルス感染症拡大後、サロンを実施したことがある方へおたずねします。  
サロン活動を行うにあたり、工夫していることや新たに始めた取り組みなどについて教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- 消毒・換気の徹底
- 換気の徹底
- 参加人数の制限
- 入れ替え制の導入
- 事前申し込み制の導入
- 活動実施時間の短縮
- プログラム内容の変更
- 対面を避ける・間隔を取る形式への会場レイアウトの変更
- 屋外活動型サロンの実施
- 自宅でもできる活動の案内
- オンラインを取り入れた運営
- その他( )

問4 サロンを中止している、または、一時的に中止したサロンにおたずねします。  
サロン活動の代替として行ったことを教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- サロン参加者宅への訪問活動
- 広報紙、回覧板など書面を使った情報発信
- 電話での安否・体調の確認
- 自宅で取組める作業材料や食べ物の配布
- 他の屋外活動への参加呼びかけ
- SNSなどを使った情報発信
- その他( )
- 特に代替の活動は行っていない

問5 サロン活動のオンライン実施を想定した場合の、あなたのサロンの状況について教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- サロンで使えるインターネット環境がある
- パソコンやスマートフォン、タブレット端末などの通信機器がある
- Zoomなどをはじめとするオンラインコミュニケーションツールを使える
- オンラインでのサロン活動を実施したことがある
- オンラインツールを使ってみたいが、できずにいる
- オンラインツールを使える参加者が少ない
- その他( )
- やりたくない・できない

問6 サロン開催の可否について、どのように決めましたか。(主なものとつに○印)

- サロンの運営者(ボランティア)と話し合いのうえ決めた
- サロンの代表者の判断で決めた
- 参加者の意見を聞いて判断した
- 区社会福祉協議会に相談して判断した
- 区役所に相談して判断した
- その他( )

問7 新型コロナウイルス感染症拡大以前(2020年1月頃より前)と比較したときの1回あたりの平均参加者数の変化を教えてください。

感染症拡大前	人	現在(調査時点)	人
--------	---	----------	---

問8 サロン参加者へ中止や時間変更などの連絡を行う際の連絡手段を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

- サロン参加者宅への訪問
- 手紙や回覧板など書面を使った連絡
- 電話での連絡
- 電子メールを使った連絡
- LINEを使った連絡
- ホームページを使った連絡
- その他( )

問9 サロンのプログラムについて、新型コロナウイルス感染症拡大以前と、いま現在行っている内容を教えてください。(あてはまるもの5つ以内)○印)

新型コロナウイルス感染症拡大以前(2020年1月頃より前)の活動内容	
1. 健康体操	13. 行政等の出前講座
2. 健康講話	14. 世代間交流
3. 健康チェック(血圧測定等)	(幼稚園児や学生との交流)
4. 創作活動(手芸など)	15. 委員会(料理、お菓子作り)
5. 音楽鑑賞	16. その他
6. 音楽活動(歌唱・楽器演奏)	12. 室内ゲーム
いま現在の活動内容	
1. 健康体操	7. 酒劇・映画鑑賞
2. 健康講話	8. お茶とおしゃべり
3. 健康チェック(血圧測定等)	9. 文化活動(習字・俳句・川柳)
4. 創作活動(手芸など)	10. 囲碁・将棋・麻雀等
5. 音楽鑑賞	11. 脳トレニング
6. 音楽活動(歌唱・楽器演奏)	12. 室内ゲーム
7. 酒劇・映画鑑賞	13. 行政等の出前講座
8. お茶とおしゃべり	14. 世代間交流
9. 文化活動(習字・俳句・川柳)	(幼稚園児や学生との交流)
10. 囲碁・将棋・麻雀等	15. 委員会(料理、お菓子作り)
11. 脳トレニング	16. その他
12. 室内ゲーム	

問10 新型コロナウイルス感染症の拡大を継続し、サロン活動を実施してきてよかったことを教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. サロン活動の目的や役割を再認識した
2. サロン活動が参加者だけでなく運営側にも充実感を与えていることを実感した
3. 参加人数を制限したため一人一人によく目が届くようになった
4. 地域の方たちの絆がより深まった
5. オンラインツールの利用など、新しい開催方法を模索するようになった
6. その他

問11 サロン運営の今後の方向性について教えてください。(ひとつに○印)

1. 拡大	2. 現状維持(継続)	3. 縮小	4. 廃止を検討中
-------	-------------	-------	-----------

問12 参加者のちよっとした困りごとの発見や解決に向けて取り組んでいることについて教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

サロンの運営状況についておたずねします。	
1. 何気ない会話から困りごとの把握	7. 参加者同士での見守りや助け合い
2. スタッフによる困りごと相談の受付	8. ボランティア団体等への困りごとの支援依頼
3. 困りごとを話せる場や機会づくり	9. 区社協やいきいき支援センターへの相談
4. 区社協やいきいき支援センター職員との定期的なサロン訪問	10. 担当の民生委員やケアマネジャーへの相談
5. 打ち合わせ等での参加者の状況を共有	11. 地域支えあい事業の住民相談窓口への相談
6. スタッフによる困りごとの支援	12. 特に取り組んでいない
	13. その他

サロンの経費や助成制度の利用についておたずねします。

問13 1回開催あたりの必要な経費について教えてください。(ひとつに○印)

①新型コロナウイルス感染症拡大以前(2020年1月頃より前)の経費	
1. 費用はかかっていない	4. 5,000円から15,000円未満
2. 3,000円未満	5. 15,000円以上
3. 3,000円から5,000円未満	6. その他
②いま現在の経費	
1. 費用はかからない	4. 5,000円から15,000円未満
2. 3,000円未満	5. 15,000円以上
3. 3,000円から5,000円未満	6. その他

問14 問13②で「2」～「6」と回答された方にお聞きします。費用の内容を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. お茶菓子代	7. 備品・事務用品購入費
2. 食材費	8. 担い手の実費交通費
3. 手芸等の材料費	9. 講師謝金
4. 会場使用料	10. 感染予防対策費
5. 保険料	11. その他
6. 資料印刷代	

問15 感染予防策として購入したものを教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 消毒液	5. マスク・フェイスシールド
2. ティスベンサー・ペダル式スタンド	6. 飛沫防止パネルやフィルム
3. 非接触体温計	7. その他
4. 空気清浄機	

問16 サロンの運営費(収入)の状況について教えてください。(あてはまるもの1つに○印)

1. 運営費に余裕がある	3. なんとかやりくりできている
2. ちょうどよい	4. 運営費が足りていない

問17 サロンを継続的に運営していくために利用している助成金や補助金について教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 市社協の運営助成	5. 財団法人など他団体からの助成
2. 区社協からの事業助成	6. 助成金や補助金は利用していない
3. 学区地域福祉推進協議会からの補助	7. その他
4. 町内会・自治会からの補助	

サロン活動の効果についておたずねします。

問 18 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの閉鎖や活動中止を経験し、改めて感じているサロン活動の効果についてあなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

記入例) ○○○○○○について ⇒	とても 番号	1	2	3	4	5	6
<① 参加者への効果>							
(1) 人と話す機会となっている		1	2	3	4	5	6
(2) 新しい友人や仲間づくりの機会となっている		1	2	3	4	5	6
(3) 外出の機会となっている		1	2	3	4	5	6
(4) メリハリのある生活につながっている		1	2	3	4	5	6
(5) 生きがいにつながっている		1	2	3	4	5	6
(6) 役割などがあることで自信につながっている		1	2	3	4	5	6
(7) 体を動かす機会となっている		1	2	3	4	5	6
<② 貴サロンの効果>							
(8) 参加者の体調の変化などに気づくことができる		1	2	3	4	5	6
(9) 参加者の安否確認ができる		1	2	3	4	5	6
(10) 閉じこもり・孤立の防止になっている		1	2	3	4	5	6
(11) 介護予防や認知症予防に役立っている		1	2	3	4	5	6
(12) スタッフや参加者の居場所になっている		1	2	3	4	5	6
(13) 心配ごとや困りごとの発見につながっている		1	2	3	4	5	6
(14) ちよっとした困りごとの解決につながっている		1	2	3	4	5	6
(15) 参加者の家族の負担軽減や気分転換になっている		1	2	3	4	5	6
(16) 地域での助けあい活動や交流の拠点となっている		1	2	3	4	5	6

問 18-1 その他、感じているサロン活動の効果などがあれば、ご自由にお書きください。

今後、求められるサロン活動の支援策についておたずねします。

問 19 今後、サロン活動がより一層発展するために必要だと思うことを教えてください。  
(あてはまるものすべてに○印)

1. 地域住民へのサロン活動への理解・周知	13. 地域型組織との連携・協働
2. 新たな拒み手の確保	14. ボランティアやNPO団体との連携・協働
3. 大学生など若い世代の参加	15. 社会福祉施設との連携・協働
4. 参加対象世代の拡大	16. 他のサロンとの交流・情報交換
5. 男性参加者の増加	17. スタッフの学習の機会の増
6. 地元企業や商店街等の協力	18. 行政や社協職員による活動支援
7. 閉鎖回数の増加	19. サロンへの送迎支援
8. 閉鎖場所の確保	20. サロンでの困りごと相談の受付
9. 会場設備の充実 (いす、台所等)	21. サロンでの見守りや助けあいの活動
10. 介護予防等のプログラムの充実	22. 感染症への具体的な対応
11. 継続的な運営助成や補助	23. 集まって開催する以外の活動の情報提供
12. 助成要件の緩和(開催回数等)	24. その他 ( )

問 20 新型コロナウイルス感染症の拡大を経験して感じる必要な支援について教えてください。  
(あてはまるものすべてに○印)

1. 感染症拡大下におけるサロン開催の判断基準を知りたい
2. 活動実施に向けた注意点やアドバイスをほしい
3. 活動内容ごとの感染予防の基準を知りたい
4. サロン活動の実施方法を改善したい
5. 他のサロンの活動状況や取り組みの工夫について知りたい
6. 電子メールやLINEを使った連絡手段の使い方を学びたい
7. 屋外活動を行ううえでの場所やプログラムを知りたい
8. ZoomやYouTubeなどオンラインツールを使ったサロンの開催方法を知りたい
9. その他 ( )

地域共生社会についておたずねします。

問 21 あなたは、「地域共生社会」を知っていますか。(ひとつに○)

1. 言葉も意味も知っている
2. 言葉は知っているが意味は知らない
3. 言葉も意味も知らない

※ 地域共生社会とは、

国が掲げる福祉のビジョンで、制度や分野ごとの「縦割り」や「支えられる側」「支える側」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会のことをいいます。

地域共生社会の実現に向けて、全国的に「重層的支援体制整備事業」が進められています。重層的支援体制整備事業は、複雑な生活課題を抱えている方、公的制度の範囲で円滑な支援を受けられなかったり、社会的に孤立している方を迅速することなく受け止め、様々な相談支援機関が協働し、ご本人に寄り添いながら継続した支援を行っていく体制づくりを行うものです。こうした体制の中で、解決が難しい課題を抱えている方々を早期に発見し支援に結びつけるには、近隣の困りごとに気が付くことができる“気にかげあう”地域づくりが大切だと言われています。

問 22 「地域共生社会」の実現に向けて、あなたのこれからのサロン活動において取り組むことが出来そうなことを教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 社会的に孤立している方を、サロンで発見して支援機関につなぐこと
2. 社会的に孤立している方がサロン等の交流の場に参加する仕組みづくりを行うこと
3. 社会的に孤立している方が担い手としてサロン活動に参加する仕組みづくり
4. 参加者、担い手という関係を超えて誰もが地域の中で役割を持って活躍できるような取り組み
5. 企業や商店街等、福祉と関係のない分野の地域資源ともつながり、共に地域づくりを行うこと
6. 高齢者、障がい者、子育て等、対象者を限定しない分野を超えた取り組み
7. その他( )

サロンの運営について日ごろ感じていることについておたずねします。

問 23 サロンを運営する中で、日ごろ感じていることがあればご自由にお書きください。

以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございました。  
調査票は、12月24日(金)までに同封の封筒にてご返送ください。

## (2) サロン参加者向けアンケート

### 名古屋社会福祉協議会 高齢者・共生型サロン実態把握調査 ふれあい・いきいきサロン 参加者向けアンケート

#### アンケート調査へのご協力をお願い

時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。  
皆さまには日頃から、「ふれあい・いきいきサロン（以下サロン）」をはじめとする地域福祉活動にご理解・ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。  
このたび、名古屋社会福祉協議会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、従来の活動が困難となっている状況が続くなか、名古屋市内におけるサロンの現状について、サロン主催者及び参加者の双方を対象としたアンケートを実施することとしました。  
今回の調査を通じて、運営ボランティア代表者・参加者の方々の現状やサロン活動の効果、新しい生活様式を踏まえたサロンの在り方やサロン活動上での課題、支援要望などを把握し、今後安心してサロン活動ができる地域社会づくりに役立てたいと考えております。  
つきましては、お忙しいところ大変申し訳ありませんが、以下のアンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

令和3年11月 名古屋社会福祉協議会

#### ご回答にあたってのお願い

- 本アンケート調査は、社会福祉協議会が把握する高齢者・共生型サロンについて、各区から無作為抽出し、サロンの参加者に送付しています。
- サロンに対して日ごろお考えになっていることについて、お答えいただける方のご記入をお願いいたします。
- 回答にあたっては、特に記載のない場合は、該当する項目を1つ選んで、番号に○印をつけてください。ただし、「その他」を選択された場合は、( ) 内に具体的にその内容をご記入ください。
- 質問に出てくる「新型コロナウイルス感染症拡大以前」とは、2020年1月頃より前のことという意味しています。
- 調査結果はすべて統計処理し、個人の名前や回答が特定されることはありません。普段選っておられることのあるままにお答えください。
- 回答された調査票は12月24日(金)までに同封しました返信用封筒(切手不要)に入れて、お近くのポストに投函してください。
- このアンケートについてのご質問などがありましたら下記までお問い合わせください。

#### 【問い合わせ先】

〒462-8558名古屋市中区清水4-17-1 名古屋社会福祉会館5階  
名古屋社会福祉協議会地域福祉推進部 担当：桑野・中根  
TEL 052-911-3193 / FAX 052-917-0702 / mail a.nakane@nagoya-shakyo.or.jp

あなたのことについておたずねします。			
問1	あなたのことについてお答えください。(選択肢の設問は、あてはまるものに○印)		
いま現在のあなたについて			
調査依頼されたサロンの名称	サロンの開催地区	区	学区
あなたの性別	男・女	あなたの年齢	歳
家族構成	1. 一人暮らし 2. 夫婦で二人暮らし 3. 夫婦と子ども(または子ども世帯)と同居 4. 自分と子ども(または子ども世帯)と同居 5. 親と同居 6. その他(具体的に)		
介護保険認定の有無	1. 受けていない(非該当・申請中を含む) 2. 要支援1 3. 要支援2 4. 要介護1 5. 要介護2 6. 要介護3 7. 要介護4 8. 要介護5 9. わからない		
収入を得る仕事	1. している 2. していない 3. あまり良くない 4. 良くない		
現在の健康状態	1. とても良い 2. まあまあ良い		
地域内で参加している活動	1. 趣味・親縁のグループ 2. ボランティアグループ 3. 老人クラブ 4. 町内会・自治会活動 5. その他( )		
参加しているサロン数	1. 1つ 2. 2つ 3. 3つ 4. 4つ以上		
新型コロナウイルス感染症拡大以前(2020年1月頃より前)のあなたについて			
地域内で参加していた活動	1. 趣味・親縁のグループ 2. ボランティアグループ 3. 老人クラブ 4. 町内会・自治会活動 5. その他( )		
参加していたサロン数	1. 1つ 2. 2つ 3. 3つ 4. 4つ以上		

あなたが参加しているサロンについておたずねします。

問2 自宅からサロン会場まで、徒歩による片道の移動時間を教えてください。(ひとつに○印)

1. 5分未満	3. 10～15分未満	5. 20分以上
2. 5～10分未満	4. 15分～20分未満	

問3 あなたがサロンに参加する理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 新たに友人や仲間をつくるため	7. 趣味や特技、技術をいかすため
2. 友人や仲間との交流を深めるため	8. 開催場所が近いから
3. 健康を維持するため	9. 自分の話を聞ける人がいるから
4. 介護予防・認知症予防になるから	10. 自分の役割があるから
5. 誰かが話してくれるから	11. その他( )
6. 地域や社会の役に立ちたいため	

問4 サロンに参加し始めてから何年経過したか教えてください。(ひとつに○印)

1. 1年未満	3. 2～3年未満	5. 4～5年未満	7. わからない
2. 1～2年未満	4. 3～4年未満	6. 5年以上	

問5 サロン参加費(会費)について、あなたの考えに1番近いものを教えてください。(ひとつに○印)

1. 運営に必要な参加費は負担しても構わない	3. 外出行事なら負担しても構わない
2. 負担なら負担しても構わない	4. 参加費を負担してまで来たくない

問6 サロンに対する満足度について、あなたの考えに1番近いものを教えてください。(ひとつに○印)

1. とても満足している	3. どちらとも言えない	5. 満足していない
2. まあ満足している	4. あまり満足していない	

問6-1 問6で選択した満足度の具体的な理由を教えてください。

問7 サロンの開催情報などの連絡方法について、あなたが利用可能な手段を教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 郵便	4. LINE	7. その他
2. 電話	5. FacebookなどのSNS	( )
3. 電子メール	6. サロンのホームページ	

新型コロナウイルス感染症拡大の影響や、過ごし方についておたずねします。

問8 新型コロナウイルス感染症拡大によって、サロンの参加に影響はありましたか。(ひとつに○印)

1. 変わりなく参加した	3. サロンは開催していたが、参加は控えていた
2. 参加しなかったが、サロンが休止していた	

問9 新型コロナウイルス感染症拡大によりサロンが閉鎖していた期間中、どのように過ごしていましたか。(あてはまるものすべてに○印)

1. サロン以外の会(趣味や運動など)で活動していた	5. その他( )
2. 屋外で出来る活動に参加していた	6. 特に活動などはできていない
3. 自宅でひとりでも取組める趣味や運動などをしていました	
4. オンラインの活動に参加していた	

問 10 参加するサロンにおける感染防止対策として、望むことについて教えてください。  
(あてはまるものすべてに○印)

1. 参加人数の制限
2. 入れ替え制の導入
3. 事前申し込み制の導入
4. 参加者との距離の確保
5. 消毒・検温の徹底
6. 会話中のマスク着用の徹底
7. 換気の徹底
8. オンラインを利用したサロンの実施
9. 自宅で出来る取組みの案内
10. 屋外で出来る取組みの案内
11. その他 ( )

問 11 サロンがオンラインでの開催になった場合のあなたの状況について教えてください。  
(あてはまるものすべてに○印)

1. パソコンやスマートフォン、タブレット端末などの通信機器を持っている
2. 自宅で使えるインターネット環境がある
3. Zoomなどをはじめとするオンラインコミュニケーションツールを使える
4. オンラインツールを使ってみたが、できずにいる
5. やりたくない・できない

サロンに参加することの効果についておたずねします。

問 12 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの休止等で、参加が出来なかった期間中、  
あなたのお考えに最も近いものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

記入例) ○○○○○○について ⇒	1	2	3	4	5	6
(1) 人と話す機会が減った	1	2	3	4	5	6
(2) 外出の回数(機会)が減った	1	2	3	4	5	6
(3) 体を動かす習慣が減った	1	2	3	4	5	6
(4) 体力のおとろえを感じた	1	2	3	4	5	6
(5) 生活のリズムが乱れた	1	2	3	4	5	6
(6) きびしさや不安感、孤独感を感じた	1	2	3	4	5	6
(7) サロン以外の会(趣味や運動など)の参加が増えた	1	2	3	4	5	6
(8) 自宅での活動(趣味や家事など)の時間が増えた	1	2	3	4	5	6
(9) 健康に関する情報や知識が増えた	1	2	3	4	5	6
(10) サロンは介護予防や認知症予防になっている	1	2	3	4	5	6
(11) サロンの重要性を改めて感じた	1	2	3	4	5	6

日常の行動や感じていることについておたずねします。

問 13 今後、サロン活動をより一層充実するために、必要だと思われることを教えてください。  
(あてはまるものすべてに○印)

1. プログラムや内容の充実
2. 他世代の参加・交流
3. 地元企業や商店街等の協力
4. 開催回数の増加
5. 男性参加者の増加
6. 活躍できる機会の増加
7. 自由に選べる時間帯の増加
8. オンライン (ICT の活用) による交流 ( )
9. 行政や社協職員の参加
10. サロンへの送迎支援
11. サロンでの困りごと相談の受付
12. サロンでの見守りや助けあいの活動
13. より身近な場所でのサロンの実施
14. 生活に役立つ情報の提供
15. その他

問 14 日頃、困りごとがあった時に誰に相談するか教えてください。(あてはまるものすべてに○印)

1. 家族(親族)
2. 友人
3. 近所の人
4. サロンの仲間
5. サロンのスタッフ
6. 自治会・町内会 ( )
7. 民生委員・児童委員
8. 担当のケアマネジャー
9. 社会福祉協議会
10. いきいき支援センター
11. 区役所・保健センター
12. その他 ( )

問 15 サロンに参加する中で、日ごろ感じていることがあればご自由にお書きください。

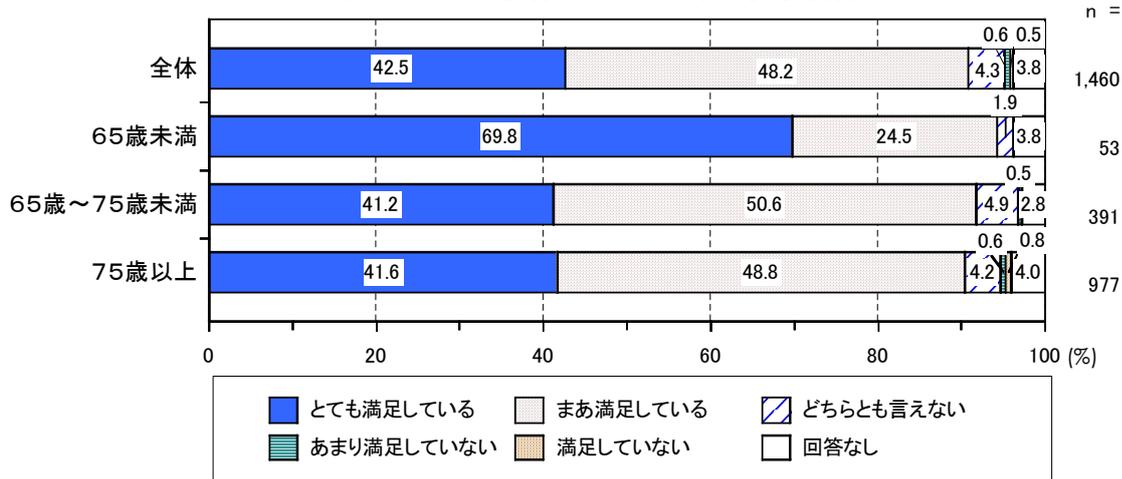
以上でアンケートは終わります。ご協力ありがとうございます。  
調査票は、12月24日(金)までに同封の封筒にて返送ください。

(1) サロンに参加することによる効果

◆サロンに参加することにより、人との交流、外出機会の増大の効果が認められている。コロナ禍の休止を経たことで、参加者からはサロンの重要性や効果を改めて実感したことがわかります。

○参加者のサロンに対する満足度は「とても満足している」42.5%、「まあ満足している」48.2%であり90.7%が満足していると回答しています。

図 3-1-1 年齢別「サロンに対する満足度」



- 代表者に聞いたサロン活動が参加者に与える効果として「とても思う」「まあ思う」を合わせた回答は、「人と話す機会が増えている」97.0%が最も高く、「外出の機会となっている」95.0%、「新しい友人や仲間づくりの機会となっている」87.9%と続き、多くの項目で9割前後の回答があり、様々なサロンの効果が認められています
- 参加者の自由回答でも、話すことが楽しい、外出することで生活のリズムができています、友人や仲間との活動が楽しいといった意見が多くあり、参加者自身もサロンの効果を実感していることが伺えます。
- サロンの休止中に感じたこととして「とても思う」「まあ思う」を合わせた回答は、「サロンの重要性を改めて感じた」73.3%が最も高く、「サロンは介護予防や認知症予防になっている」67.8%、「外出の機会が減った」63.5%、「人と話す機会が減った」60.7%と続いている。サロンが新型コロナウイルス感染症拡大の影響で休止になり、改めてその価値・効果を参加者の皆さんが実感している結果となっています。その内容は、代表者のサロンの効果と共通していることがわかりました。

図 3-1-2 サロン代表者が感じている参加者への効果

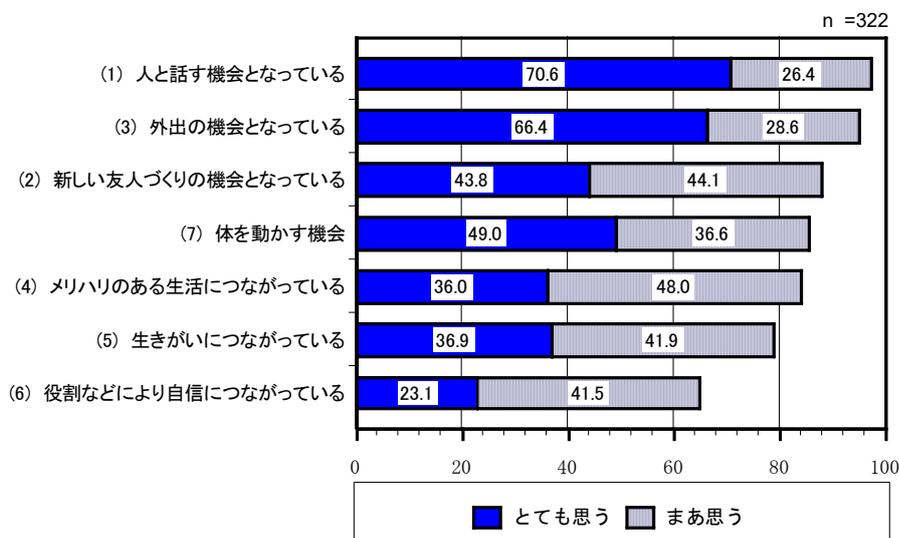
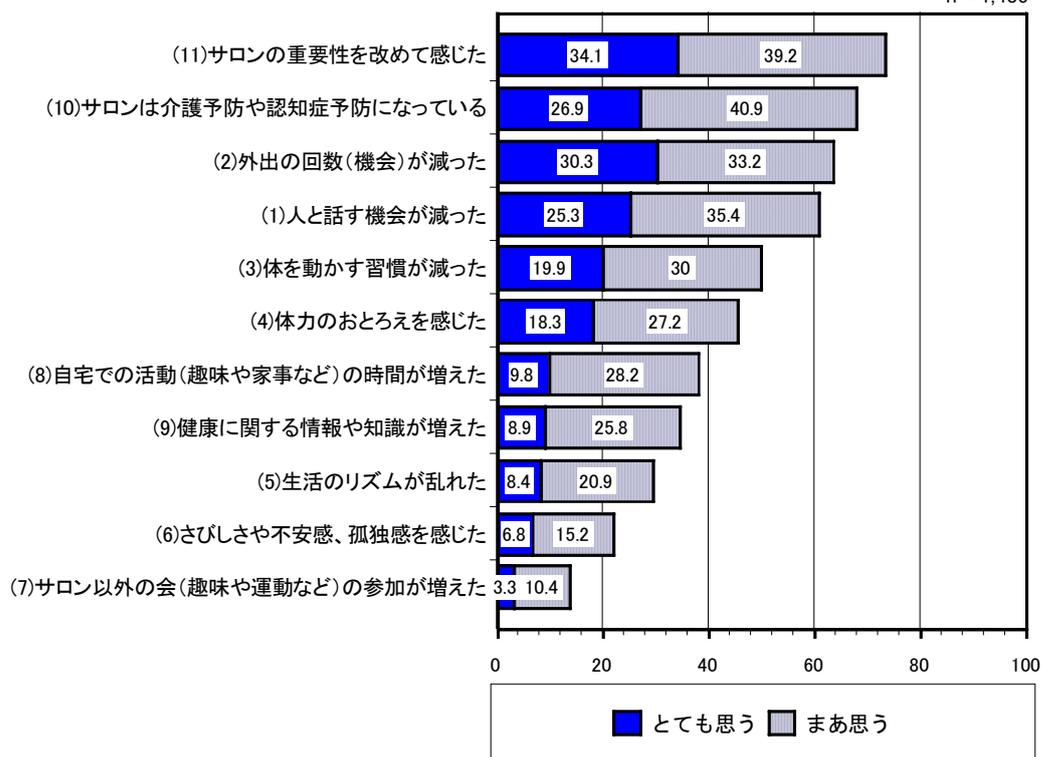


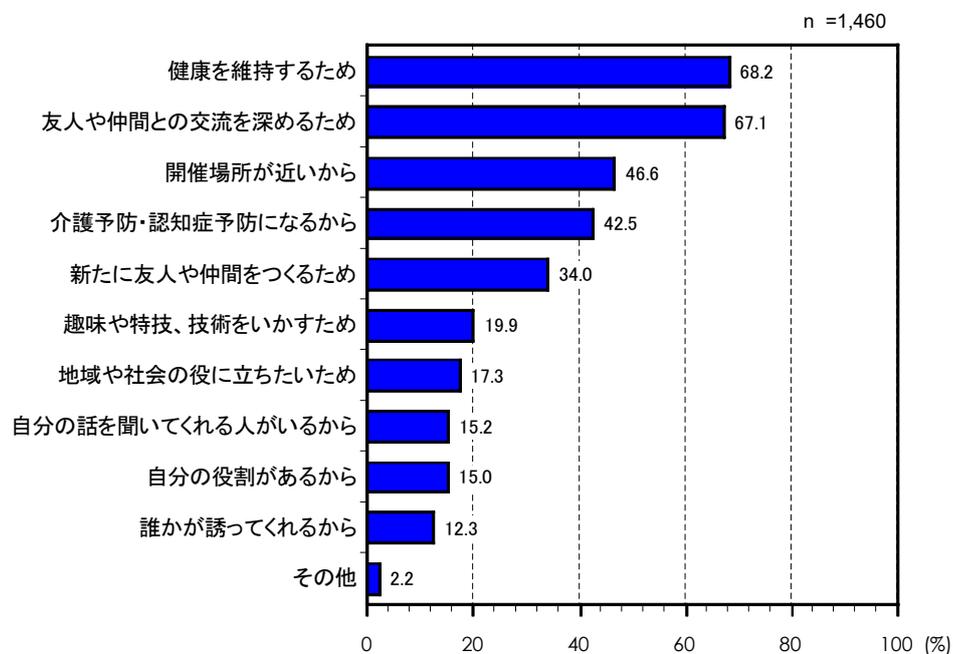
図 3-1-3 参加者が休止中に感じたサロンに参加することの効果



## (2) 参加者がサロンに参加する理由

○「健康を維持するため」、「友人や仲間との交流を深めるため」が、サロンに参加する主な理由となっています。

図 3-1-4 サロン参加者のサロンに参加する主な理由



## 第2章

# 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロン活動への影響

### (1) 活動状況

調査期間である令和3年11月時点までで、愛知県の緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の発出した期間は以下の通りです。

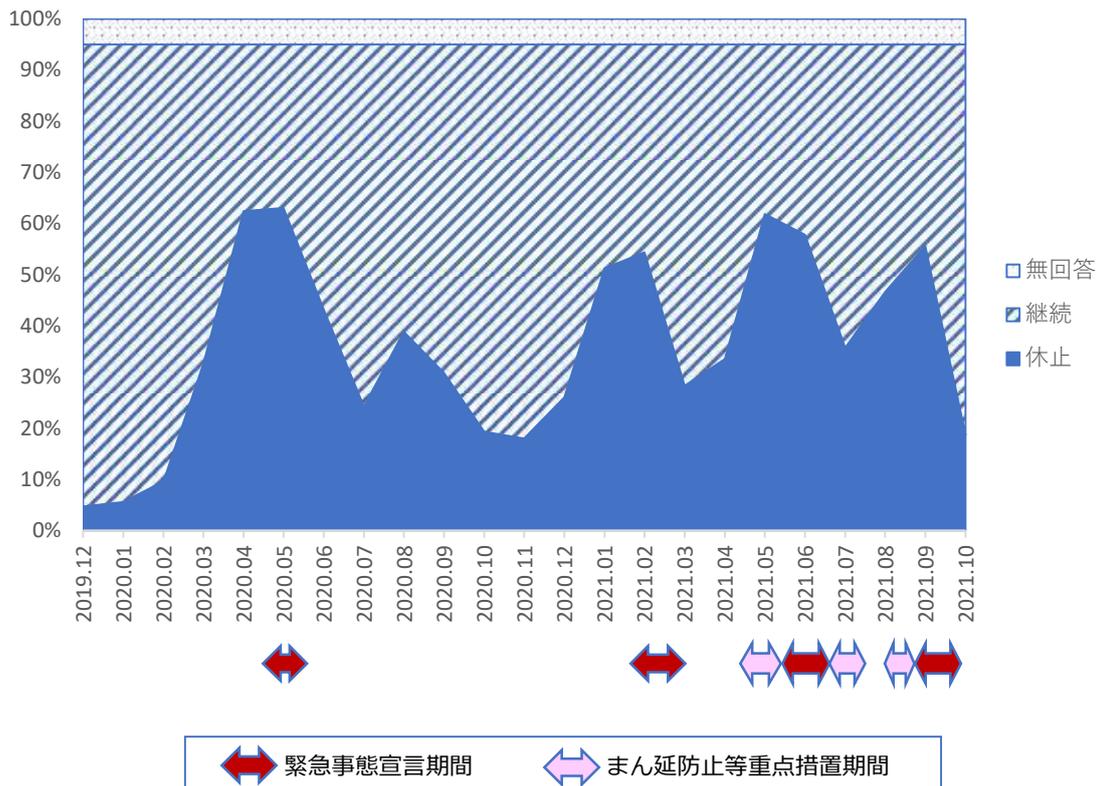
	愛知県が発出した措置	期間
1	緊急事態宣言	令和2（2020）年4月16日～5月14日
2	緊急事態宣言	令和3（2021）年1月14日～2月28日
3	まん延防止等重点措置	令和3（2021）年4月20日～5月11日
4	緊急事態宣言	令和3（2021）年5月12日～6月20日
5	まん延防止等重点措置	令和3（2021）年6月21日～7月11日
6	まん延防止等重点措置	令和3（2021）年8月8日～8月26日
7	緊急事態宣言	令和3（2021）年8月27日～9月30日

各サロンの休止期間を下記のグラフで示しました。

最初の緊急事態宣言が発出された令和2（2020）年4月以前の新型コロナウイルスの感染が取りざたされるようになった令和元（2019）年12月から、既に一部のサロンでは感染の影響を恐れて休止を始めたサロンもあり、調査時期の令和3（2021）年11月現在で、最初の緊急事態宣言発出から一貫して休止をしているサロンもあることがわかりました。

多くのサロンが新型コロナウイルス感染症拡大の状況に合わせて、活動を再開、休止を繰り返してしていることがわかりました。

図 3-2-1 サロンの活動状況



新型コロナウイルス感染症拡大時には、感染予防として人を集めることが困難になり、感染リスクが特に高い高齢者については細心の注意が求められるようになりました。

直近のサロンの開設数は伸びが鈍化しており、令和元年から令和3年にかけては高齢者対象のサロンは微減し、横ばいの状況となっています。

これに伴い、今回の調査対象のサロンの経過年数をみると、「5年未満」のサロンの割合が大きく減少していることがわかります。

図 3-2-2 サロン設置数の推移

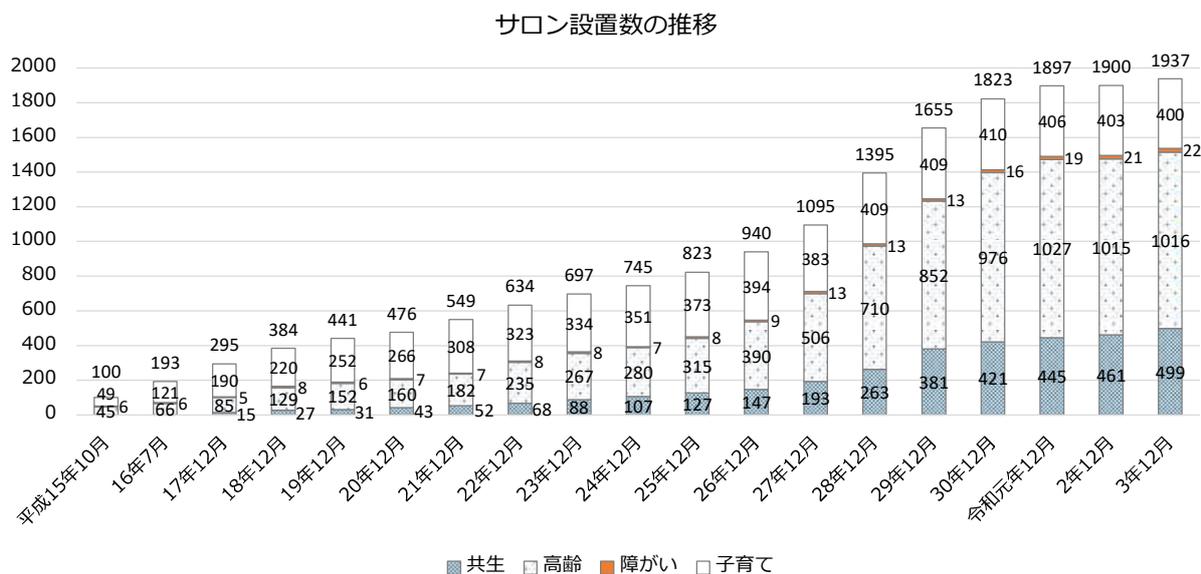
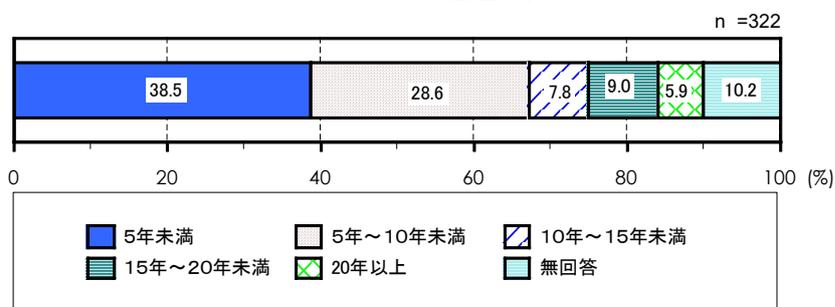


図 3-2-3 サロンの経過年数



## (2) サロン活動開催判断について

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、サロンの運営について尋ねると、「おおむね年間計画通り」が13.4%に対して、「状況に応じ実施」が73.6%と最も高くなっています。また、「当初から現在まで活動を中止」も6.2%あります。

運営側、参加者側どちらも高齢者が多いことから、サロンの開催に慎重になっていることがうかがえます。サロンの開催の可否は、「運営者（ボランティア）と話し合いのうえ決めた」が45.0%と最も高くなっています。その他にも、参加者の意見、区社会福祉協議会と相談しながら決めていく比率が高くなっています。一方で、サロンの代表者の判断は14.6%となっています。新型コロナウイルス感染症拡大の状況と参加者にとってのサロンの意義を鑑みての開催の判断が難しかったことが伺えます。

図 3-2-4 感染症拡大後のサロンの運営状況

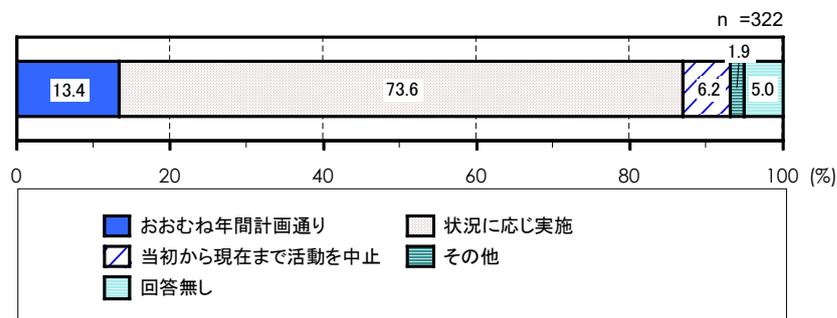
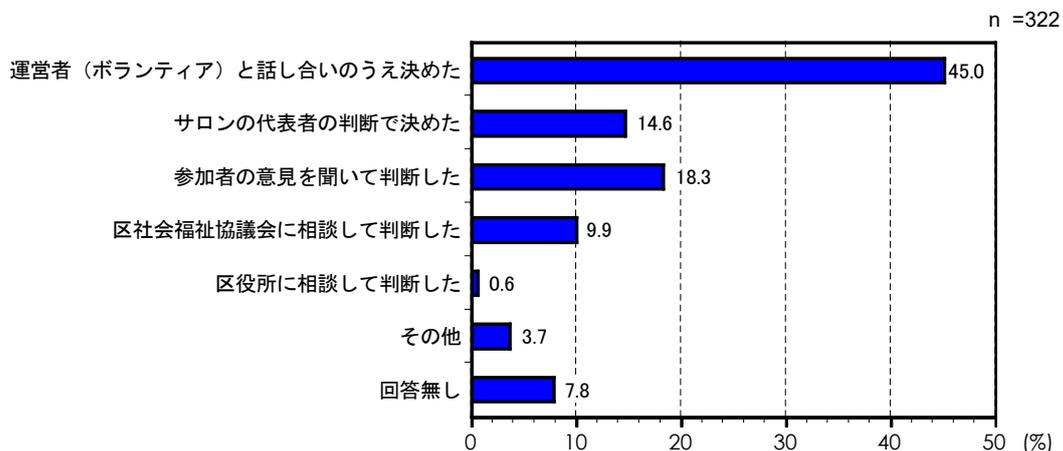


図 3-2-5 サロン開催可否の判断



### (3) 新型コロナウイルス感染症拡大時のサロン活動内容について

新型コロナウイルス感染症拡大後もサロン開催をしたことがある280団体に、新型コロナウイルス感染症拡大後に工夫していること、新たに始めた取り組みは、「消毒・検温の徹底」「換気の徹底」は9割を超えています。また、会場レイアウトの変更、参加人数の制限、活動時間の短縮、プログラム内容の変更にも取り組んでいるサロンが多くなっています。

一方、感染を避けて、サロンの活動を継続する方法としてオンラインでの開催、あるいは屋外での活動が見込まれますが、屋外活動は11.8%、オンラインを取り入れた運営は1.4%とかなり低い状況です。

中止期間があったサロン256団体に、サロンの代替活動について尋ねたところ、活動のあるサロンでも「電話での安否・体調の確認」「広報誌・回覧板など書面を使った情報発信」といった非接触の活動についての項目が高くなっています。また、「サロン参加者宅への訪問活動」「自宅で取り組める作業材料や食べ物の配布」は1割程度にとどまっています。

「特に代替の活動は行っていない」が4割を占めて最も高く、効果的なサロンの代替活動は行っていない団体が多かったことがうかがえます。

図 3-2-6 感染拡大後にサロン活動をする上で行った工夫や新たな取り組み

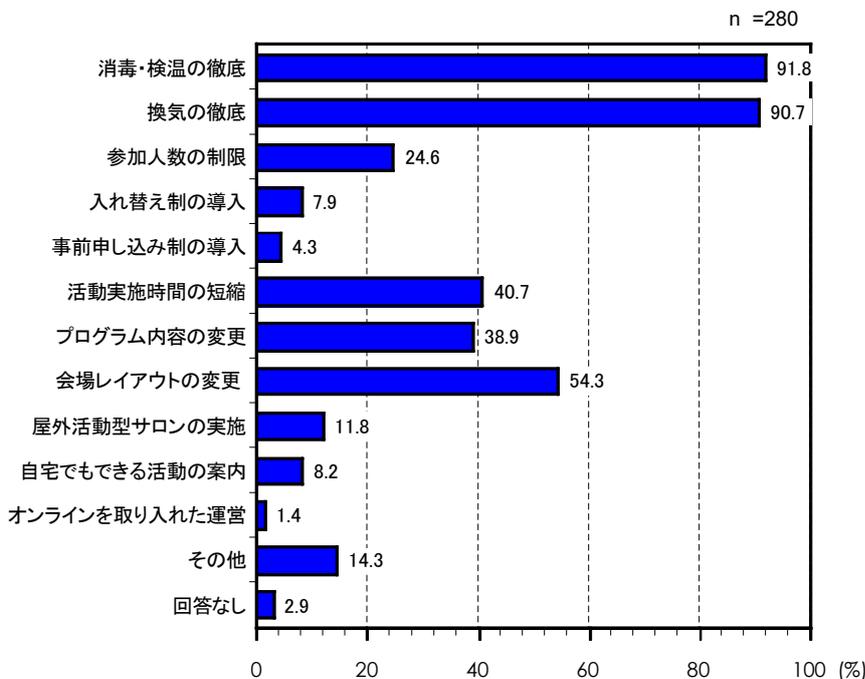
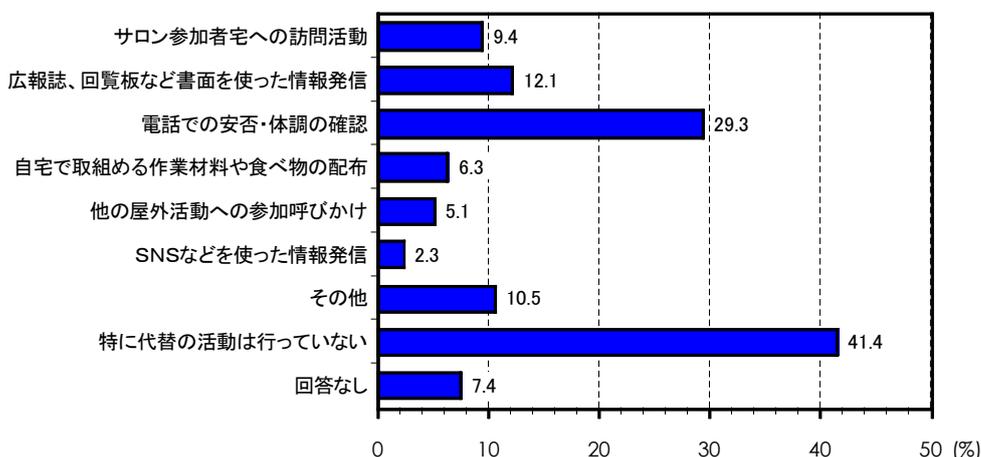


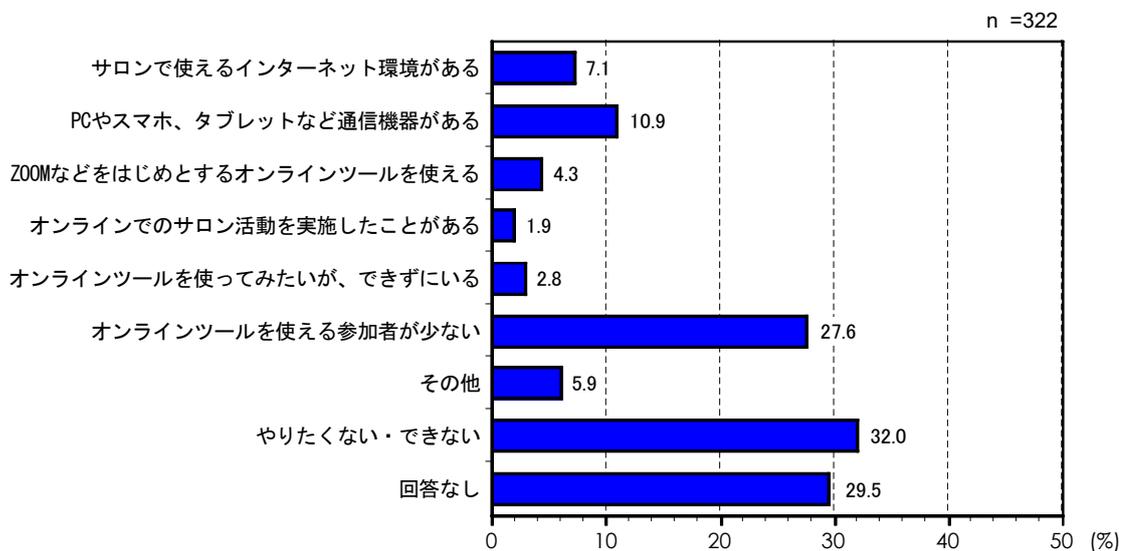
図 3-2-7 中止期間に行った代替活動



オンラインツールの活用については、「やりたくない・できない」「オンラインツールを使える参加者が少ない」がそれぞれ3割の回答があります。

一方で、「PCやスマホ、タブレットなど通信機器がある」は1割あり、既にオンライン活動の実施経験があるサロンは6件（1.9%）あり、オンラインツールの利用を試してみたいと考えているサロンは9件（2.8%）と、わずかですがありました。

図 3-2-8 サロン活動のオンライン実施を想定した場合のあなたのサロン状況

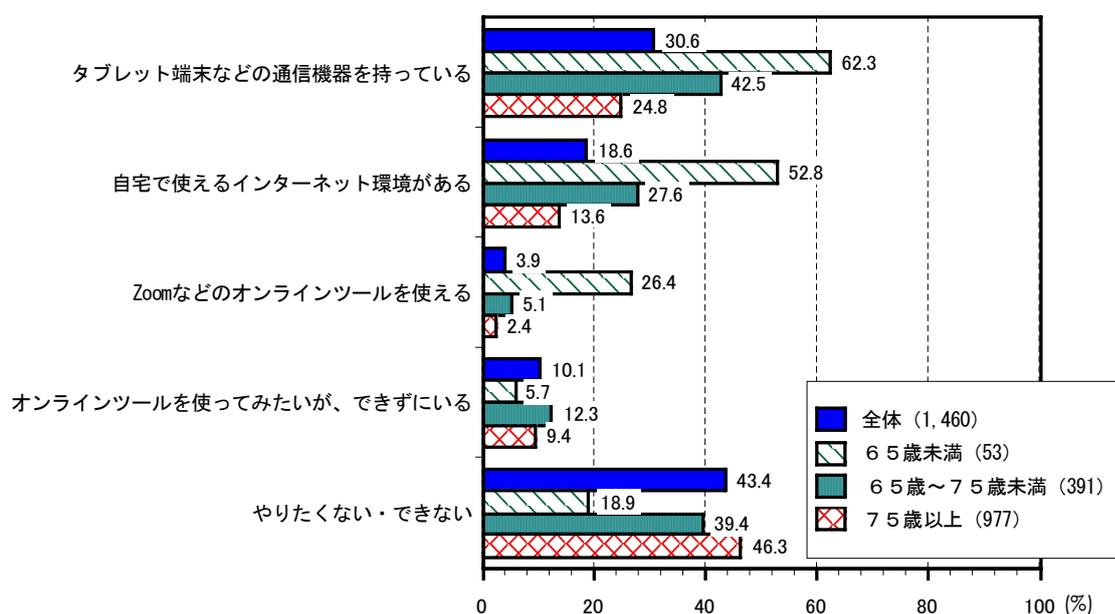


参加者のオンラインサロン開催時の対応をみると、年齢によってばらつきがあるものの、インターネット環境や通信機器を持っている人も多くいます。

一方で「やりたくない・できない」も4割程度となっています。

新型コロナウイルス感染症拡大後、サロンの意義や必要性は感じつつも、従来のサロン活動内容の再開以外の効果的な代替活動には結びついていない状況が明らかになりました。参加者も、運営者も高齢者が多いことから、新たな取組の中でもオンラインの活用が困難な状況がわかります。SNS やオンラインツールを使ってできること、対面でしかできないことなどを整理して、運営者、参加者それぞれにオンラインツールの使い方のきめ細かな対応をする等、ウィズコロナの時代においてオンライン等を使った代替活動への準備が必要です。

図 3-2-9 参加者年齢別「オンラインサロンの開催時の対応」



サロンを開催するにあたって、新型コロナウイルス感染症拡大前後の状況を見ると、回数は、定期的に開催しているサロンの比率は大きな減少はないものの「年に数回」と回答したサロンが出てきています。(図 3-2-10)

また、1回あたりの所要時間は「1時間」「1.5時間」と回答した比率が高くなり、全体的に短縮して実施していることが伺えます。(図 3-2-11)

1回開催あたりのボランティアの平均参加者数は、前後でみると「5人未満」の比率が高くなり、運営側も人数を少なくして、継続して開催していることが伺えます。(図 3-2-12)

参加者については、平均参加者数が減少したサロンが6割、増加したサロンが1割、変化なしは2割弱の状況です。(図 3-2-13)

参加者もサロンの参加について、「変わりなく参加した」全体の1/4を占めている。「参加したかったが、サロンが休止していた」が6割を占め最も高くなっています。一方で「サロンは開催していたが、参加は控えていた」も1割弱あり、新型コロナウイルス感染症に対する個人の考えにより、行動が変わっていることがわかります。(図 3-2-14)

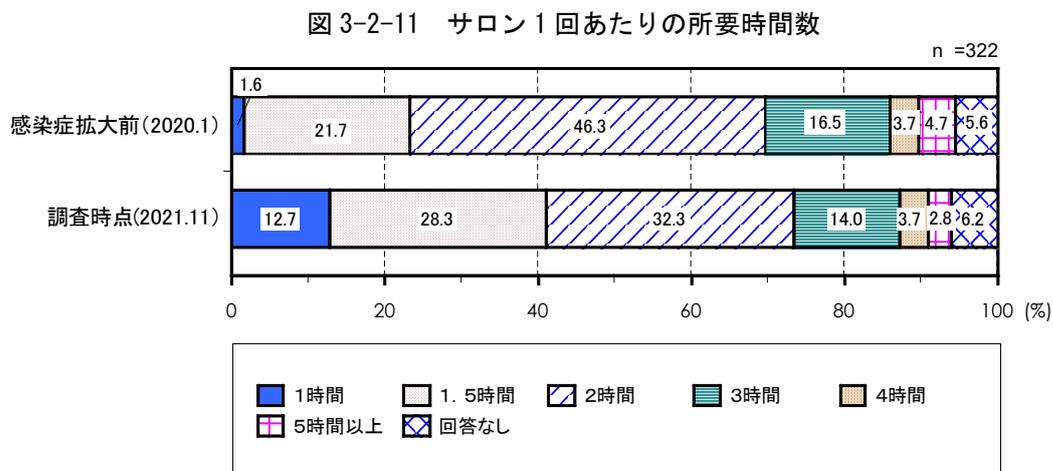
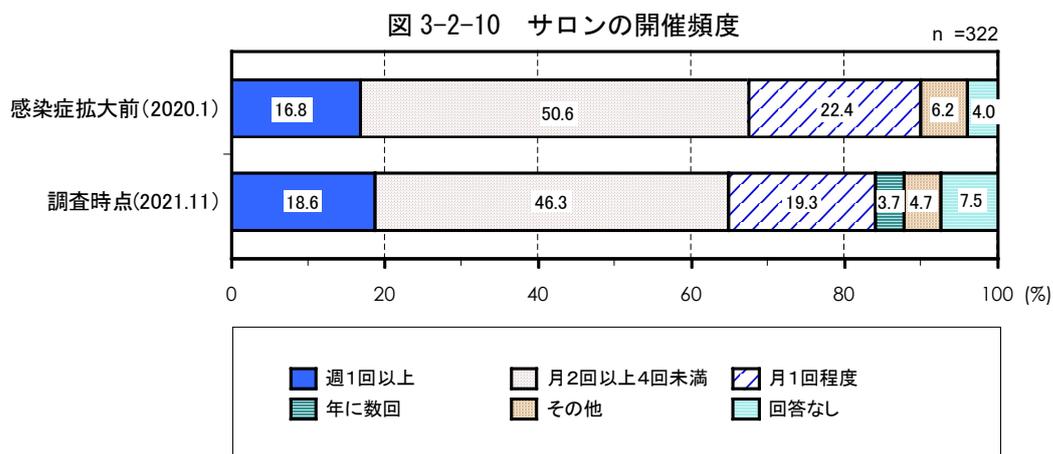


図 3-2-12 1回あたりのボランティア平均参加者数

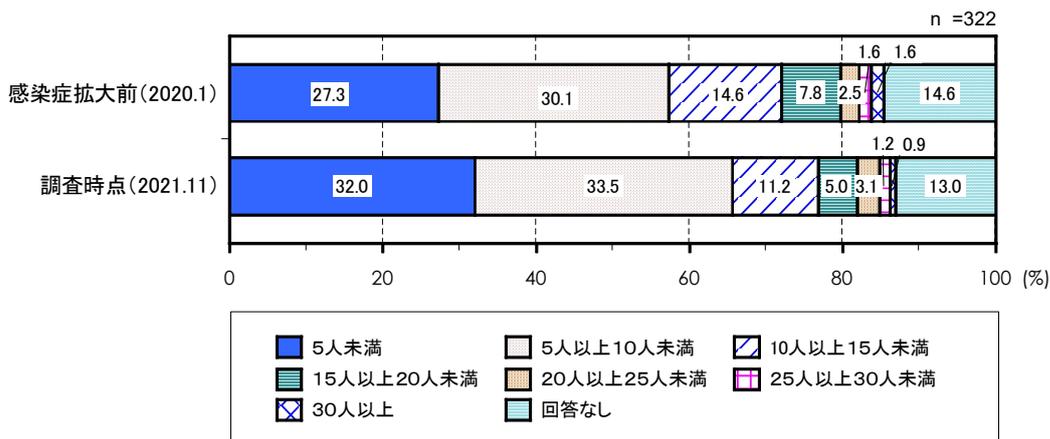


図 3-2-13 感染症拡大前後での平均参加者数の変化

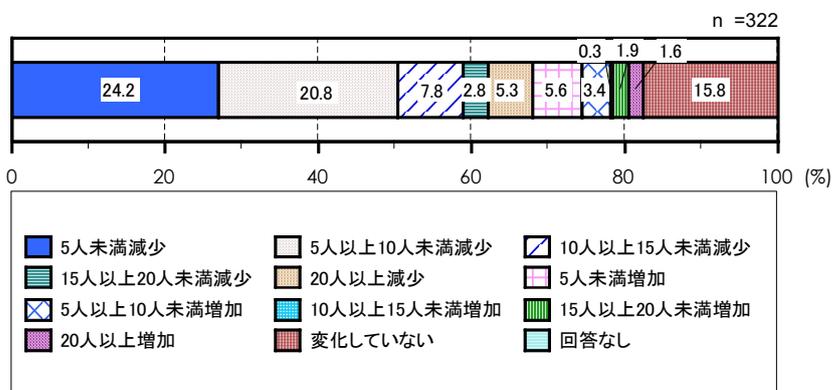
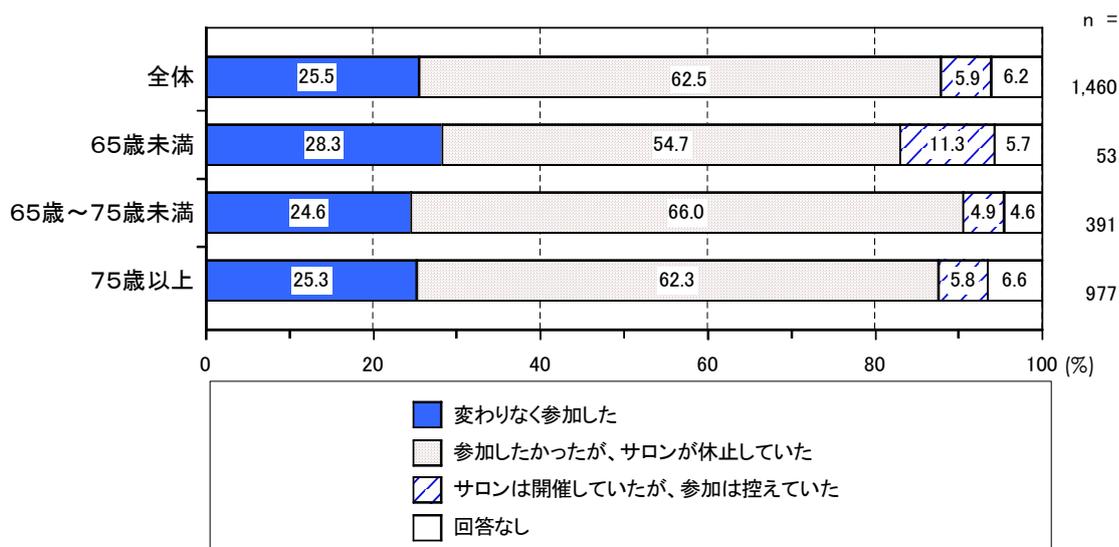


図 3-2-14 年齢別「新型コロナウイルス感染症拡大のサロン参加への影響」



サロンの閉鎖時の過ごし方では、「自宅でひとりでも取り組める趣味や運動などしていた」が半数と高く、「サロン以外の会（趣味や運動など）で活動していた」「屋外で出来る活動に参加していた」といった代替の活動を工夫して行っている人が多くなっています。

新型コロナウイルス感染症拡大を経験して感じる、必要な支援についてサロン運営者へ尋ねたところ、サロン活動の継続のための必要な支援として、開催の判断基準や感染予防の基準、活動実施に向けた注意点やアドバイスといった支援が求められています。

「サロン活動実施方法を改善したい」（11.5%）、「屋外活動を行う上での場所やプログラムを知りたい」（9.0%）、「オンラインツールを使ったサロンの開催方法を知りたい」（2.5%）といった新たな取り組みに対する意向は低い状況にあります。一方で、サロン参加者からは、コロナ禍においてもサロンへの参加意向が高い状況にあり、コロナ禍におけるサロン活動の継続に向けて、これらの新たな取り組みが求められています。

コロナ禍のような状況においても、サロン活動を継続できる屋外活動や、オンラインを活用した活動など、今後のサロン実施のために、きめ細やかな支援をしていくことが重要です。

図 3-2-15 サロン閉鎖時の過ごし方

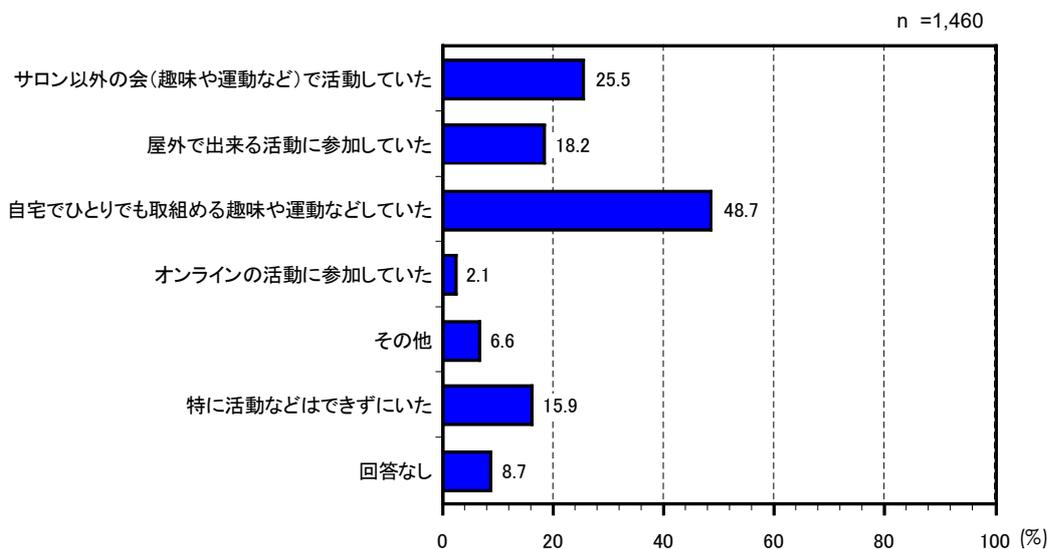
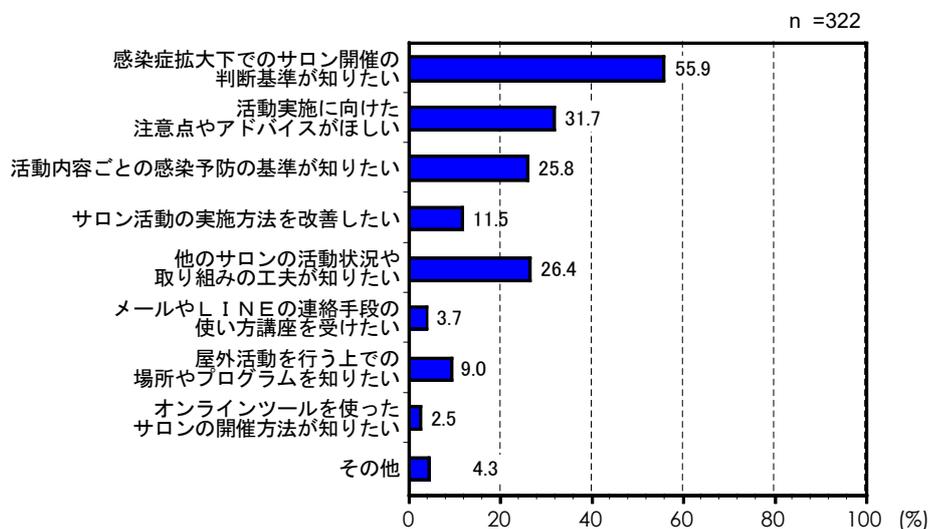


図 3-2-16 感染症の拡大を経験して必要だと感じる支援

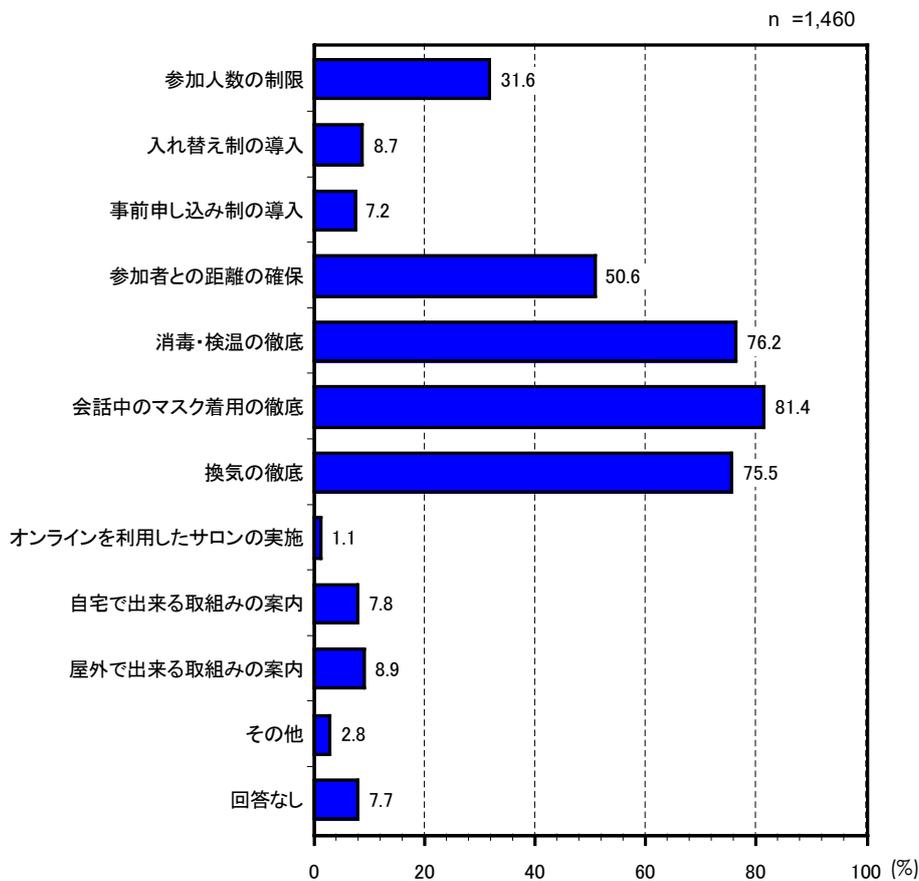


参加者がサロンに望む感染防止対策は「会話中のマスク着用の徹底」「消毒・検温の徹底」「換気の徹底」といった基本的な感染対策の徹底であり、運営側も参加者の期待に応えていることがうかがえます。

参加者が新型コロナウイルス感染症拡大によるサロンの休止等で、参加が出来なかった期間中について、「サロンの重要性を改めて感じた」「サロンは介護予防や認知症予防になっている」といったサロンの効果を改めて感じた人が7割前後を占めています。一方で、「さびしさや不安感、孤独感を感じた」「生活のリズムが乱れた」は『思わない』という意見が多くなっています。

休止があったことによって、改めてサロンについて考える機会を持ち、その価値や効果を実感していることがわかります。

図 3-2-17 感染防止対策としてサロンに望むこと



### 第3章

## 今後のサロン活動について

今後のサロン活動の発展に向けて、「新たな担い手の確保」や、「地域住民へのサロン活動の周知」、「継続的な運営助成や補助」が特に必要だと考えられています。

前回調査（H30）と比較すると、全ての項目において前回よりも割合が低くなっています。特に「地域住民へのサロン活動への理解・周知」「継続的な運営助成や補助」「男性参加者の増加」は回答の比率が高いものの、前回に比べると10ポイント程度減少しています。

図 3-3-1 今後の発展のために必要なこと



困りごとの発見や解決について、何気ない会話や参加者同士での見守りや助け合い、話せる場や機会づくりといった、従来の対面での参加をもとにした取り組みがあげられています。

参加者の困りごとの相談相手は、家族や友人が高くなっていますが、サロンの仲間が2割やサロンスタッフが1割の回答があります。

支援が必要な人を見つけ出し、必要な支援や機関へとつなげるための取り組みが求められます。

図 3-3-2 サロン代表者のサロン参加者の困りごとの発見や解決について

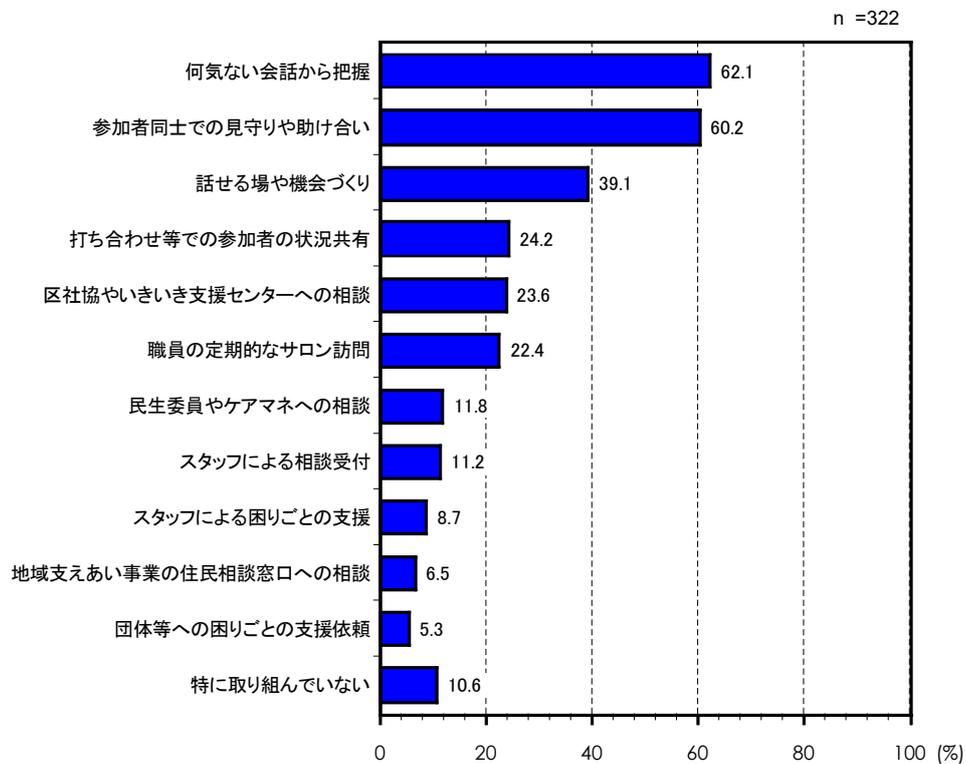
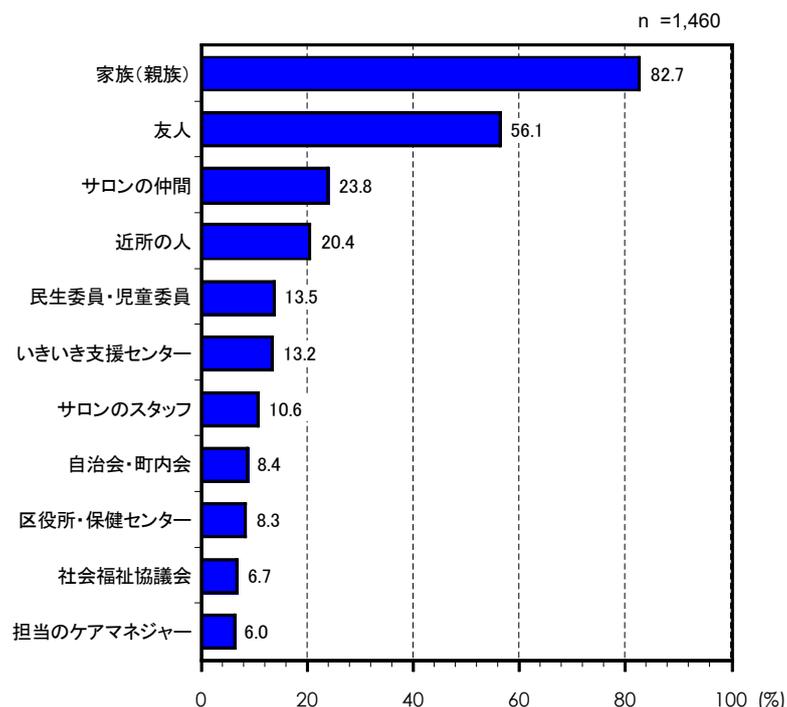


図 3-3-3 サロン参加者の相談相手



発行日：令和4年3月

発行：社会福祉法人名古屋市社会福祉協議会  
名古屋市北区清水四丁目17番1号  
名古屋市総合社会福祉会館5階